

函 福 管

令和 2 年(2020 年)11 月 30 日

民生常任委員会委員 様

保 健 福 祉 部 長

参考資料の配付について

このことについて、下記の資料を別添のとおり配付いたします。

記

1 配付資料

- (1) 市民の生活状況に関する調査の結果 概要（ひきこもりに関する実態調査）
- (2) 市民の生活状況に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）
報告書

（保健福祉部管理課）

市民の生活状況に関する調査の結果 概要 (ひきこもりに関する実態調査)

1 調査概要

(1) 調査の目的

全国的にひきこもりの長期化や高年齢化が問題となっていることを踏まえ、ひきこもり等の困難を抱える市民の実態や当事者のニーズ・課題等を明らかにし、その結果に基づき必要な人に支援が届く体制を構築することを目指す。

(2) 調査対象

ア 15歳～64歳の函館市民を対象に、単身世帯を除く本人と同居する家族を無作為抽出した。

イ 民生委員・児童委員は全員とした。

(3) 調査時期

令和2年6月30日から8月15日まで

(4) 回収結果 ※調査票の配布・回収は、ともに郵送

調査対象	調査数	回収数	回収率
15歳～64歳の函館市民(本人)	5,000	1,915	38.3%
本人と同居する家族	5,000	1,663	33.3%
民生委員・児童委員	702	589	83.9%

2 ひきこもり群等の判定

(1) 広義のひきこもり群

「Q17 ふだんどのくらい外出しますか」の問いに、下記の5～8のいずれかに回答し、かつ、その状態となって6か月以上たつと回答した者

- 5. 趣味の用事のみときだけ外出する
- 6. 近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない
- 8. 自室からほとんど出ない

ただし、次の者を除く

- ア. 身体的病気や妊娠がきっかけで、現在の状態になったと回答した者
- イ. 自宅で仕事をしているや出産・育児をしている旨を回答した者
- ウ. 現在の状況を専業主婦・主夫、家事手伝いと回答したか、普段自宅でよくしていることに「家事・育児をする」と回答した者

(2) 狭義のひきこもり群

広義のひきこもり群から「5. 趣味の用事のみときだけ外出する」を除いた者

3 調査の主な結果

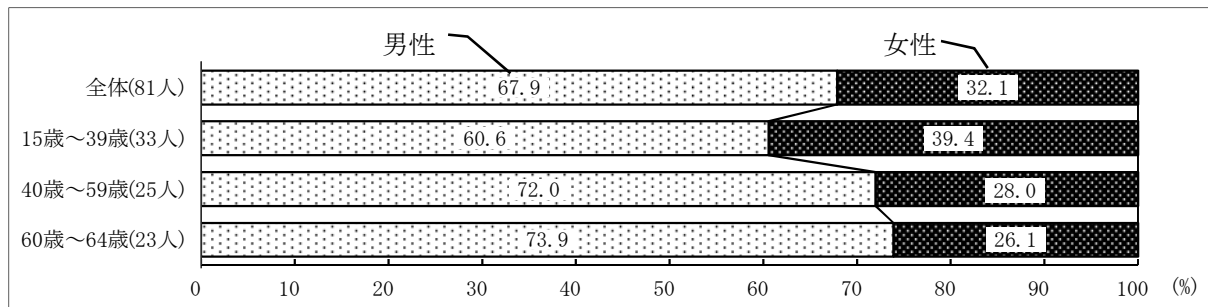
(1) 現在ひきこもり状態にある方の推計人数

今回の調査結果における広義のひきこもり群の出現率は4.23%であり、推計数は4,202人、また、狭義のひきこもり群では1.46%で1,536人であった。

(※ 調査対象である15歳～64歳までの単身世帯を除く人口は、101,943人)

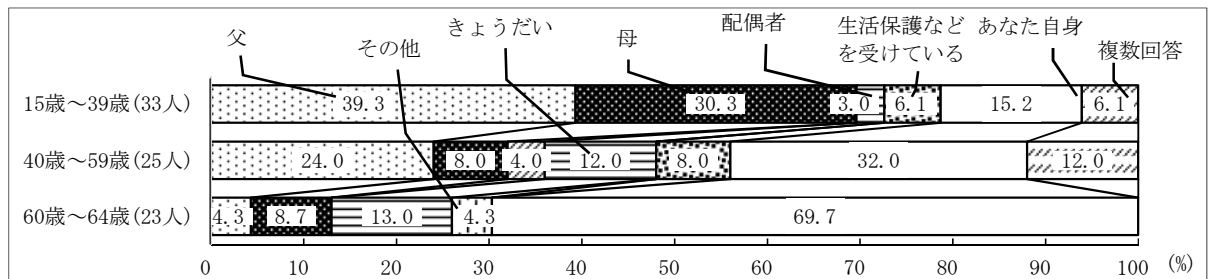
(2) 性別 (本人票 Q1)

広義のひきこもり群では男性が6割以上を占める。



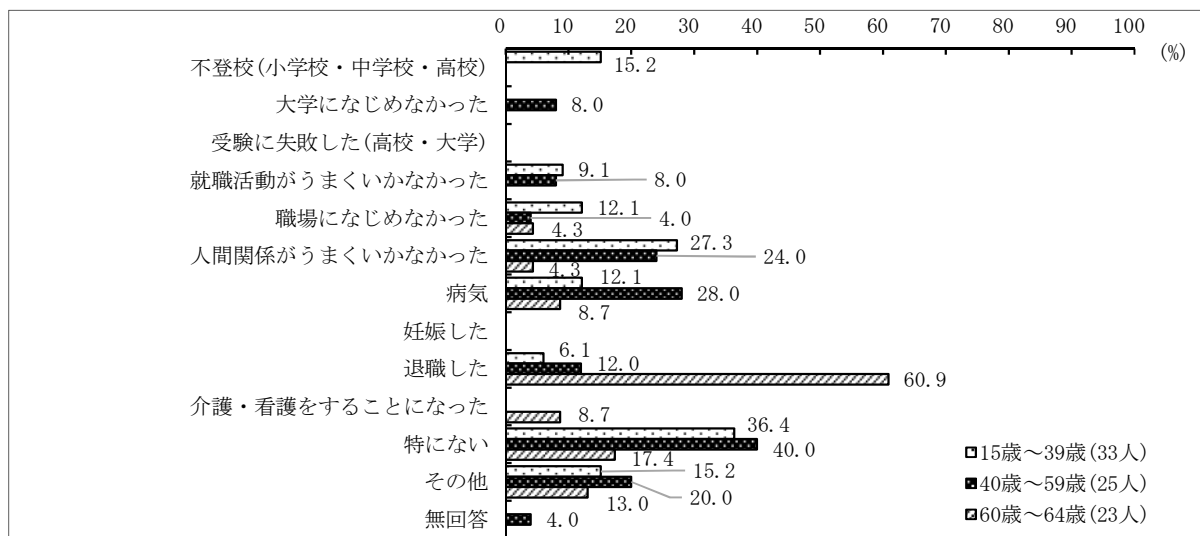
(3) 主に家の生計を立てている者 (本人票 Q5)

「父」「母」と回答した者が40歳～59歳で3割以上、60歳～64歳でも1割以上。



(4) ひきこもりになったきっかけ (本人票 Q20)

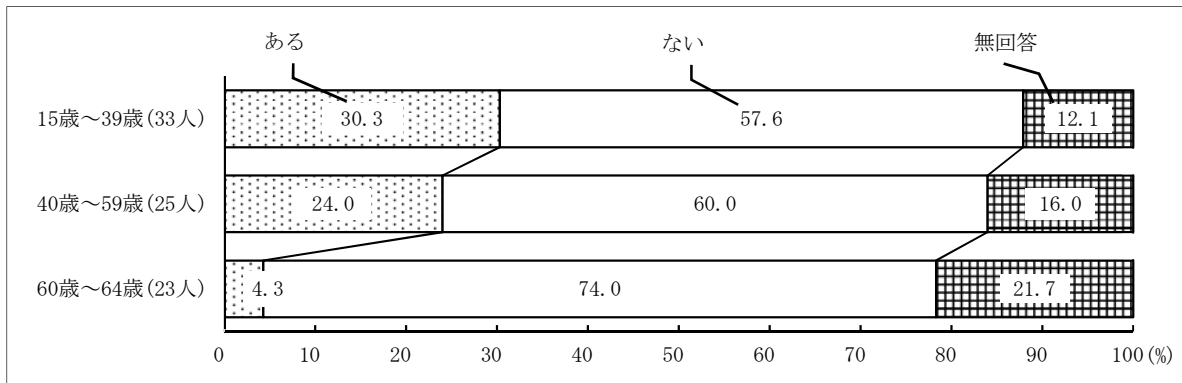
ひきこもりになったきっかけは、15歳～39歳では「人間関係がうまくいかなかったこと」「不登校」などの回答が多く、40歳～59歳では「病気」「人間関係がうまくいかなかったこと」と答えた者が多く、また、60歳～64歳の「退職したこと」をあげた者が多かった。



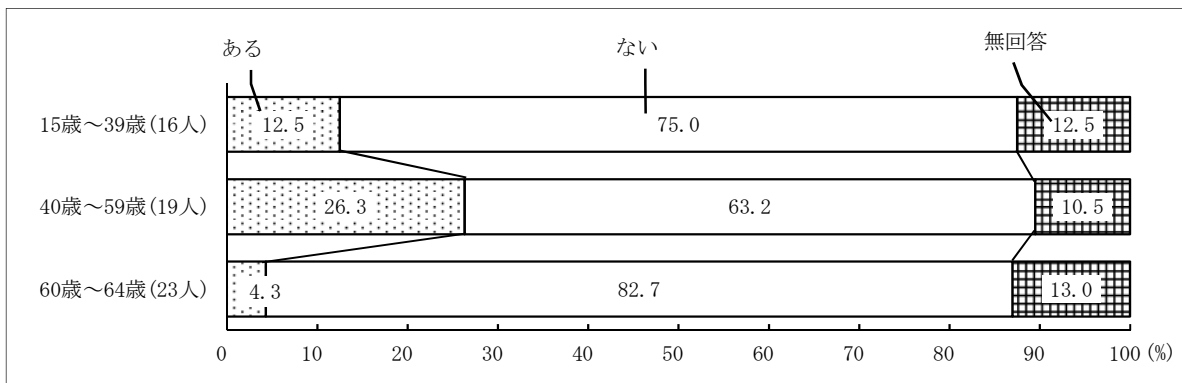
(5) 関係機関への相談

これまでの関係機関への相談の有無についてたずねたところ、各年代ともに「ない」との回答多かった。

(本人票 Q23)

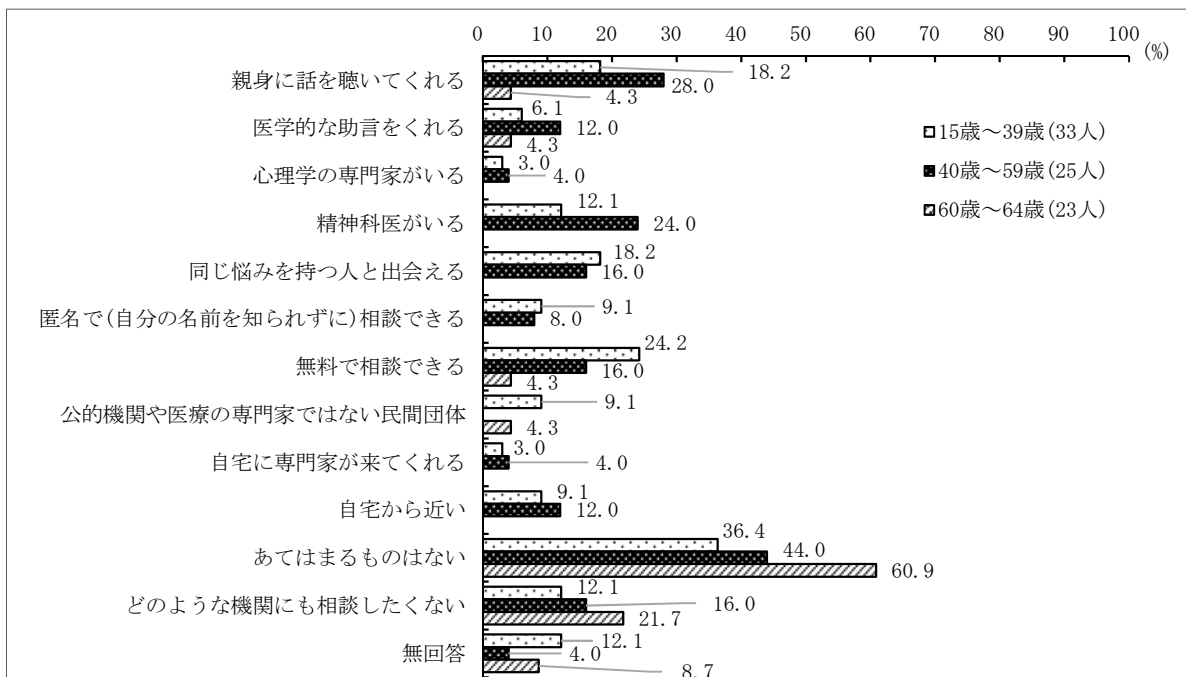


(家族票 Q15)



(6) ひきこもりの相談機関 (本人票 Q22)

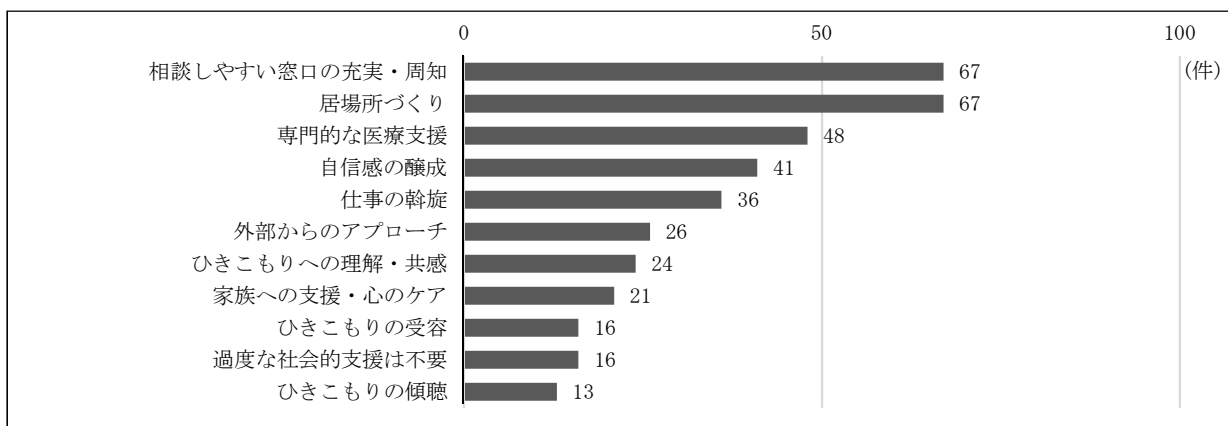
ひきこもりについて、どのような機関なら相談したいかたずねたところ「親身に話を聞いてくれる」「無料で相談できる」「精神科医がいる」などの回答が多かった。



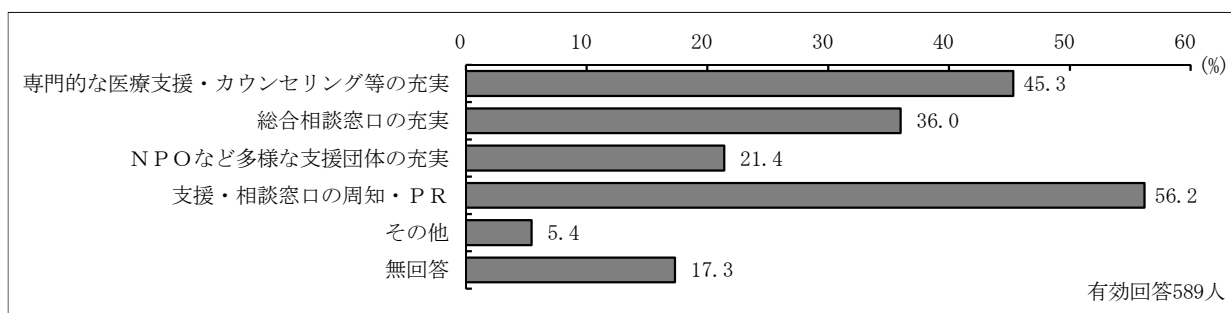
(7) ひきこもりの支援のあり方

ひきこもりの支援については、相談窓口の充実や周知、居場所づくり、専門医・専門家への相談などが必要との回答を多かつた。

(家族票 Q20)



(民生委員・児童委員票 問4)



4 調査結果から得られた課題

- (1) 40代、50代のひきこもり者のうち、父や母が主に生計を立てていると回答した割合が3割以上であることから「8050問題」への対応が早急に必要である。
- (2) ひきこもりのきっかけとなる「不登校」や「職場でのメンタルヘルス」の取り組み、定年退職後の社会参加活動の促進などの働きかけが、今後も引き続き重要である。
- (3) 本人、家族とも相談機関に相談したことがないとの回答が多かつたが、各年代を通じ、ひきこもりに関する相談を気軽に行える相談支援体制の構築や専門職による対応等が求められている。
- (4) ひきこもりの支援について、家族回答からは、相談窓口などの社会環境の体制づくりのほか、ひきこもり者が集える居場所づくりや外部からのアプローチなどもあげられており、多様な支援が求められている。
- (5) 民生委員・児童委員からの回答で、相談窓口の周知・PRを求める意見が半数以上を占めていたことから、各年代に合わせた周知方法を工夫していく必要がある。

市民の生活状況に関する調査
(ひきこもりに関する実態調査)
報告書

令和2年度
函館市

目次

I 調査の概要	
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の方法	2
(3) ひきこもり群等の判定方法について	4
II 調査結果の概要	
(1) 回答者属性	8
(2) 年齢階層別推計値	12
(3) 調査結果のまとめ	13
III 本人向けアンケート調査の結果	
(1) 基本的属性について	16
(2) 学校生活に関すること	26
(3) 就労等に関すること	33
(4) ふだんの活動に関すること	38
(5) ひきこもりの状態に関すること	40
(6) 相談機関に関すること	44
(7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること	48
(8) 自分についてあてはまること	53
(9) 悩み事の相談に関すること	69
IV 家族向けアンケート調査の結果	
(1) 調査対象者および家族の基本的属性について	74
(2) 調査対象者の学校生活に関すること	79
(3) 調査対象者の就労等に関すること	81
(4) 調査対象者のふだんの活動に関すること	82
(5) 調査対象者のひきこもりの状態に関すること	84
(6) 相談機関に関すること	88
(7) 調査対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること	91
(8) 身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの 支援のあり方について	94
V 民生委員・児童委員向けアンケート調査の結果	
(1) ひきこもり等の状態該当者について	98
(2) ひきこもり等の方への支援策	105
(3) その他、ご意見やお気づきの点について	106
各調査の調査票	108

【調査結果の留意点】

グラフを見やすくするため、一部の設問を除き、グラフの0.0%の表示を割愛しました。

I 調査の概要

I 調査の概要

(1) 調査の目的

全国的にひきこもりの長期化や高年齢化が問題となっていることを踏まえ、ひきこもり等の困難を抱える市民の実態や当事者のニーズ・課題等を明らかにし、その結果に基づき必要な人に支援が届く体制を構築することを目指す。

(2) 調査の方法

■調査項目

調査票は「15歳～64歳の函館市民（本人回答）」、「家族（家族回答）」、「民生委員・児童委員」の3種類を作成した。それぞれの調査票の調査項目を以下に示す。

調査票	調査項目	設問番号
15歳～64歳の函館市民 （本人回答）	(1) 基本的属性について (2) 学校生活に関すること (3) 就労等に関すること (4) 普段の活動に関すること (5) ひきこもりの状態に関すること (6) 相談機関に関すること (7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (8) 自分についてあてはまること (9) 悩み事の相談に関すること	Q1～Q7 Q8～Q11 Q12～Q15 Q16 Q17～Q20 Q21～Q23 Q24～Q28 Q29 Q30～Q31
上記の家族 （家族回答）	(1) 調査対象者および家族の基本的属性について (2) 調査対象者の学校生活に関すること (3) 調査対象者の就労等に関すること (4) 調査対象者の普段の活動に関すること (5) 調査対象者のひきこもりの状態に関すること (6) 相談機関に関すること (7) 調査対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (8) 身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方について	Q1～Q5 Q6～Q7 Q8 Q9～Q10 Q11～Q14 Q15～Q16 Q17～Q19 Q20
民生委員・児童委員	(1) ひきこもり等の状態該当者について (2) ひきこもり等の方への支援策 (3) その他、ご意見やお気づきの点について	問1～問3 問4 問5

■調査対象

ア 15歳～64歳の函館市民を対象に，単身世帯を除く本人5,000人と同居する家族5,000人を無作為抽出した。

イ 民生委員・児童委員702人には，全員配布とした。

■調査方法

調査票を郵送配布・郵送回収する方法で実施。

■調査時期

令和2年6月30日発送～8月15日までの回収分を集計

■回収状況

調査対象	調査数	回収数	回収率
15歳～64歳の函館市民	5,000	1,915	38.3%
上記の家族	5,000	1,663	33.3%
民生委員・児童委員	702	589	83.9%

(3) ひきこもり群等の判定方法について

ひきこもり群等の判定については、内閣府が平成 28 年 9 月に発表した「若者の生活に関する調査報告書」の定義に準拠して行った。

■ 広義のひきこもり群について

「Q17 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の 5～8 に当てはまる者

- 5. 趣味の用事の時だけ外出する
- 6. 近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない
- 8. 自室からほとんど出ない

かつ

「Q19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6 か月以上と回答した者

であって、次の 3 類型のいずれにも該当しない者。

① 「Q20 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、
「病気（病名：）」を選択し、病名に身体的病気の病名を記入した者
「妊娠した」を選択した者、
「その他（）」を選択し、（）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

② 「Q12 あなたは現在働いておられますか。」で、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」と回答した者

③ 「Q16 普段ご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。」で、「家事・育児をする」と回答した者

■ 狭義のひきこもり群について

上記の「広義のひきこもり群」から「5. 趣味の用事の時だけ外出する」を除いた者を「狭義のひきこもり群」とする。

■親和群について

親和群とは、「ひきこもりを共感・理解し、ともすると閉じこもりたいと思うことがある人たち」であり、この人たちの抽出については、以下の①・②に該当する者から「広義のひきこもり群」を除いた者とした。

- ① Q29 13～16 の4項目すべてに「1. はい」と答えた者
- ② Q29 13～16 の4項目のうち、3項目に「1. はい」と答え、かつ、残りの1項目を「2. どちらかといえば はい」と答えた者

Q29 次にあげられることについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。(○は各項目につき、ひとつだけ)

13. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

Ⅱ 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

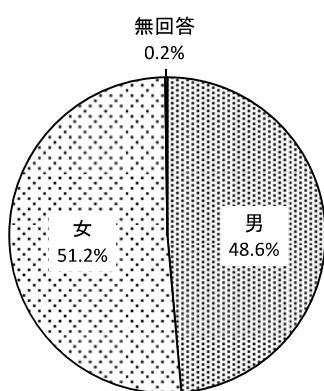
(1) 回答者属性

■ 回答者属性・本人回答

本人向け調査票の回答者 1,915 人のうち、性別は男性が 48.6%，女性が 51.2% となっている。年齢別は 60 歳～64 歳が 21.7% とやや多く、20 歳～24 歳が 4.7% とやや少ないが、各世代からの回答が得られた。広義のひきこもり群は 4.2%，親和群は 3.0% という結果が得られた。

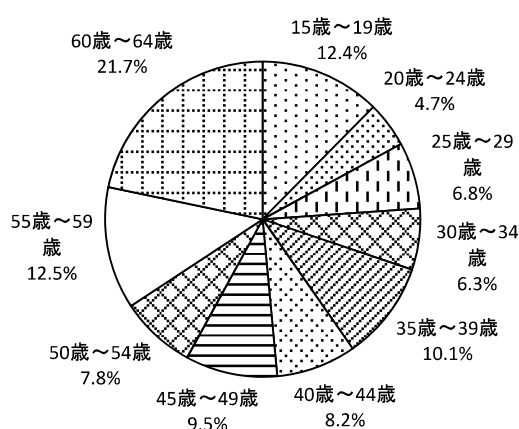
【性別】

(全体:1,915人)



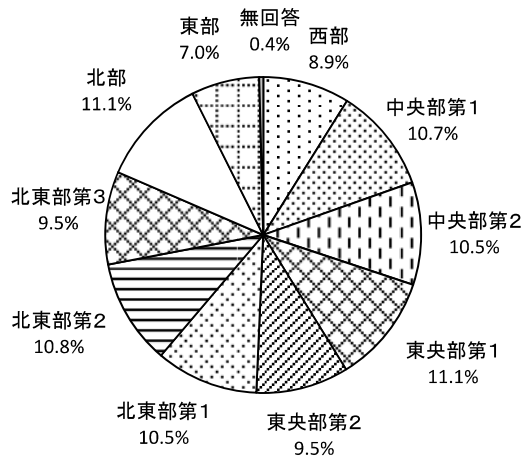
【年齢】

(全体:1,915人)



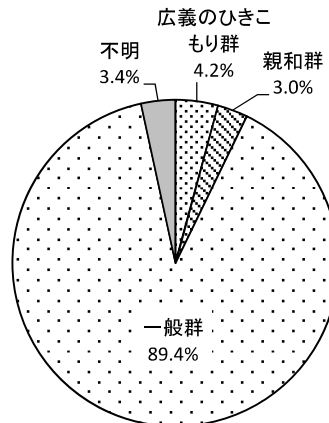
【地区別】

(全体:1,915人)



【ひきこもり判定】

(全体:1,915人)



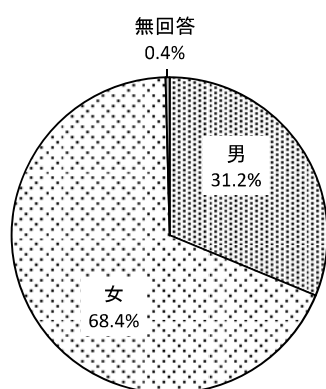
■回答者属性・家族回答

家族向け調査票の回答者 1,663 人のうち、回答者の性別は男性が 31.2%、女性が 68.4%となっている。

調査対象者の年齢別は 60 歳～64 歳が 24.6%と多く、20 歳～24 歳が 3.9%とやや少ないが、各世代からの回答が得られた。広義のひきこもり群は 3.5%という結果が得られた（家族回答では親和群の選別はできないため、広義のひきこもり群以外を一括で一般群とした）。

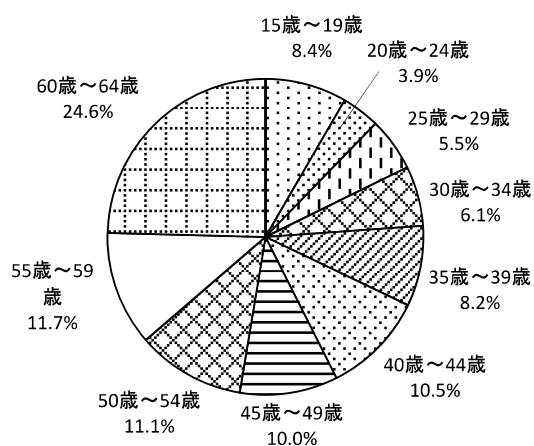
【性別】

(全体:1,663人)



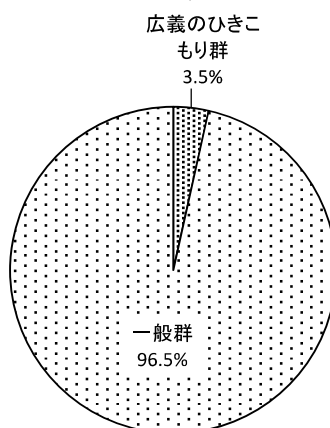
【年齢】

(全体:1,663人)



【ひきこもり判定】

(全体:1,663人)

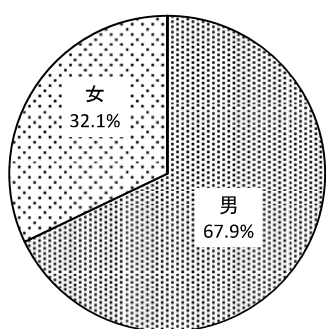


■ひきこもり群

本人回答によると、広義のひきこもり群のうち、男性が67.9%、女性が32.1%となっている。年齢別は60歳～64歳が28.5%と多いが、どの世代にも幅広く分布している。家族回答によると、広義のひきこもり群のうち、年齢別は60歳～64歳が39.8%と多いが、どの世代にも幅広く分布している。

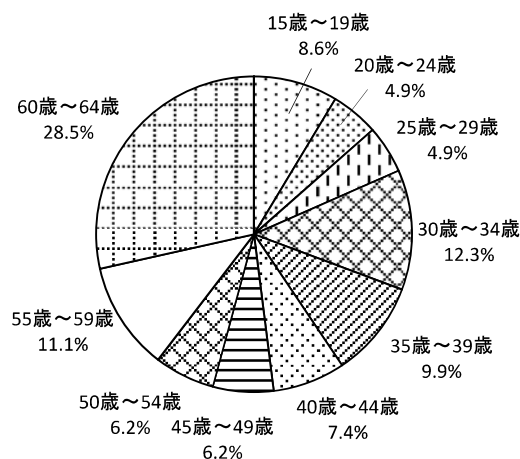
【性別】

(広義のひきこもり群・本人回答:81人)



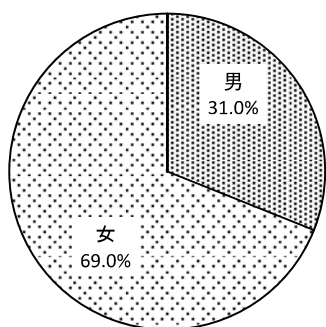
【年齢】

(広義のひきこもり群・本人回答:81人)



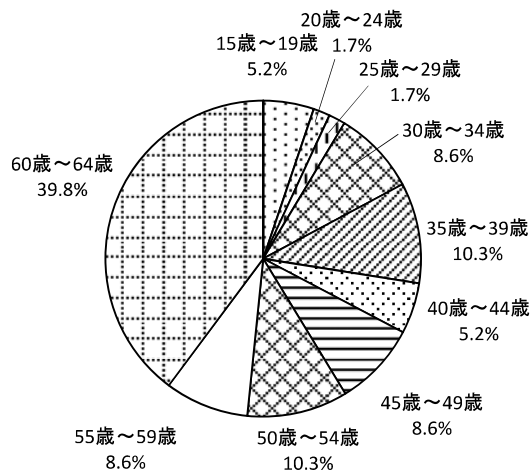
【性別（回答者）】

(広義のひきこもり群・家族回答:58人)



【年齢】

(広義のひきこもり群・家族回答:58人)

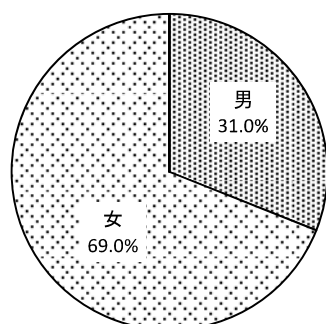


■ 親和群

本人回答によると、親和群のうち、男性が 31.0%、女性が 69.0%となっている。年齢別は 35 歳～39 歳が 19.1%とやや多く、15 歳～19 歳が 17.2%と続くが、どの世代にも幅広く分布している。

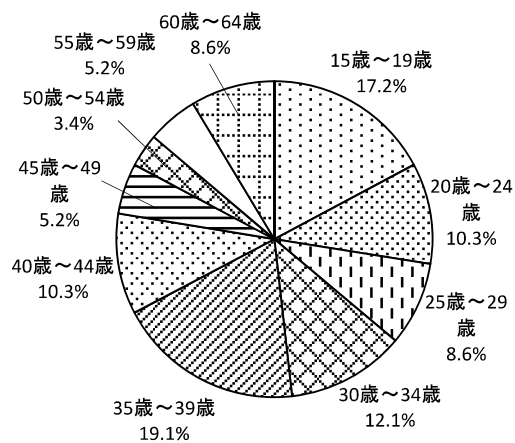
【性別】

(親和群・本人回答:58人)



【年齢】

(親和群・本人回答:58人)



(2) 年齢階層別推計値

○函館市全体におけるひきこもり状態にある方の推計人数

広義のひきこもり群	4,202人	}	内訳	15歳～39歳の方…1,824人
				40歳～59歳の方…1,692人
				60歳～64歳の方…686人
狭義のひきこもり群	1,536人	}	内訳	15歳～39歳の方…693人
				40歳～59歳の方…694人
				60歳～64歳の方…149人

年齢区分	有効回答数 (人)				有効回答数に占める割合 (%)		
	全体	広義のひきこもり群		親和群	広義のひきこもり群		親和群
		狭義のひきこもり群			狭義のひきこもり群		
15歳～19歳	237	7	4	10	2.95	1.69	4.22
20歳～24歳	90	4	2	6	4.44	2.22	6.67
25歳～29歳	131	4	1	5	3.05	0.76	3.82
30歳～34歳	120	10	3	7	8.33	2.50	5.83
35歳～39歳	194	8	3	11	4.12	1.55	5.67
小計	772	33	13	39	4.27	1.68	5.05
40歳～44歳	157	6	1	6	3.82	0.64	3.82
45歳～49歳	181	5	3	3	2.76	1.66	1.66
50歳～54歳	149	5	3	2	3.36	2.01	1.34
55歳～59歳	240	9	3	3	3.75	1.25	1.25
小計	727	25	10	14	3.44	1.38	1.93
60歳～64歳	416	23	5	5	5.53	1.20	1.20
総計	1,915	81	28	58	4.23	1.46	3.03

年齢区分	住民基本台帳人口(R2.4末) (単身世帯を除く)	函館市の推計値 (人)		
		広義のひきこもり群 推計値	狭義のひきこもり群 推計値	親和群 推計値
20歳～24歳	5,953	264	132	396
25歳～29歳	6,269	191	47	239
30歳～34歳	8,162	680	204	476
35歳～39歳	10,293	424	159	583
小計	39,667	1,824	693	2,073
40歳～44歳	12,361	472	78	472
45歳～49歳	13,949	385	231	231
50歳～54歳	11,935	400	240	160
55歳～59歳	11,618	435	145	145
小計	49,863	1,692	694	1,008
60歳～64歳	12,413	686	149	149
総計	101,943	4,202	1,536	3,230

(3) 調査結果のまとめ

■本人向けアンケート調査

- ・同居家族は、広義のひきこもり群の40歳～59歳の年代で「配偶者」の同居と同程度に「父親」「母親」との同居が多かったことから、高齢の親と同居するひきこもり者が一定程度存在することが確認された。【Q5】
- ・小中学校の頃の家庭での経験をたずねた設問では、広義のひきこもり群の40歳～59歳では、「我慢をすることが多かった」「親と自分との関係が良くなかった」との回答が多かった。【Q11】
- ・ひきこもりになったきっかけは、15歳～39歳では「人間関係がうまくいかなかったこと」「不登校」などの回答が多く、40歳～59歳では「病気」「人間関係がうまくいかなかったこと」と答えた者が多く、また、60歳～64歳の「退職したこと」をあげた者が多かったことから、学校、職場等での取り組みが重要である。【Q20】
- ・ひきこもりの状態について関係機関に相談したいか聞いたところ、15歳～59歳までの年代で「非常に思う」「思う」「少し思う」と答えた者の合計は、約4割となっており、どのような機関に相談したいかの問いには「親身に話を聞いてくれる」「無料で相談できる」「精神科医がいる」などと答えた者がいた一方、60歳～64歳では、相談したいと「思わない」が多数を占めた。【Q21】
また、相談したい関係機関も「あてはまるものがない」という回答が多かったことから気軽に相談できる体制づくりが必要と思われる。【Q22】
- ・ひきこもりからの立ち直りに向けての自由回答では、人間関係のストレスの緩和や、うつ病等の適切な治療、転職や進学などの環境の変化などが役立ったとの回答が多かった。【Q28 自由回答】
- ・悩みの相談相手について、「親」「友人・知人」「配偶者」などが多い一方、「誰にも相談しない」という人も多く見られた。【Q31】

■家族向けアンケート調査

- ・ひきこもり群を判定する設問では、家族回答の方が本人回答よりも狭義のひきこもりに該当する者が多くなっている。【Q10】
- ・ひきこもりになったきっかけの家族回答では、15歳～39歳では「病気」が最も多く、「人間関係がうまくいかなかったこと」「不登校」が続き、本人回答と差が見られた。【Q13】
- ・家族にひきこもり者本人が関係機関への相談したことがあるかたずねたところ、60歳～64歳では「ない」と回答した者が8割を超えている。【Q14】
- ・本人が相談したことがある関係機関は、ハローワーク・若者サポートステーションなどの就労支援機関、病院・診療所の回答が全年齢層で多かった。【Q14-1】【Q15-1】

- ・ひきこもりの支援のあり方についての自由回答では、マスコミを利用した相談窓口の周知や登校できない子らの「居場所づくり」、病院や福祉サービス事業所等の「専門医・専門家への相談体制」「ひきこもりの傾聴」や「受容」など多様な意見が寄せられた。【Q20 自由回答】

■ 民生委員・児童委員回答より

- ・50歳代のひきこもりの人の家族構成を見ると、母親と暮らしている人の割合が多かった。【問3】
- ・ひきこもりに必要な支援策として「支援・相談窓口の周知・PR」を求める回答が多く、一方、自由回答からは、個人情報の問題等もあり、委員としての限界があることが読み取れた。【問4】
- ・その他の回答として「関係機関の連携・相談窓口」はもとより「家族内での対応」を挙げる回答が多かった。【問5】

■ 調査結果から得られた課題

- (1) 40代、50代のひきこもり者のうち、父や母が主に生計を立てていると回答した割合が3割以上であることから「8050問題」への対応が早急に必要である。
- (2) ひきこもりのきっかけとなる「不登校」や「職場でのメンタルヘルス」の取り組み、定年退職後の社会参加活動の促進などの働きかけが、今後も引き続き重要である。
- (3) 本人、家族とも相談機関に相談したことがないとの回答が多かったが、各年代を通じ、ひきこもりに関する相談を気軽に行える相談支援体制の構築や専門職による対応等が求められている。
- (4) ひきこもりの支援について、家族回答からは、相談窓口などの社会環境の体制づくりのほか、ひきこもり者が集える居場所づくりや外部からのアプローチなどもあげられており、多様な支援が求められている。
- (5) 民生委員・児童委員からの回答で、相談窓口の周知・PRを求める意見が半数以上を占めていたことから、各年代に合わせた周知方法を工夫していく必要がある。

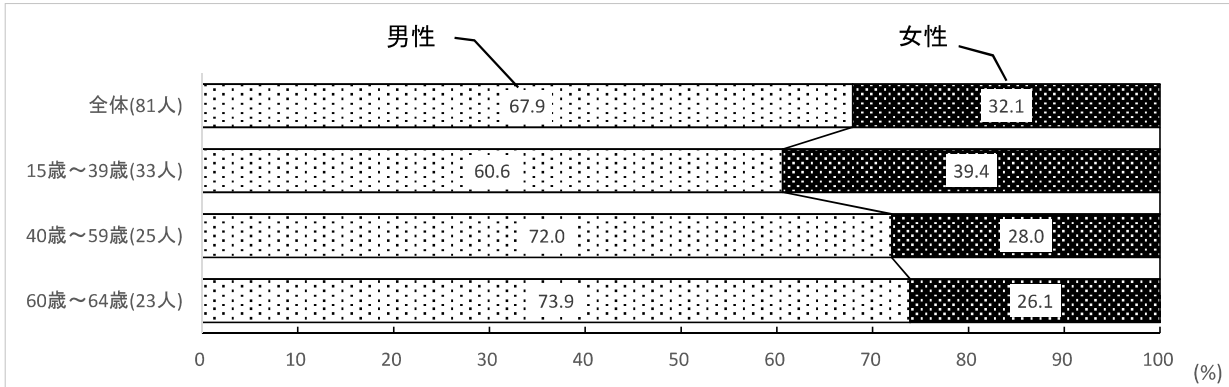
Ⅲ 本人向けアンケート調査の結果

Ⅲ 本人向けアンケート調査の結果

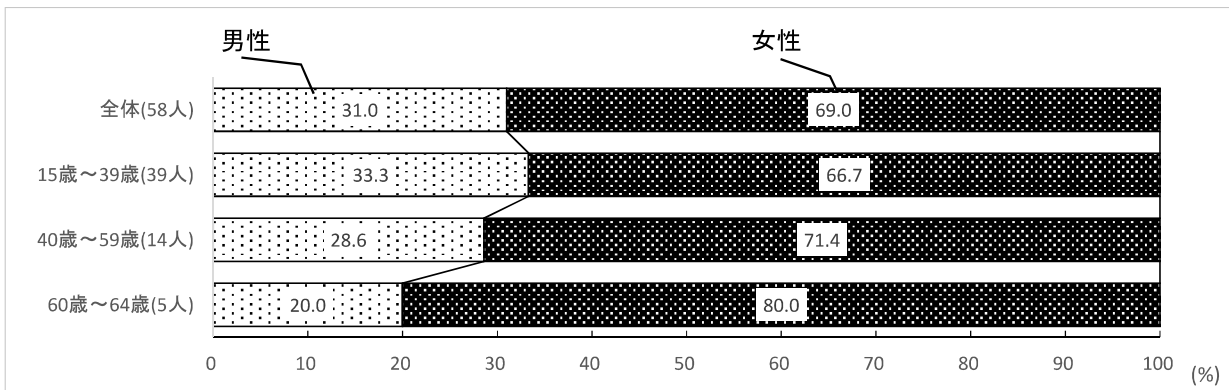
(1) 基本的属性について

Q1 あなたの性別をお答えください。(○はひとつだけ)

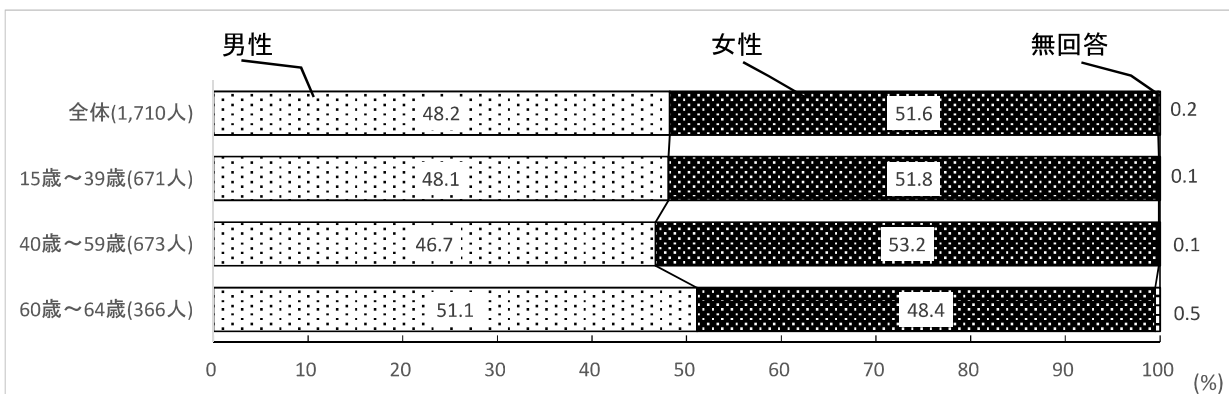
広義のひきこもり群



親和群



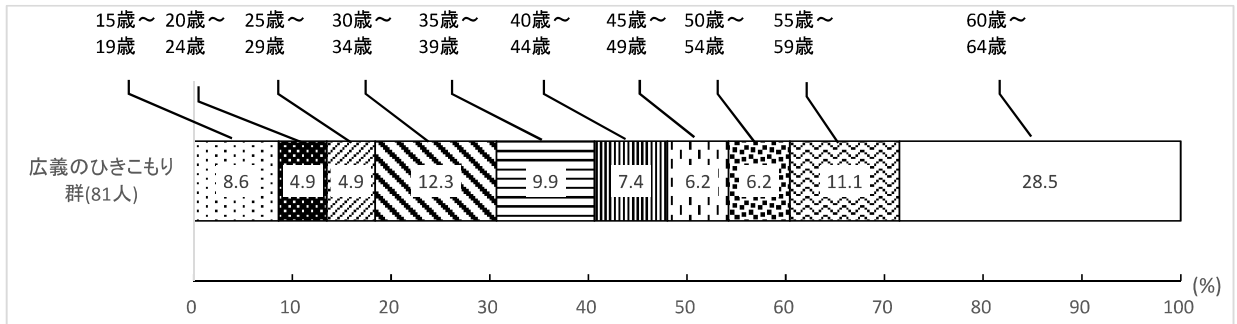
一般群



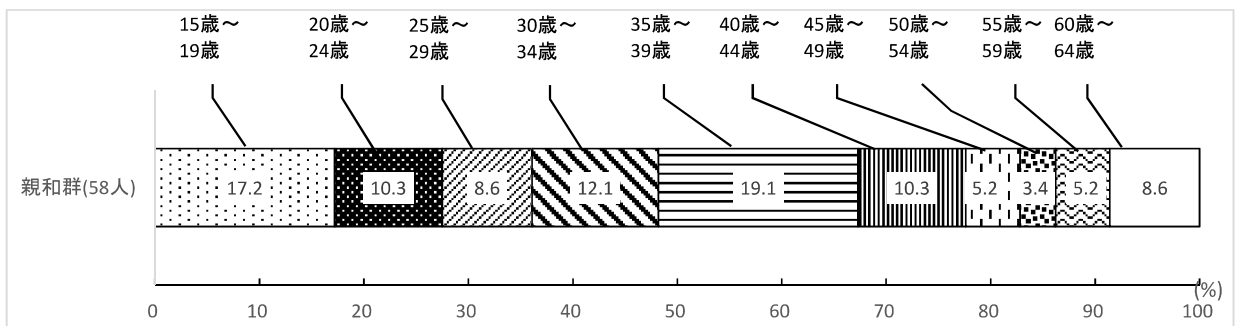
全体で見ると、広義のひきこもり群では男性が67.9%と女性より多い。

Q2 あなたの年齢(令和2年4月1日現在)をお答えください。(〇はひとつだけ)

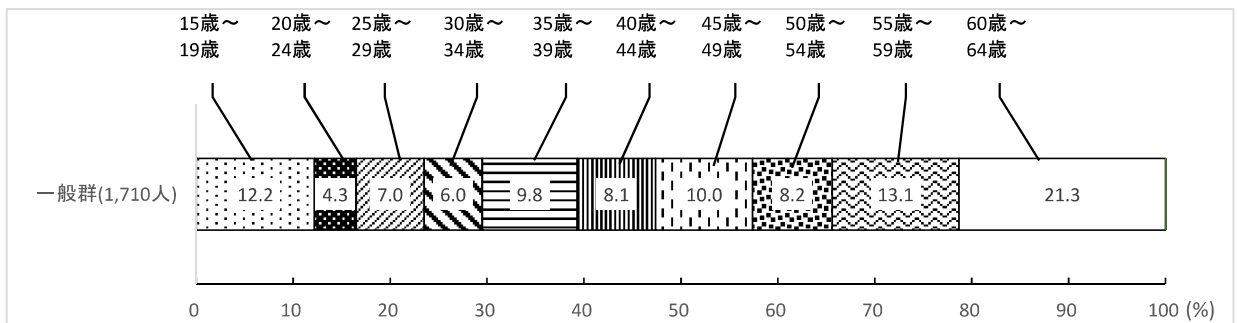
広義のひきこもり群



親和群



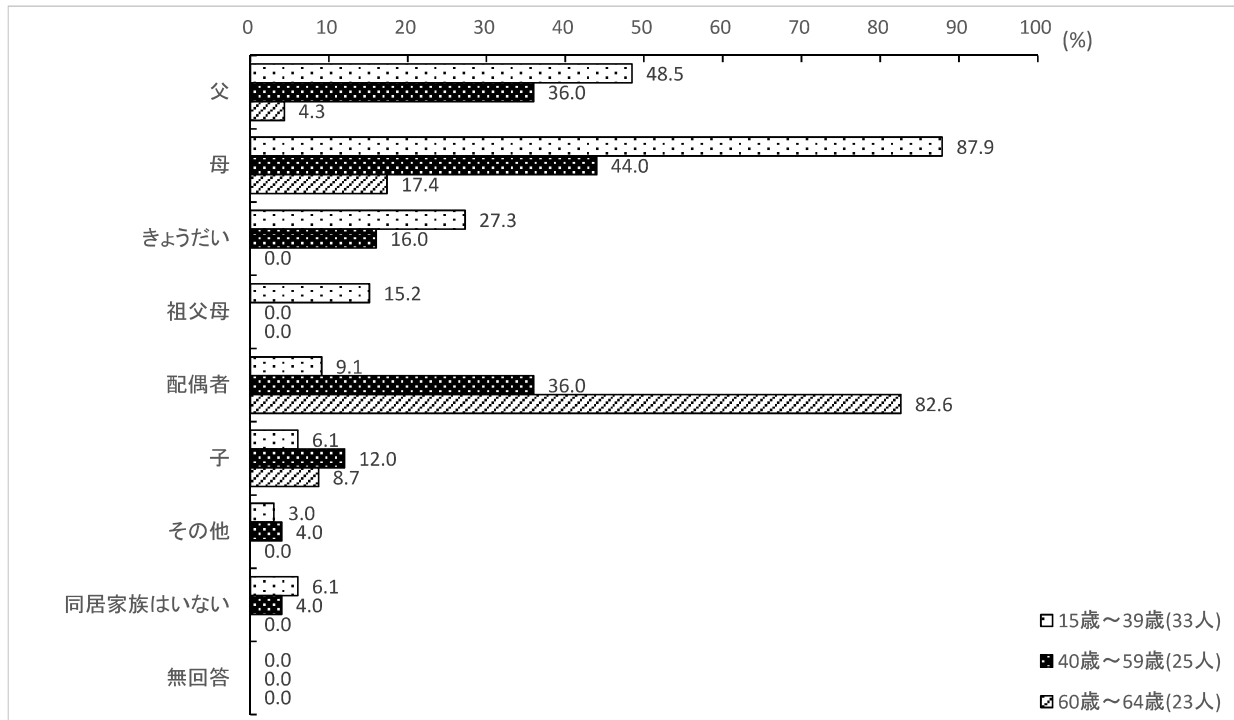
一般群



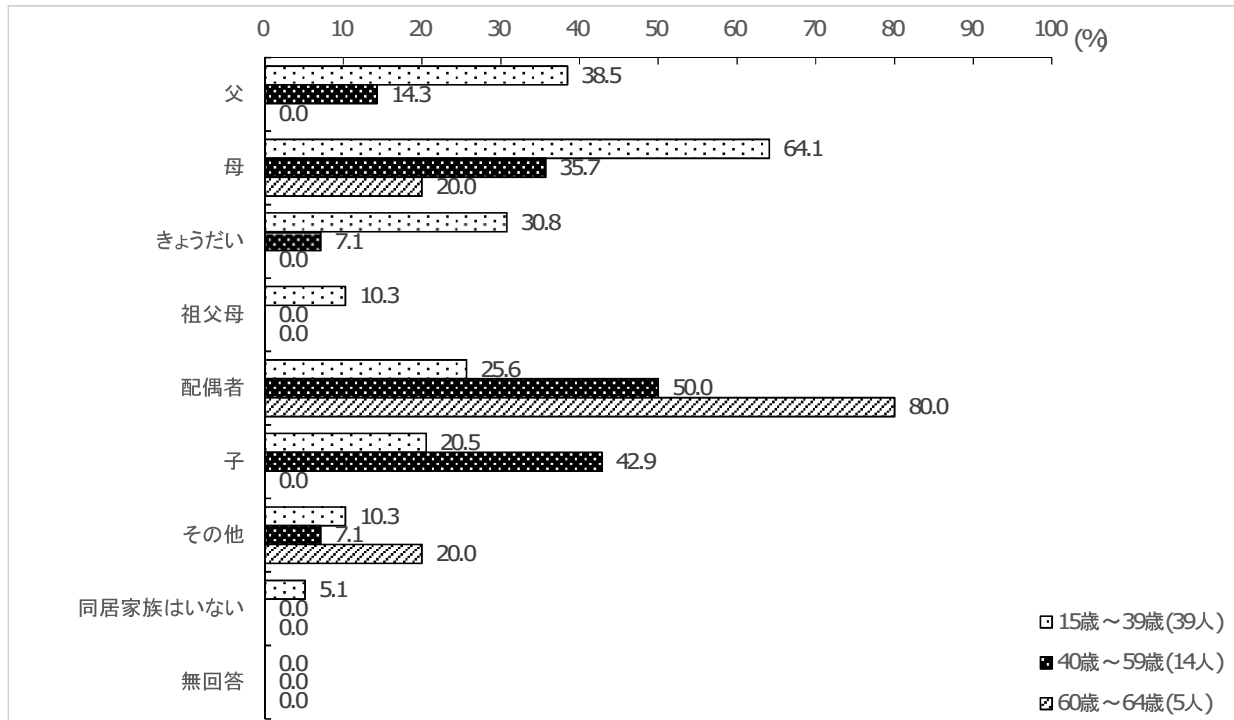
広義のひきこもり群では60歳～64歳が28.5%と一番多く、親和群では35歳～39歳が19.1%で一番多かった。

Q3 現在、あなたと同居している方に○をつけてください。(○はいくつでも)

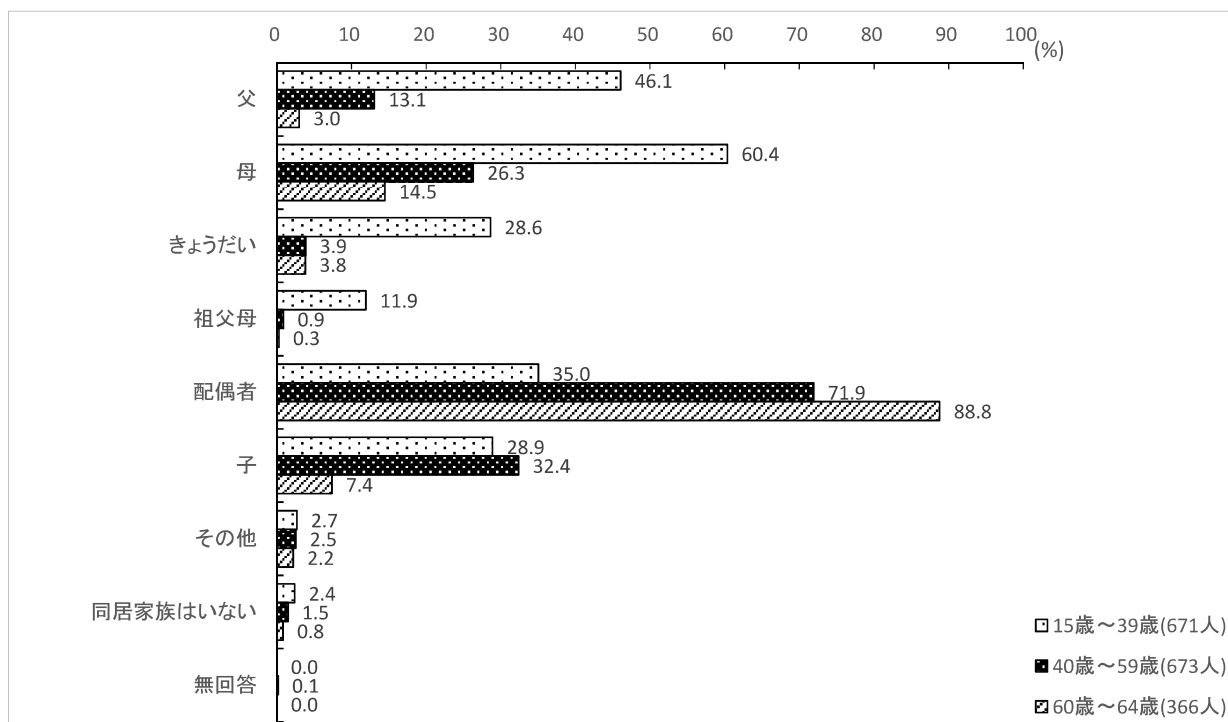
広義のひきこもり群



親和群



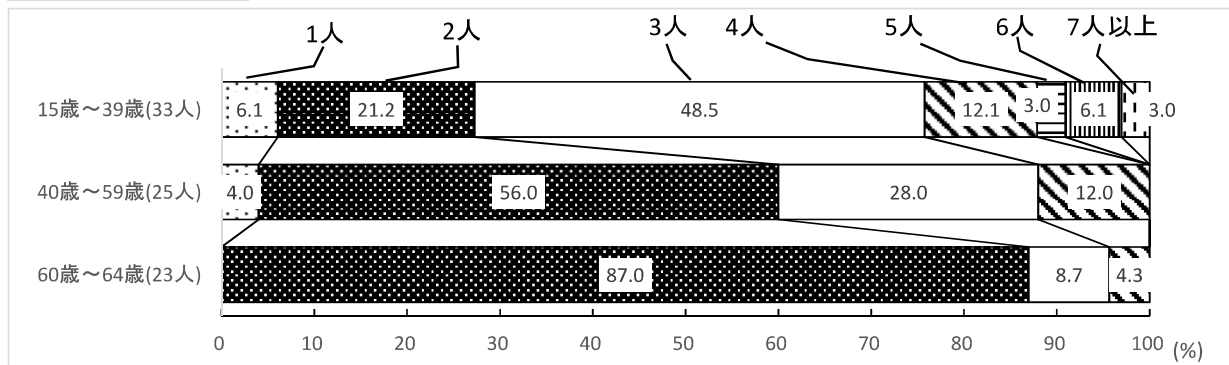
一般群



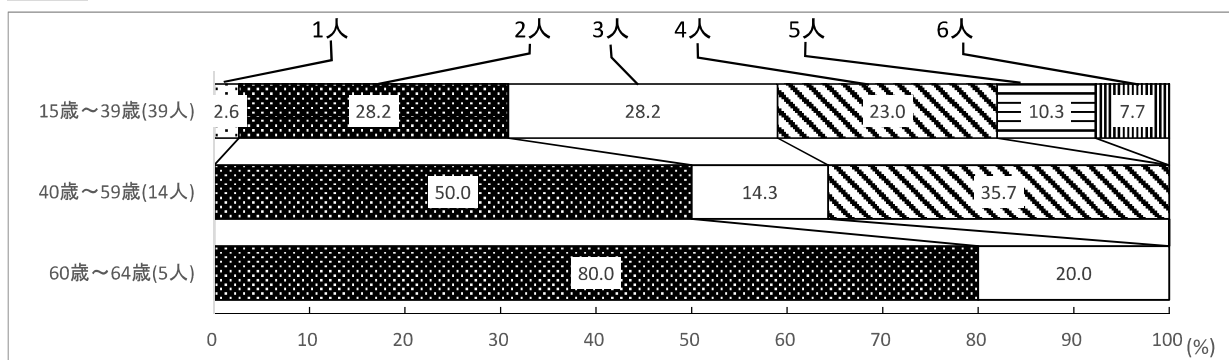
広義のひきこもり群では15歳～39歳で母(87.9%)、父(48.5%)との同居が多くなっている。40歳～59歳では配偶者の割合が36.0%と増加するが、母(44.0%)、父(36.0%)との同居も依然多い。60歳～64歳になると配偶者(82.6%)が一番多くなる。

**Q4 現在、同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)**

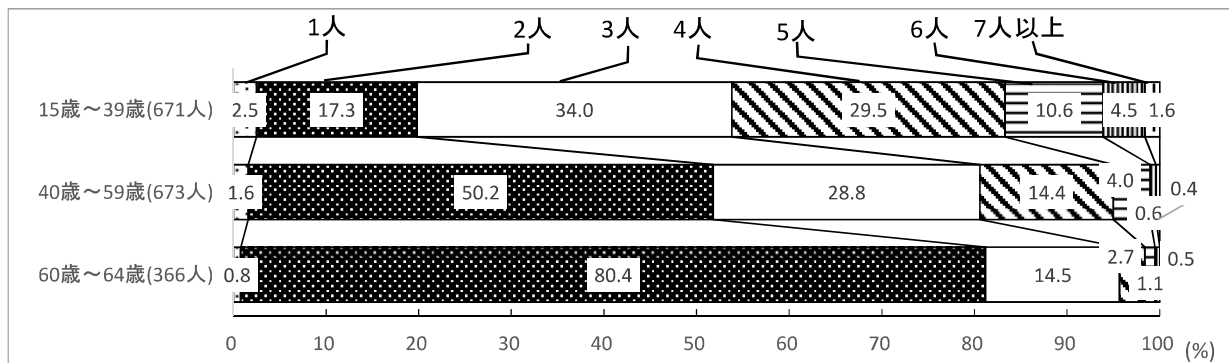
広義のひきこもり群



親和群



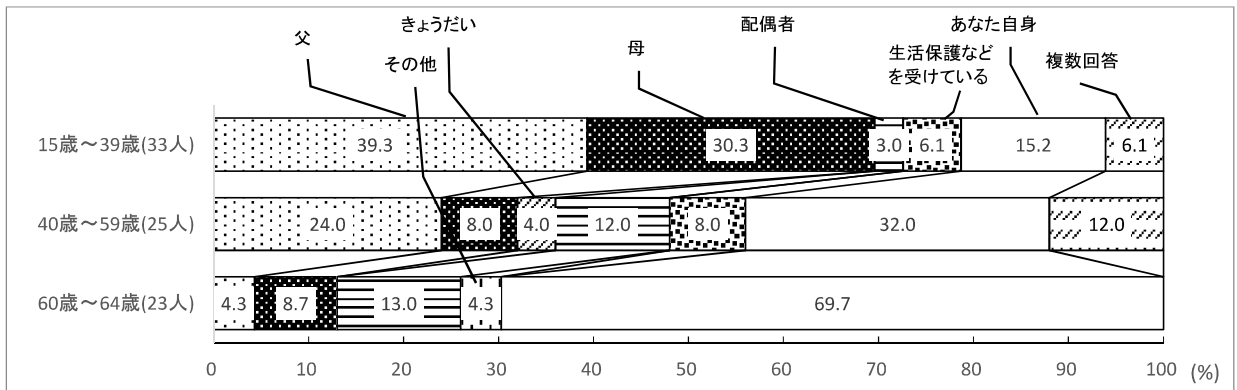
一般群



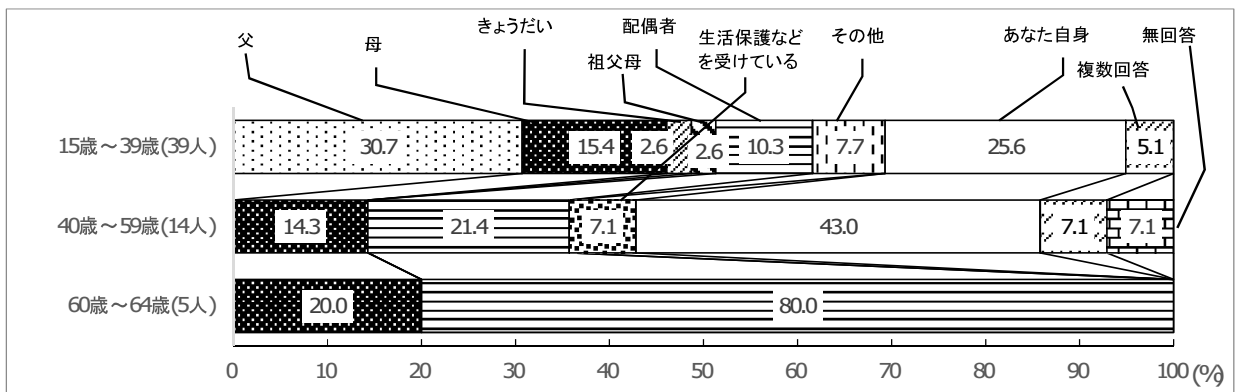
全体で見ると、広義のひきこもり群、親和群、一般群共に4人以下となる回答が80%を超えている。広義のひきこもり群では、60歳～64歳が「2人」という回答が87.0%と最も多い。すべてのグループにおいて、高齢になるにつれ同居人数が2人の割合が増えている。

Q5 あなたの家の生計を立てているのは、主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしていただいている人をお答えください。(〇はひとつだけ)

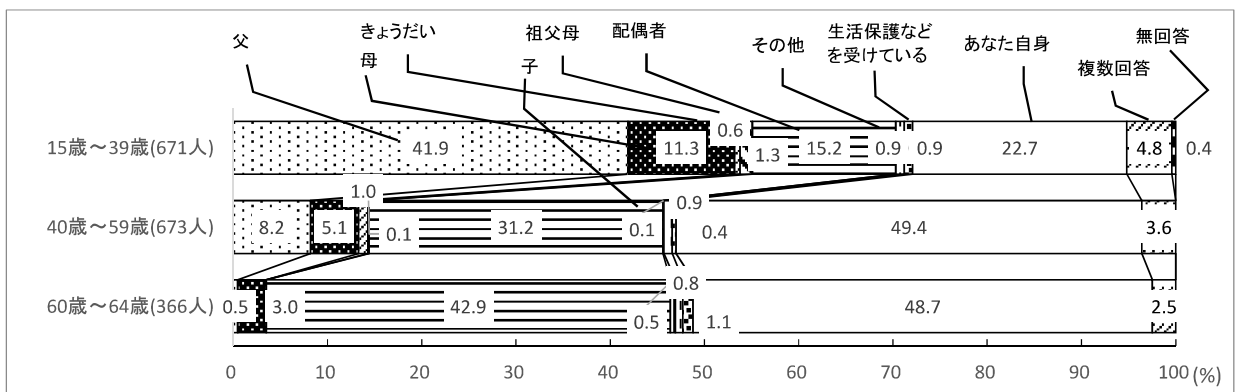
広義のひきこもり群



親和群



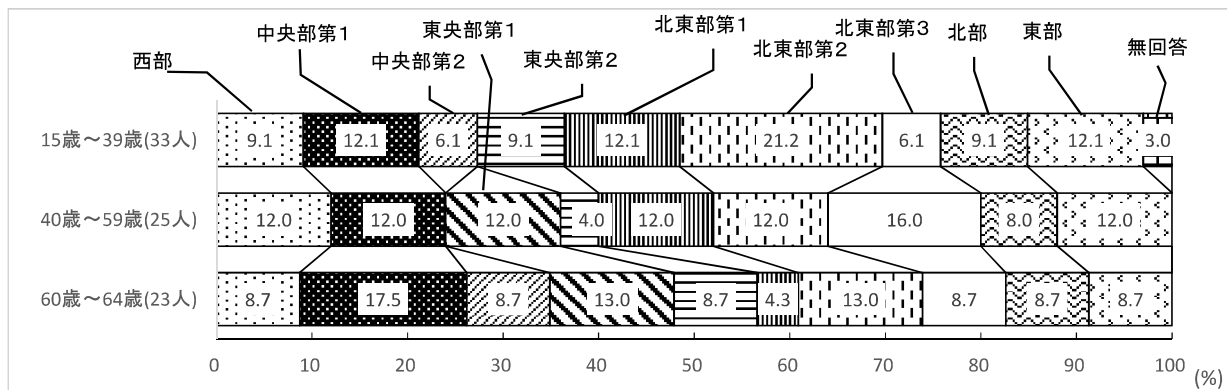
一般群



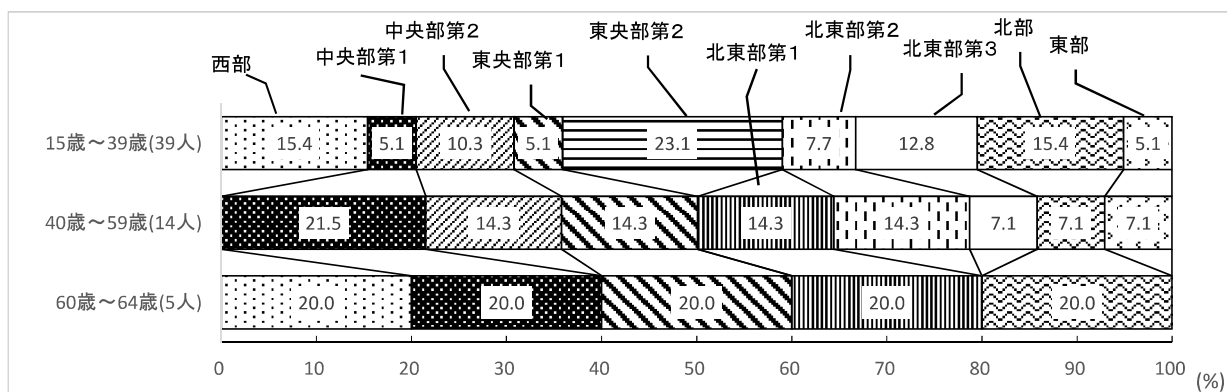
広義のひきこもり群では、主に家の生計を立てている者として、「父」「母」と回答した者が3割以上、60歳～64歳でも1割以上いた。

Q6 あなたがお住まいの町名に○をつけてください。(○はひとつだけ)

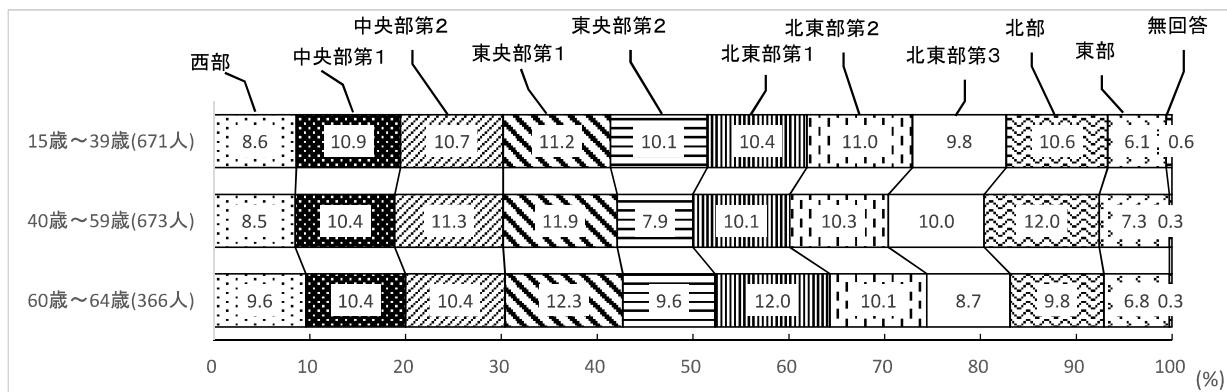
広義のひきこもり群



親和群



一般群



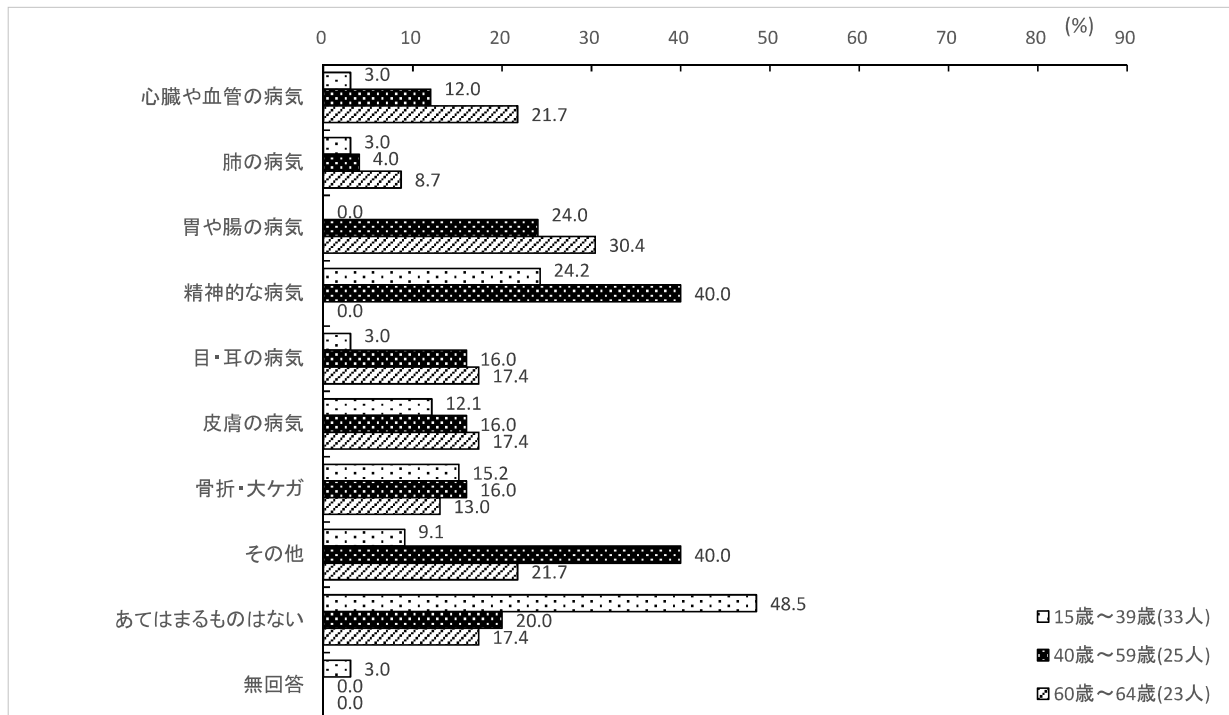
調査票の配布は、一般群の回収率の分布状況から見てわかるとおり、地区別のバランスを考慮している。この中で、広義のひきこもり群の出現傾向として、北東部第2の15歳～39歳の割合(21.2%)が最も多い結果となった。

■函館市内地区分類

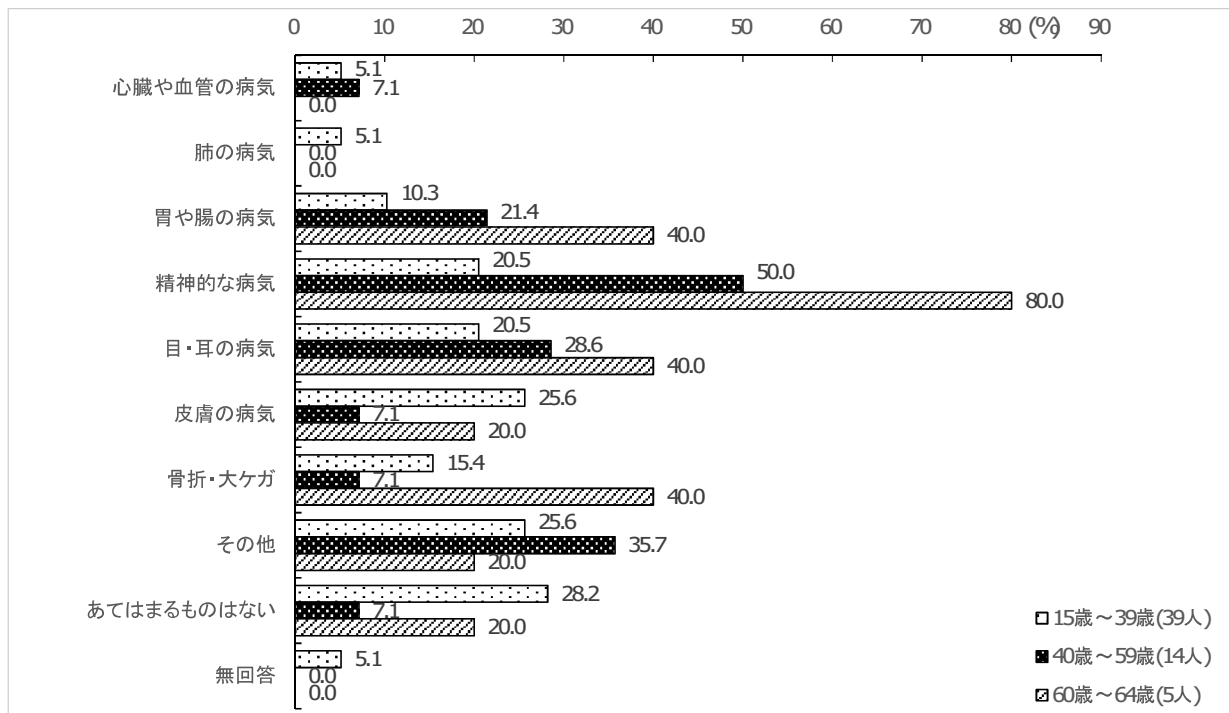
1. 西 部	入舟町, 船見町, 弥生町, 弁天町, 大町, 末広町, 元町, 青柳町 谷地頭町, 住吉町, 宝来町, 東川町, 豊川町, 大手町, 栄町 旭町, 東雲町, 大森町
2. 中央部第1	松風町, 若松町, 千歳町, 新川町, 上新川町, 海岸町, 大縄町 松川町, 万代町, 中島町, 千代台町, 堀川町, 高盛町 宇賀浦町, 日乃出町, 的場町, 金堀町, 広野町
3. 中央部第2	大川町, 田家町, 白鳥町, 八幡町, 宮前町, 時任町, 杉並町 本町, 梁川町, 五稜郭町, 柳町, 松陰町, 人見町, 乃木町 柏木町
4. 東央部第1	川原町, 深堀町, 駒場町, 湯浜町, 湯川町1～3丁目 花園町, 日吉町1～4丁目
5. 東央部第2	戸倉町, 榎本町, 上野町, 高丘町, 滝沢町, 見晴町, 鈴蘭丘町 上湯川町, 銅山町, 旭岡町, 西旭岡町1～3丁目, 鱒川町 寅沢町, 三森町, 紅葉山町, 庵原町, 亀尾町, 米原町, 東畑町 鉄山町, 蛾眉野町, 根崎町, 高松町, 志海苔町, 瀬戸川町 赤坂町, 銭亀町, 中野町, 新湊町, 石倉町, 古川町, 豊原町 石崎町, 鶴野町, 白石町
6. 北東部第1	富岡町1～3丁目, 中道1～2丁目, 鍛冶1～2丁目
7. 北東部第2	美原1～5丁目, 赤川1丁目, 赤川町, 亀田中野町 北美原1～3丁目, 石川町, 昭和1～4丁目
8. 北東部第3	山の手1～3丁目, 本通1～4丁目, 陣川1～2丁目, 陣川町 神山1～3丁目, 神山町, 東山1～3丁目, 東山町 亀田大森町, 水元町
9. 北 部	浅野町, 吉川町, 北浜町, 港町1～3丁目, 追分町 桔梗1～5丁目, 桔梗町, 亀田町, 西桔梗町, 昭和町 亀田本町, 亀田港町
10. 東 部	小安町, 小安山町, 釜谷町, 汐首町, 瀬田来町, 弁才町, 泊町 館町, 浜町, 新二見町, 原木町, 丸山町, 日浦町, 吉畑町 豊浦町, 大濶町, 中浜町, 女那川町, 川上町, 日和山町 高岱町, 日ノ浜町, 古武井町, 恵山町, 柏野町, 御崎町 恵山岬町, 元村町, 富浦町, 島泊町, 新恵山町, 絵紙山町 新八幡町, 新浜町, 銚子町, 古部町, 木直町, 尾札部町 川汲町, 安浦町, 臼尻町, 豊崎町, 大船町, 双見町, 岩戸町

Q7 これまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○をつけてください。(○はいくつでも)

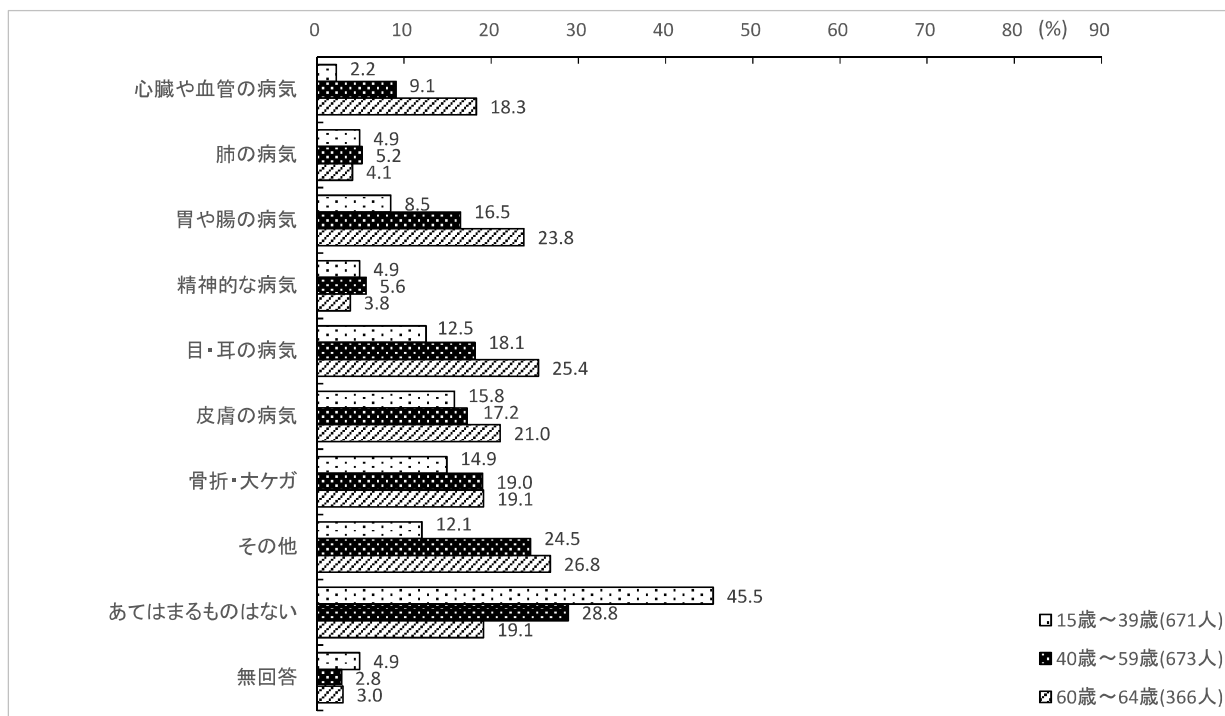
広義のひきこもり群



親和群



一般群

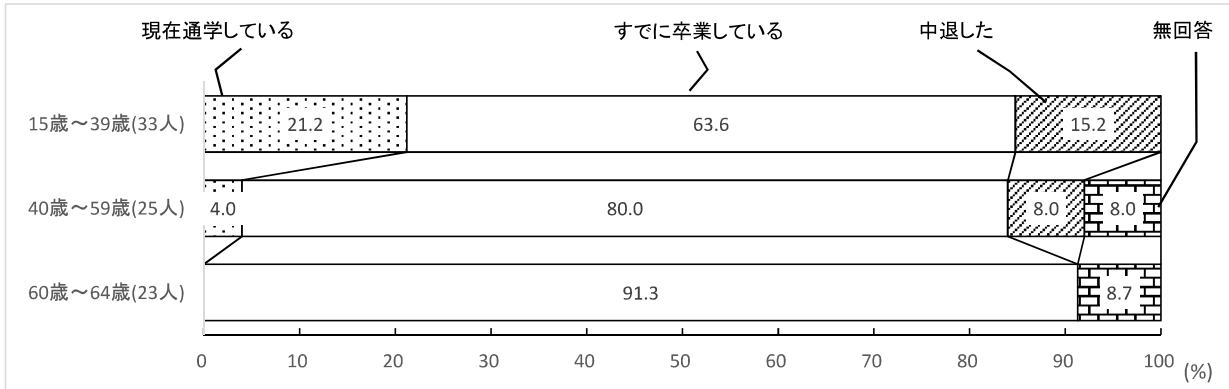


病気やけがについては広義のひきこもり群で40歳～59歳の精神的な病気が最も多かった(40.0%)。

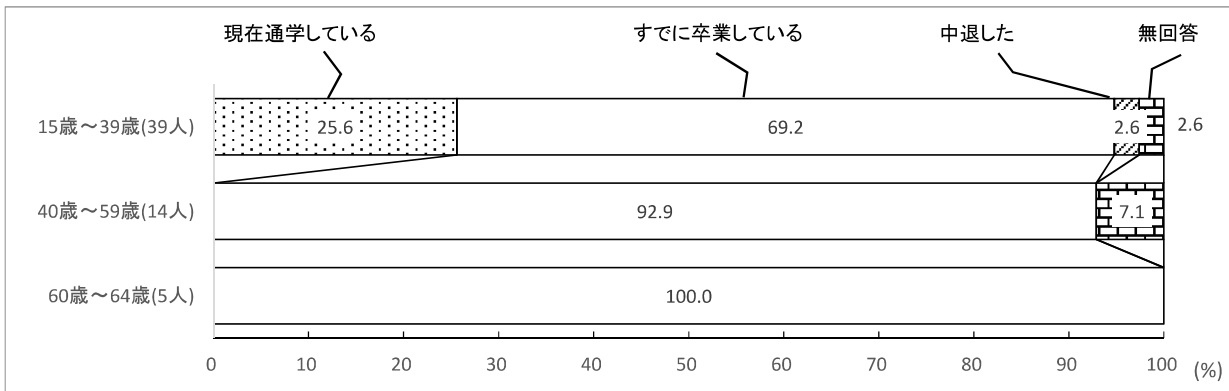
② 学校生活に関すること

Q8 あなたは現在、学校に通っていますか。(〇はひとつだけ)

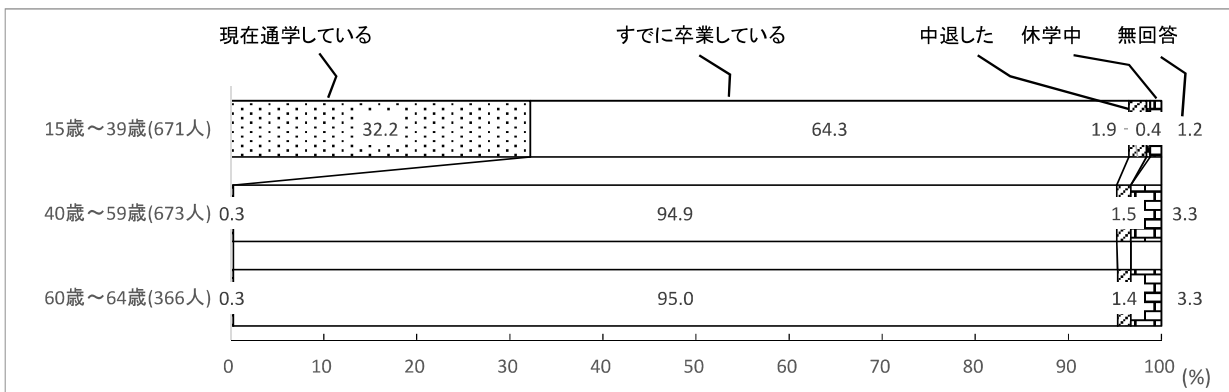
広義のひきこもり群



親和群



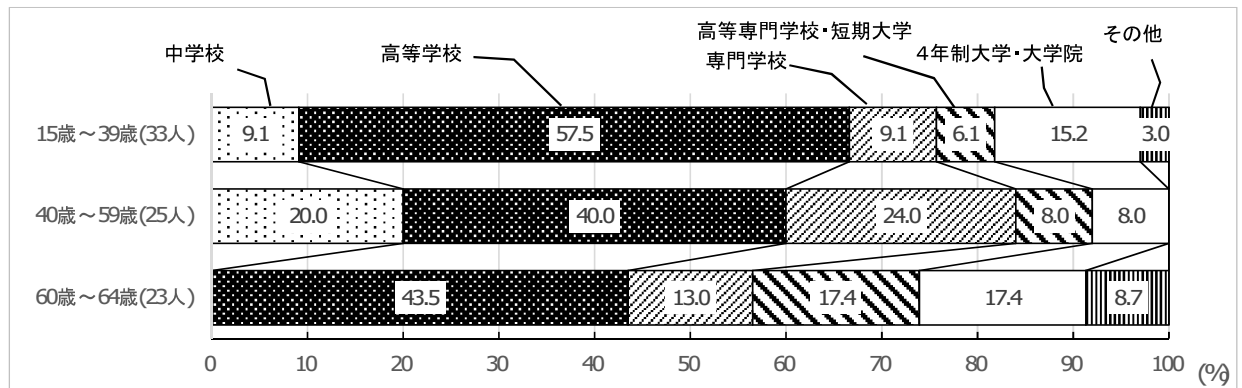
一般群



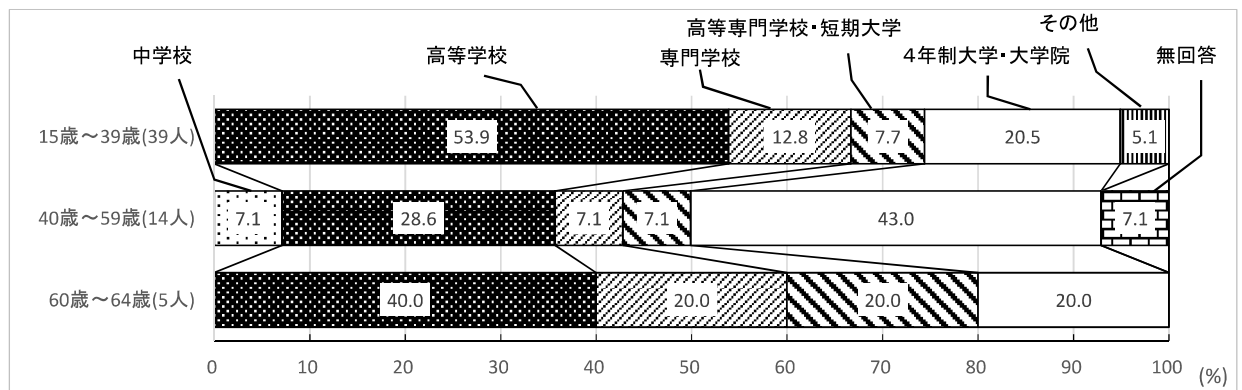
広義のひきこもり群の中で、15歳～39歳の「中退した」がほかのグループと比べて多かった(広義のひきこもり群 15.2%, 親和群 2.6%, 一般群 1.9%)。

**Q9 あなたが最後に卒業した(中退を含む), または, 現在, 在学(休学中を含む)している学校は
どれですか。(〇はひとつだけ)**

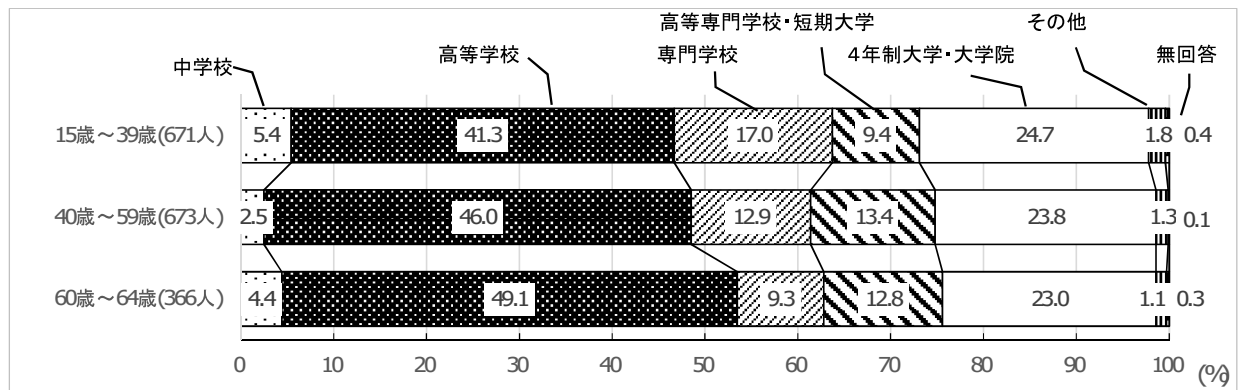
広義のひきこもり群



親和群



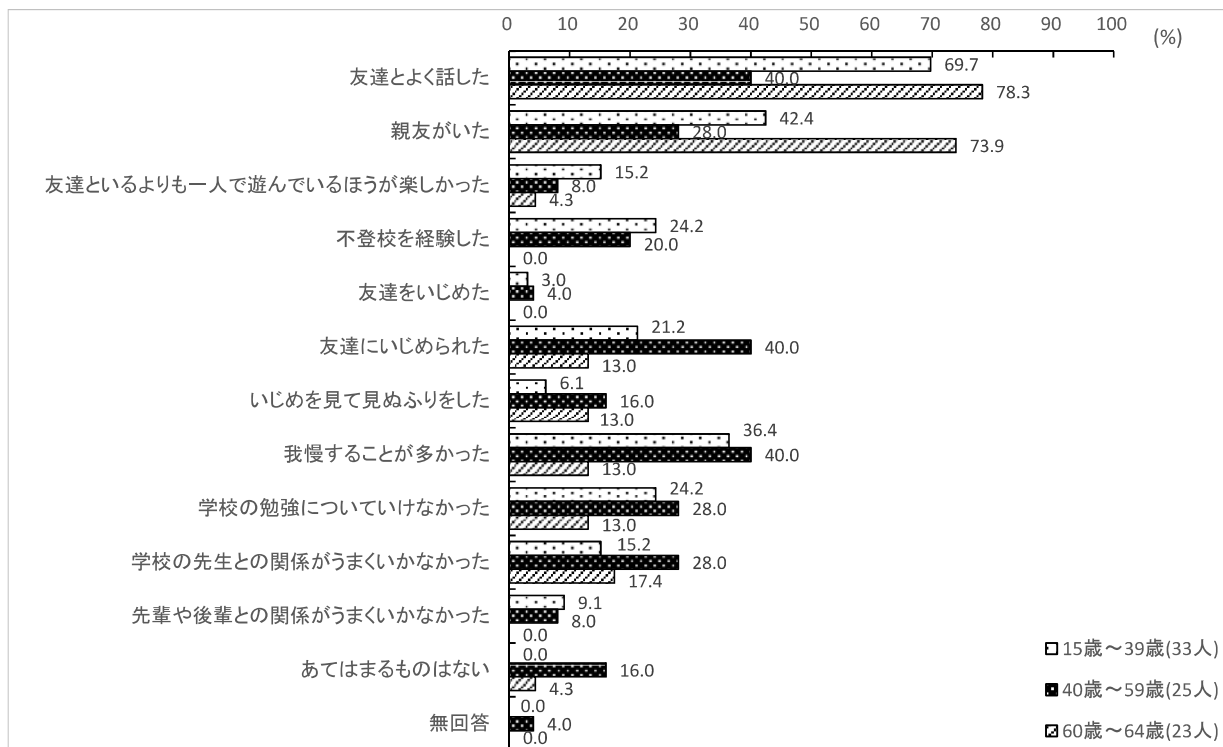
一般群



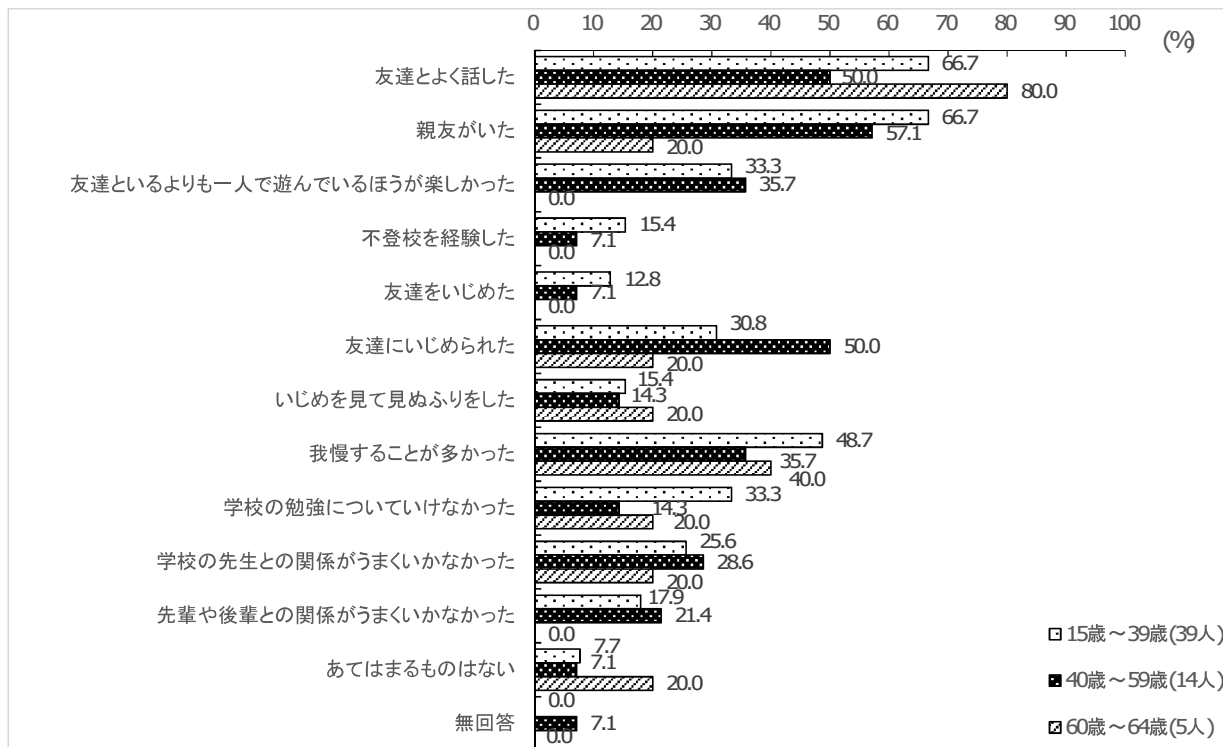
親和群 40歳～59歳以外は, 全てのグループで「高等学校」の割合が多かった。広義のひきこもり群は一般群と比べて「4年制大学・大学院」が少ない傾向となった。

Q10 あなたは、小学校や中学校の頃に学校で次のようなことを経験したことがありますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

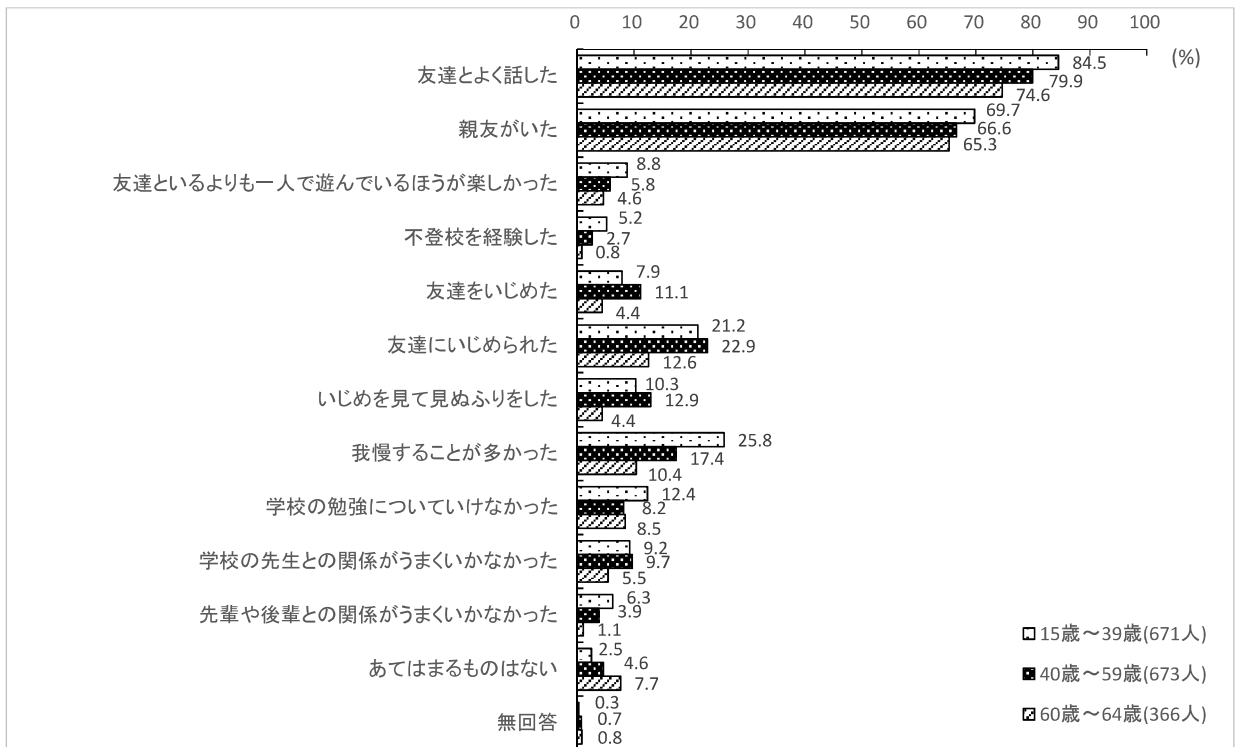
広義のひきこもり群



親和群



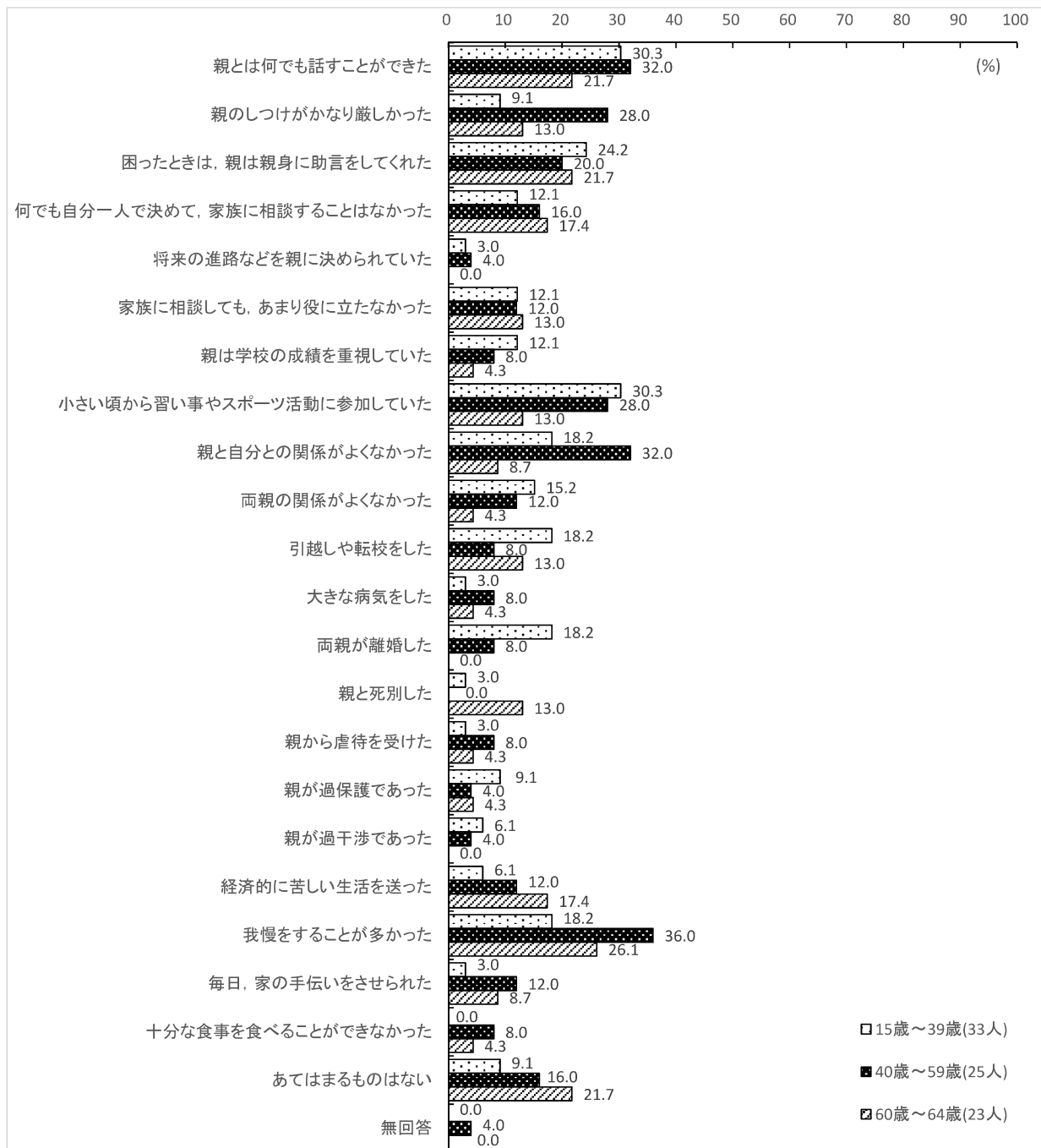
一般群



すべてのグループの年代を通して「友達とよく話した」「親友がいた」が一番多かったものの、一方で「我慢することが多かった」「友達にいじめられた」なども多かった。「友達にいじめられた」に関しては広義のひきこもり群の40歳～59歳(40.0%)、親和群の40歳～59歳(50.0%)で多くなっている。

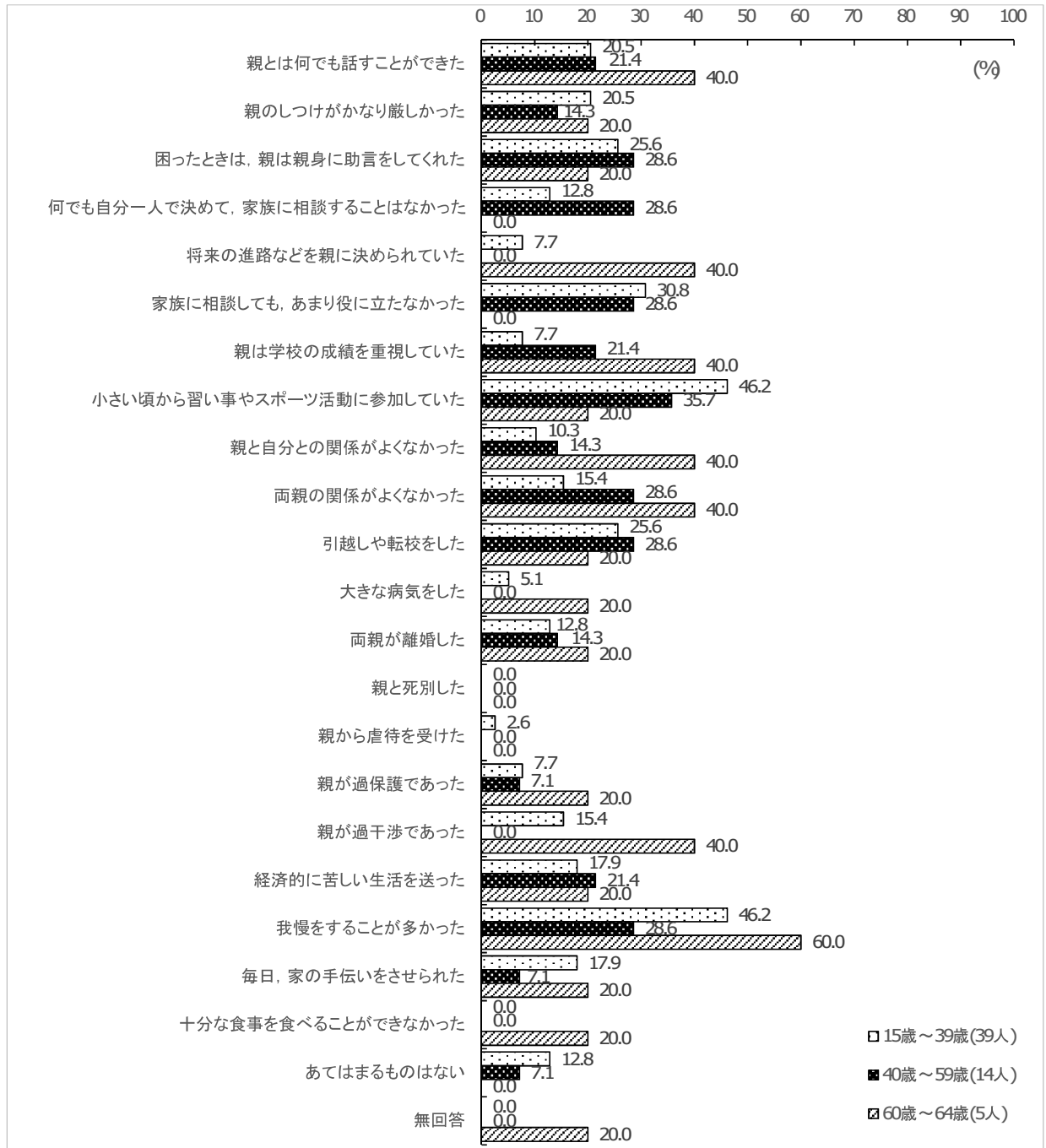
**Q11 あなたは、小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)**

広義のひきこもり群



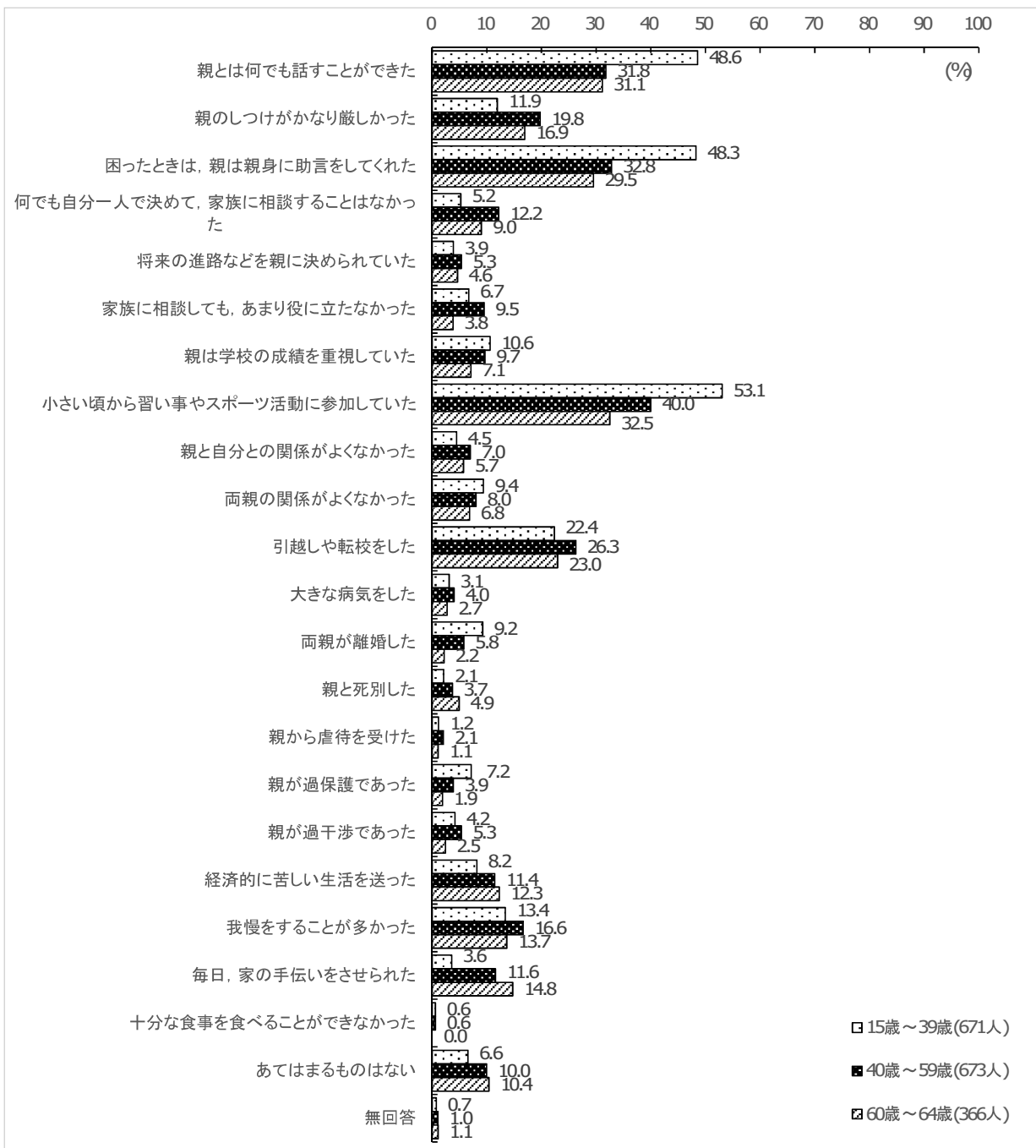
回答が多かったのは、40歳～59歳の「我慢をすることが多かった」36.0%、「親と自分との関係が良くなかった」32.0%、「親とはなんでも話すことができた」32.0%などとなっている。

親和群



回答が多かったのは、60歳～64歳の「我慢することが多かった」60.0%、15歳～39歳の「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」46.2%、同じく15歳～39歳の「我慢することが多かった」46.2%などとなっている。

一般群

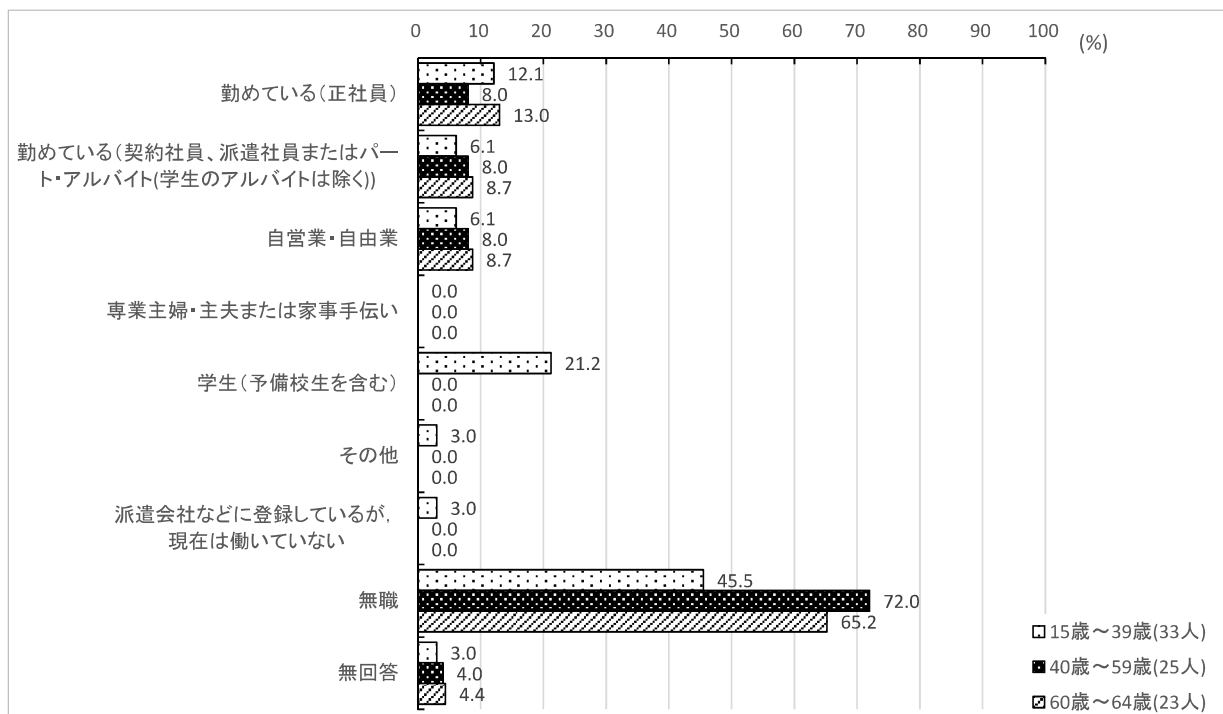


回答は、15歳～39歳の「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」53.1%、「親とは何でも話すことができた」48.6%、「困ったときは親は親身に助言をしてくれた」48.3%などが多くなっている。

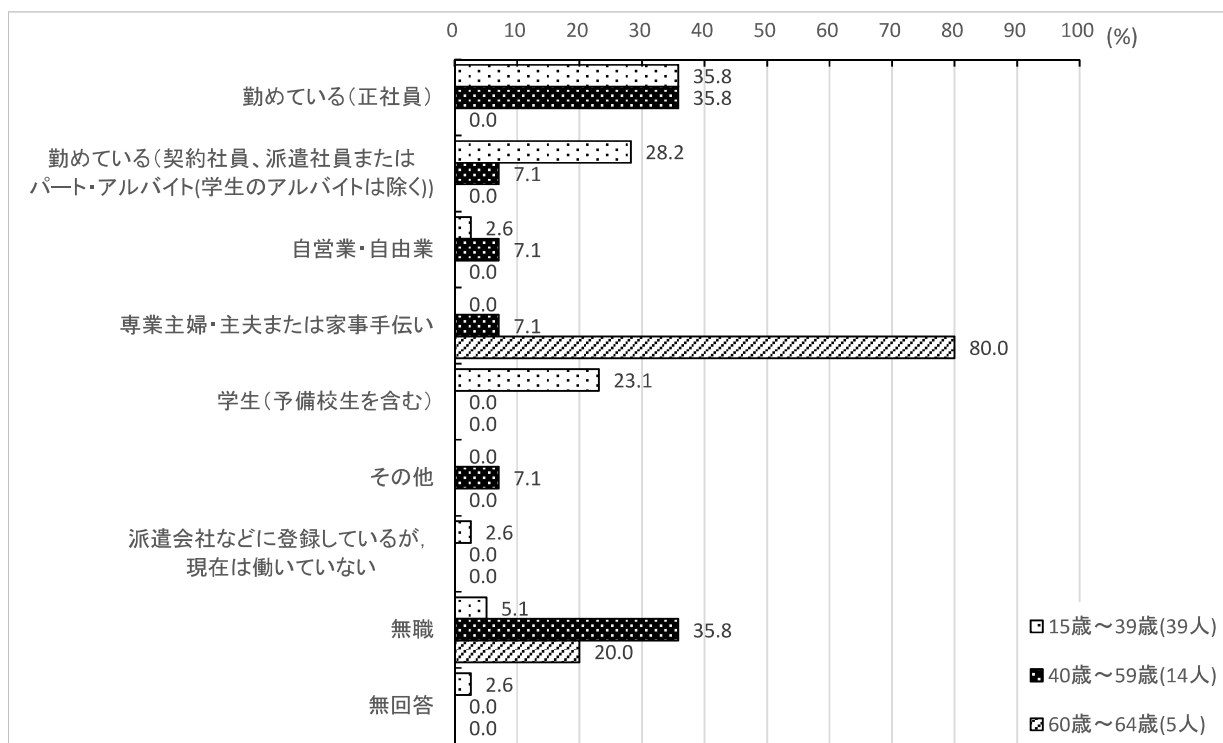
(3) 就労等に関すること

Q12 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。(〇はひとつだけ)

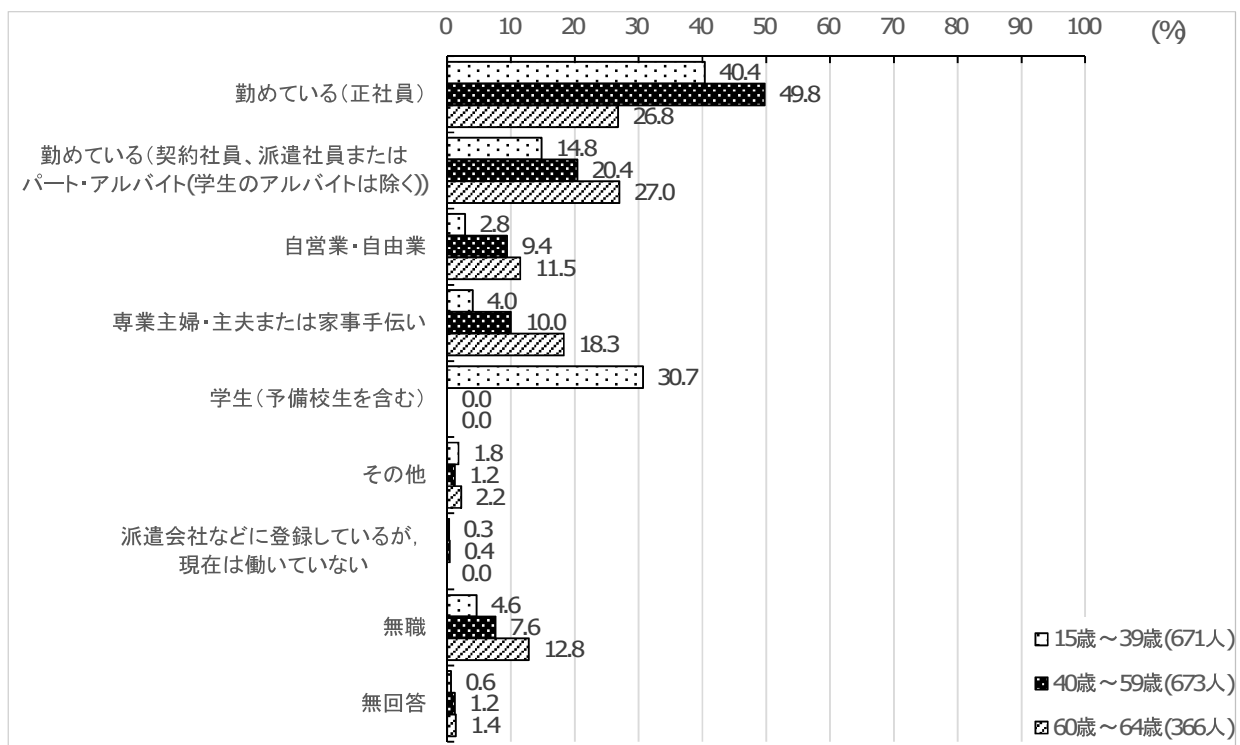
広義のひきこもり群



親和群



一般群

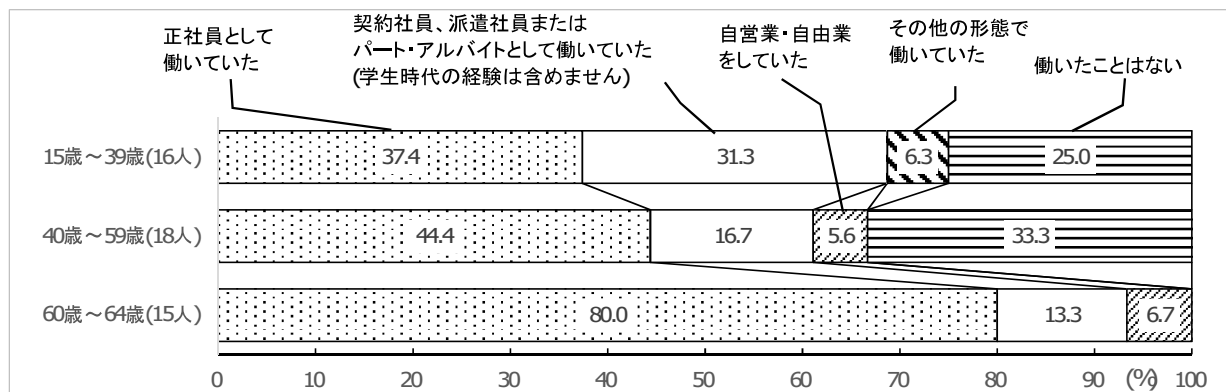


広義のひきこもり群は「無職」の人が多いが、勤めている人もいる。

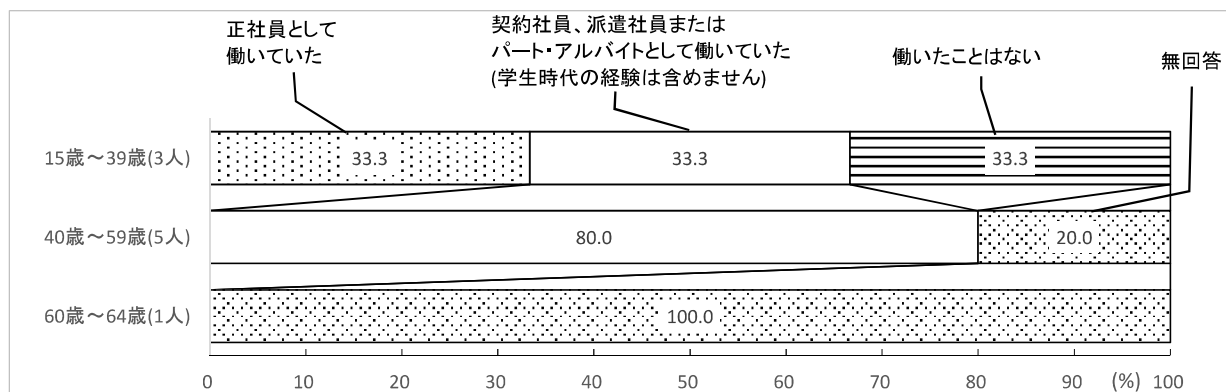
※Q13～15は、Q12で「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」または「無職」の回答者のみ対象

Q13 あなたは今までに働いたことはありますか。(○はひとつだけ)

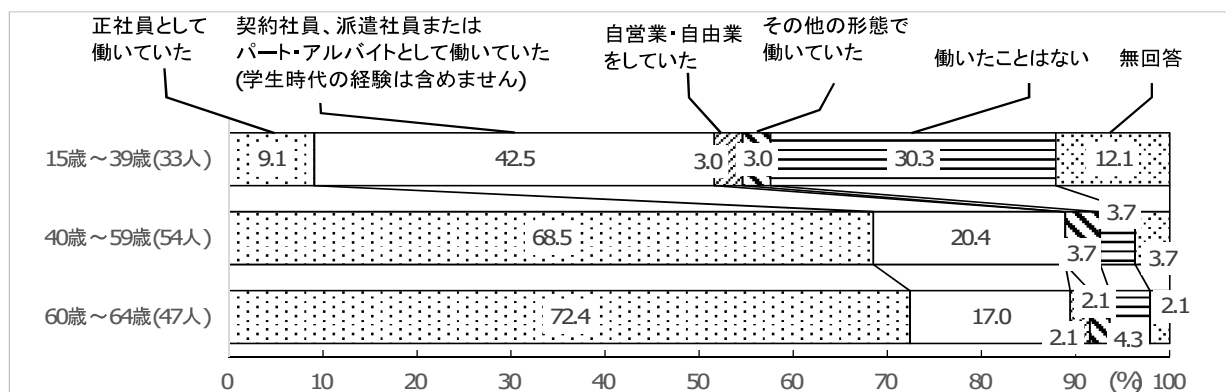
広義のひきこもり群



親和群



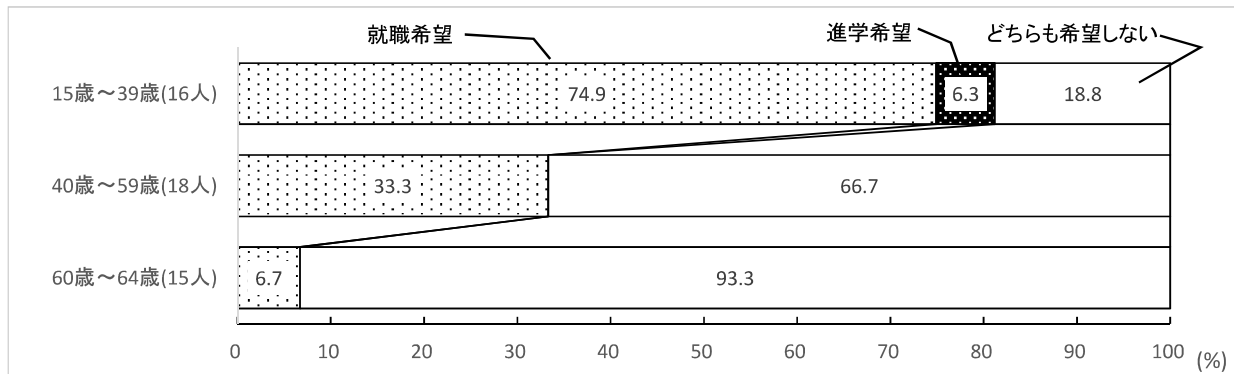
一般群



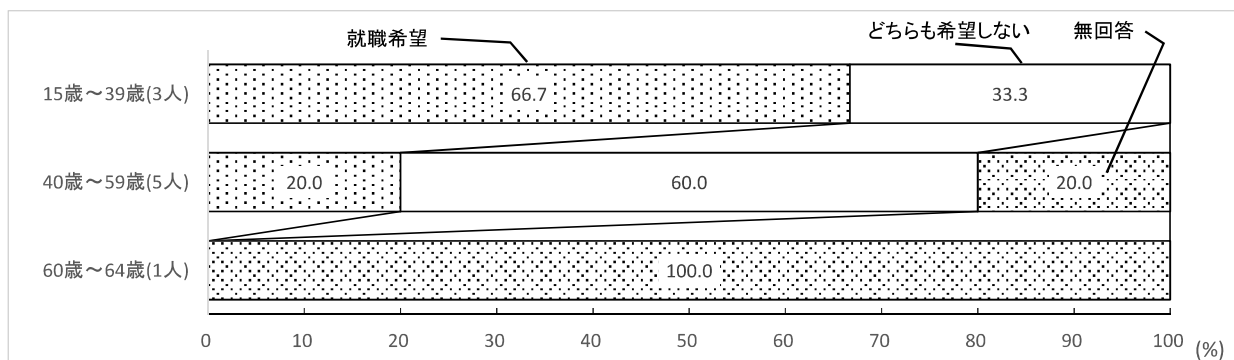
「働いたことはない」と回答した者は、広義のひきこもり群の40歳～59歳(33.3%)は他の群と比べて多い。

Q14 現在、就職または進学を希望していますか。(〇はひとつだけ)

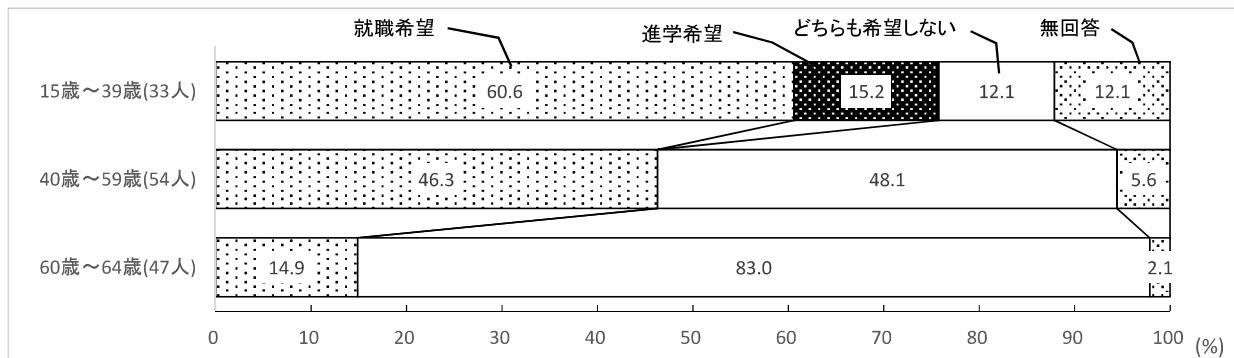
広義のひきこもり群



親和群



一般群

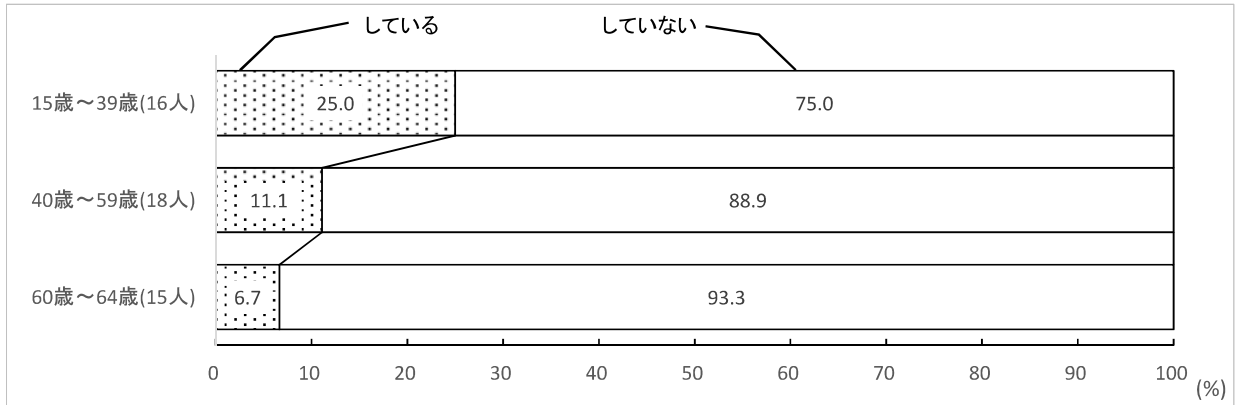


広義のひきこもり群の「就職希望」は、15歳～39歳(74.9%)、40歳～59歳(33.3%)、60歳～64歳(6.7%)と、高齢になるにつれて減少傾向が見られる。

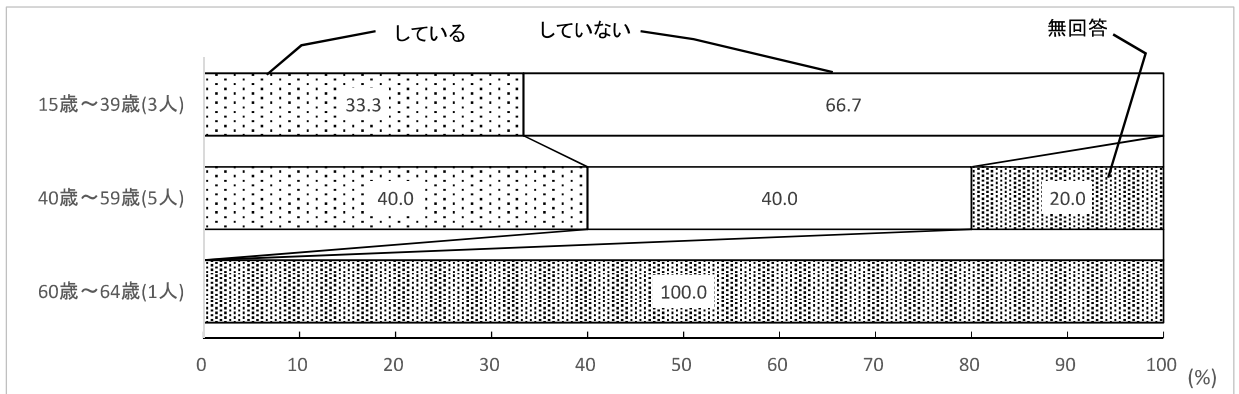
また、広義のひきこもり群15歳～39歳の「進学希望」は6.3%で、一般群15歳～39歳が15.2%であるのに対して少ない傾向となっている。

Q15 現在, 就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)

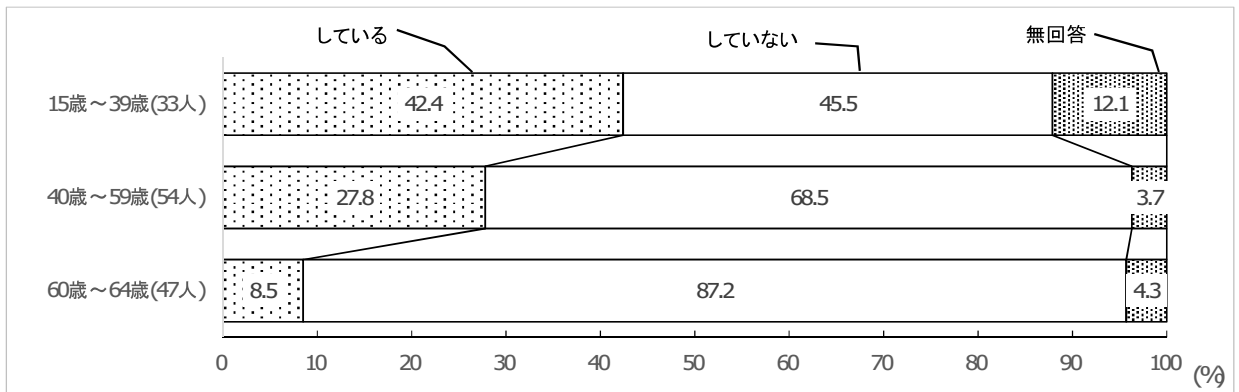
広義のひきこもり群



親和群



一般群

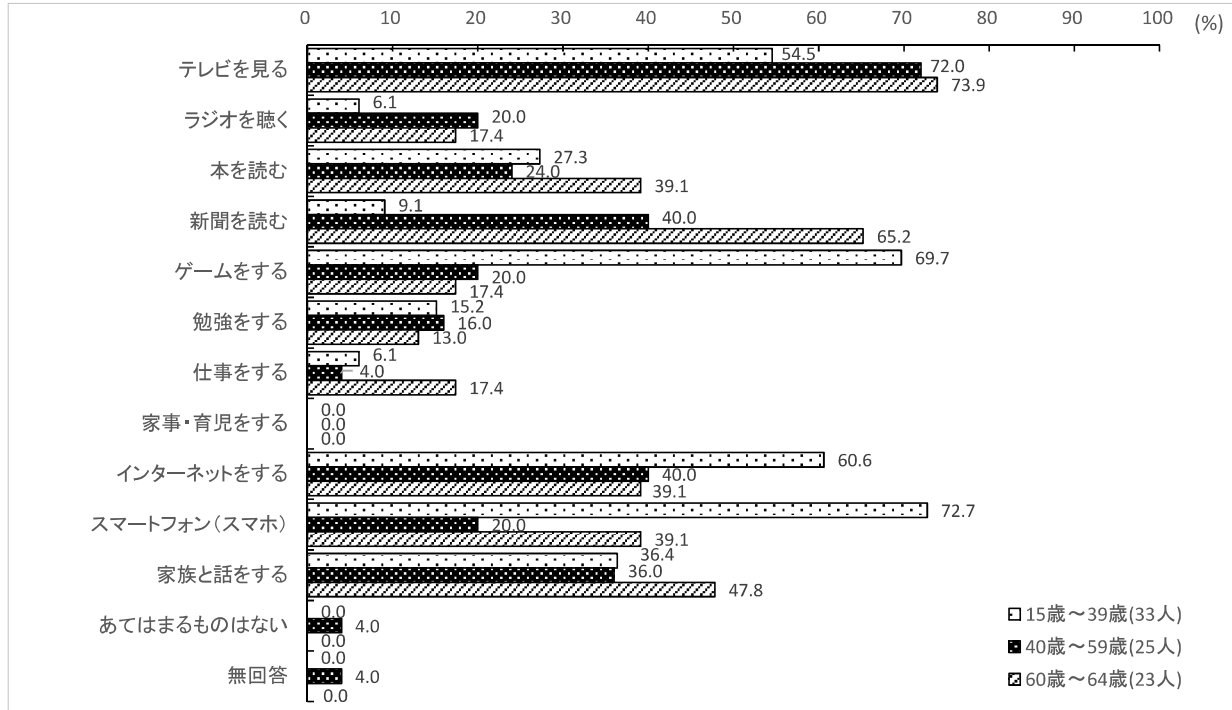


広義のひきこもり群のうち, 15歳~39歳では25.0%が就職活動を「している」と回答している。

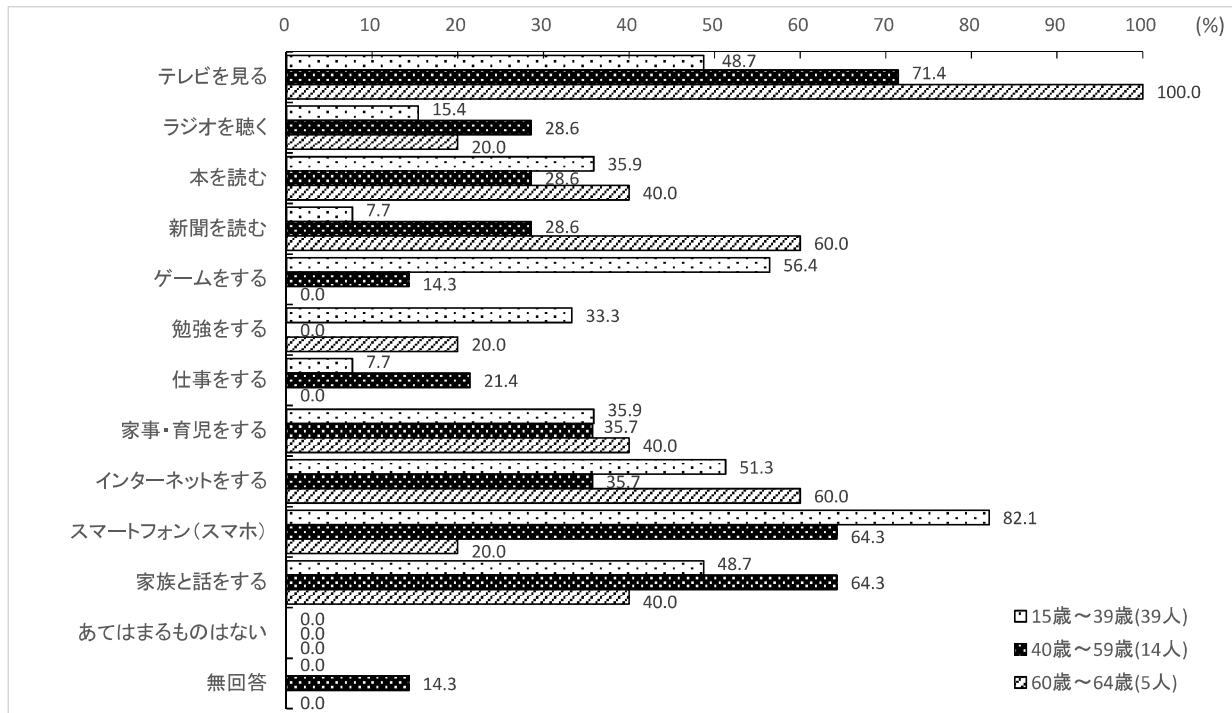
(4) ふだんの活動に関すること

Q16 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。

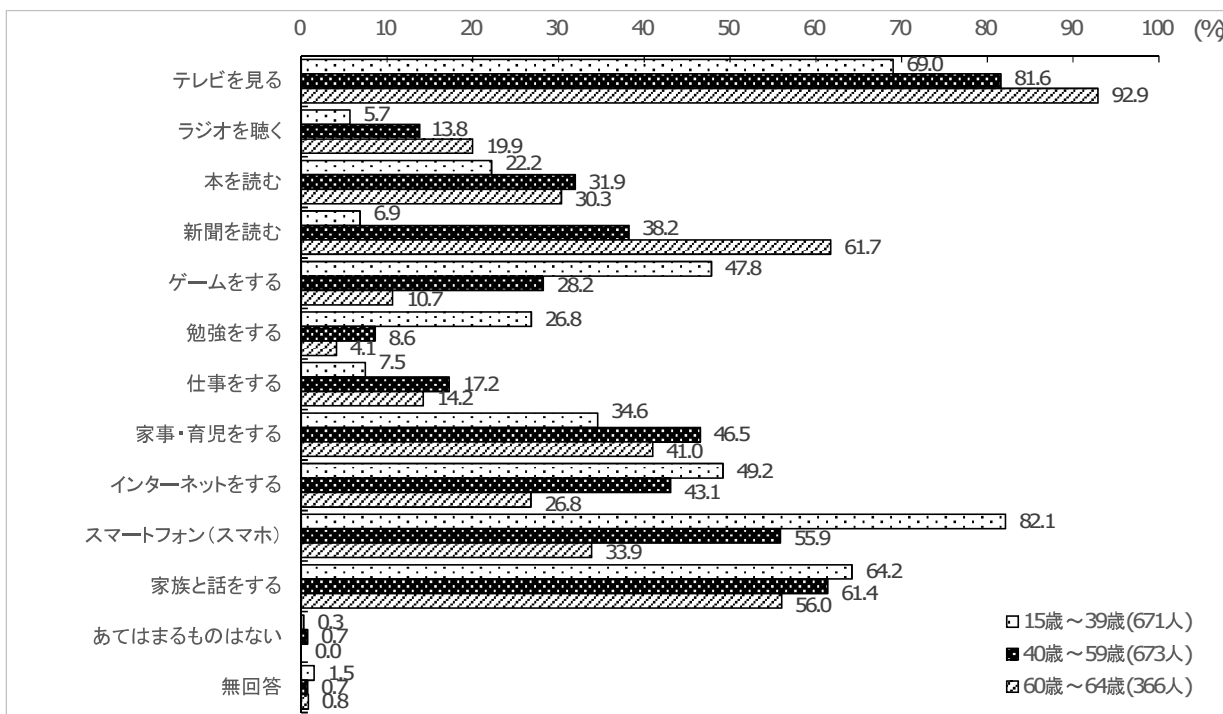
広義のひきこもり群



親和群



一般群



全体を通して「テレビを見る」が多かった。

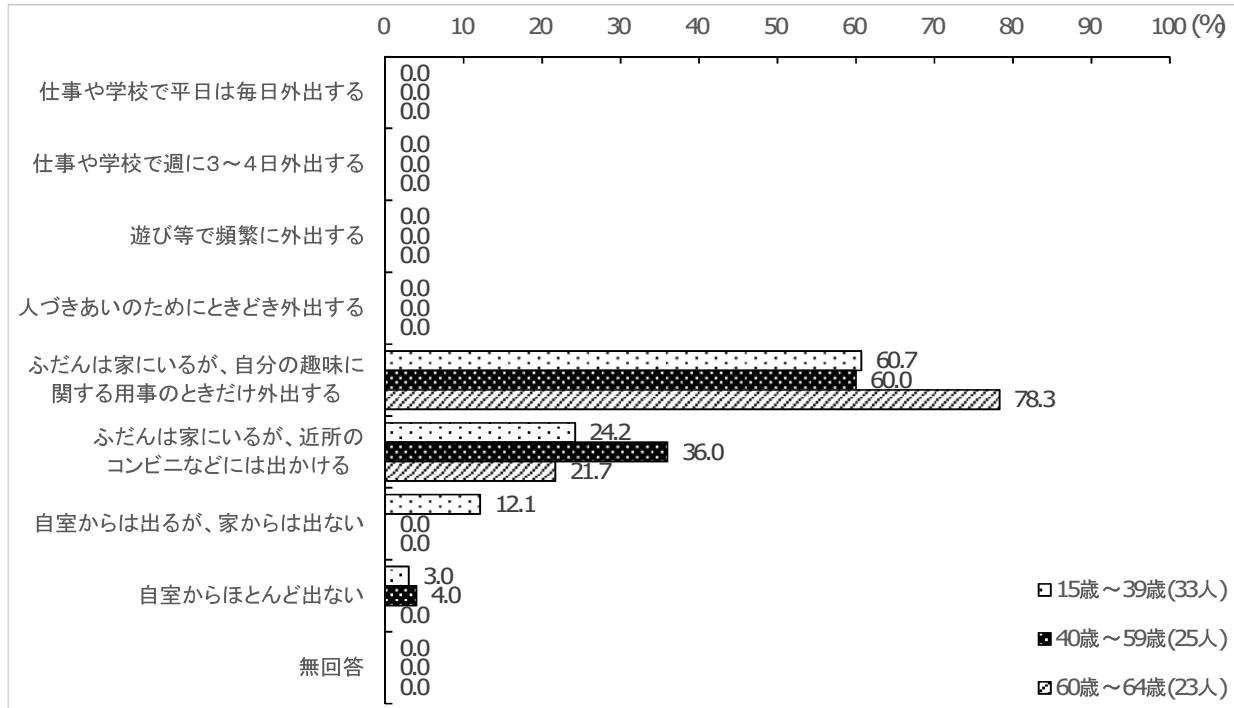
「スマートフォン(スマホ)」については、15歳～39歳の全グループで多かったほか、60歳～64歳では広義のひきこもり群で39.1%と比較的多かった。

(5) ひきこもりの状態に関すること

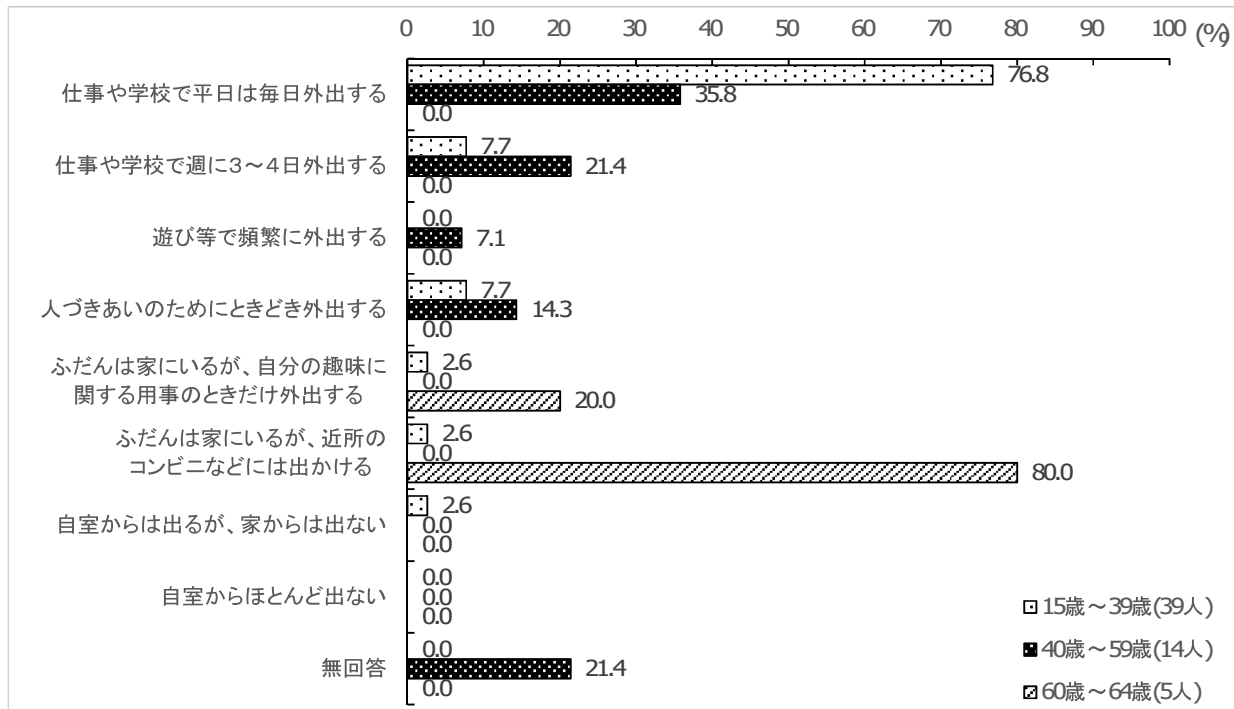
Q17 ふだんどのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)

※Q17の設問は、広義のひきこもり群を判定するために使用。

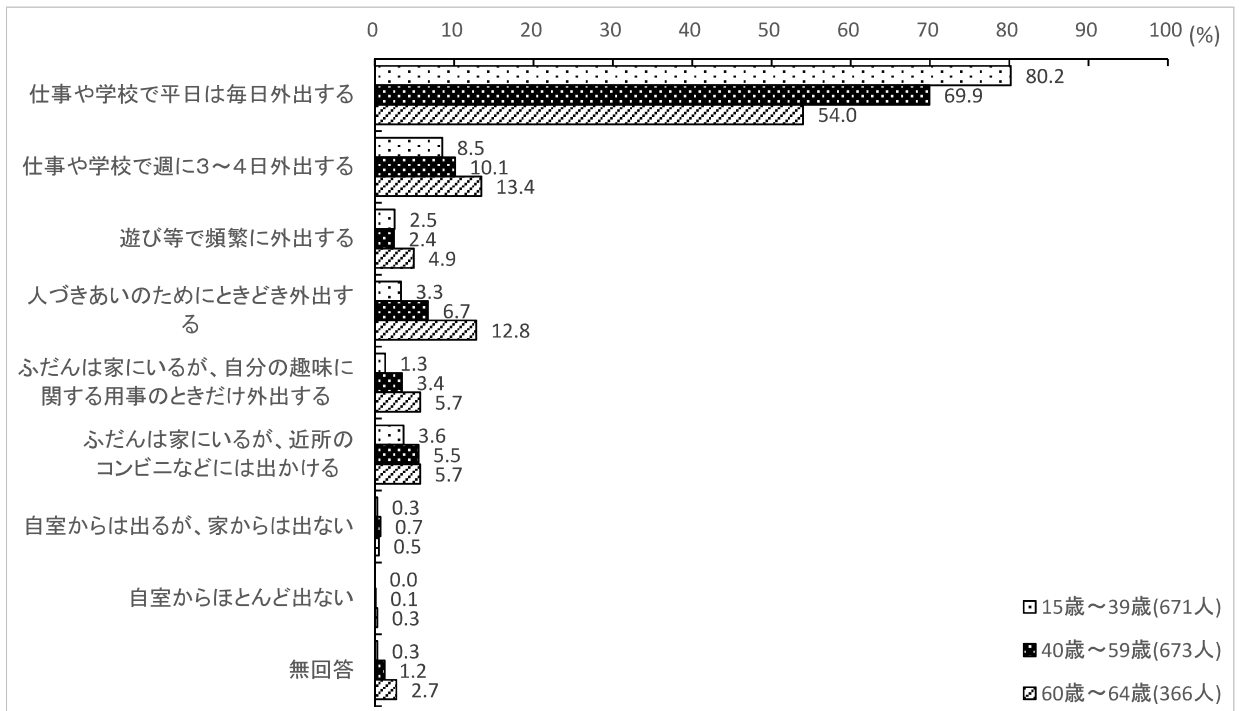
広義のひきこもり群



親和群



一般群

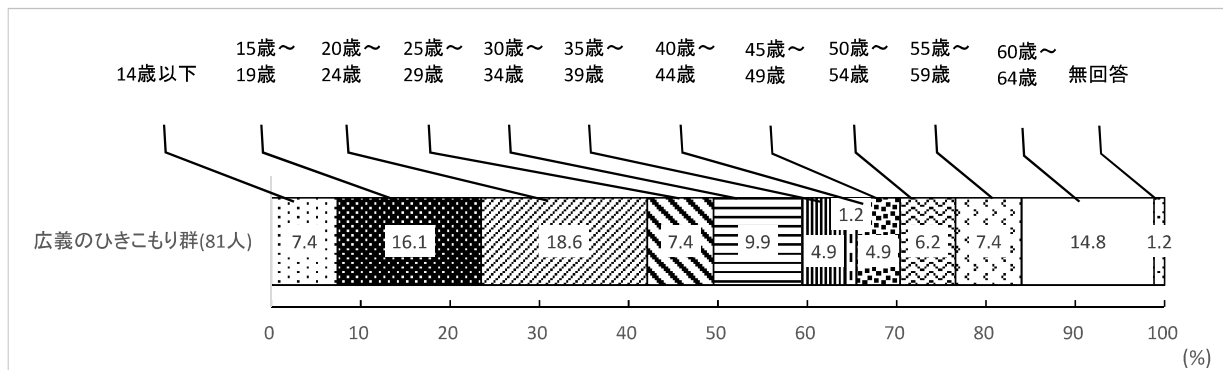


※Q18～Q23は、Q17において外出頻度が低かった回答者(「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」,「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」,「自室からは出るが、家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」の選択者)のみが対象。

※本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

Q18 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

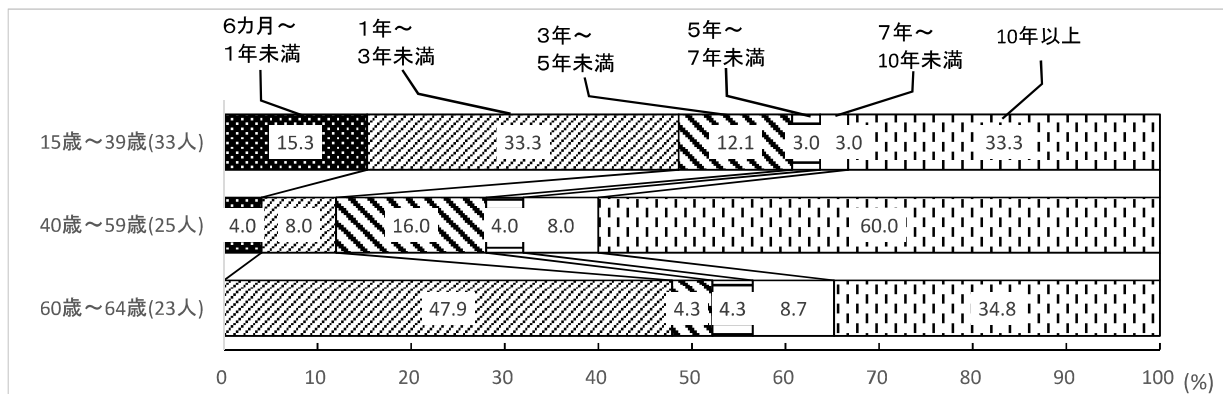
広義のひきこもり群



20歳～24歳が18.6%で最も多く、次いで15歳～19歳が16.1%となっている。

Q19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

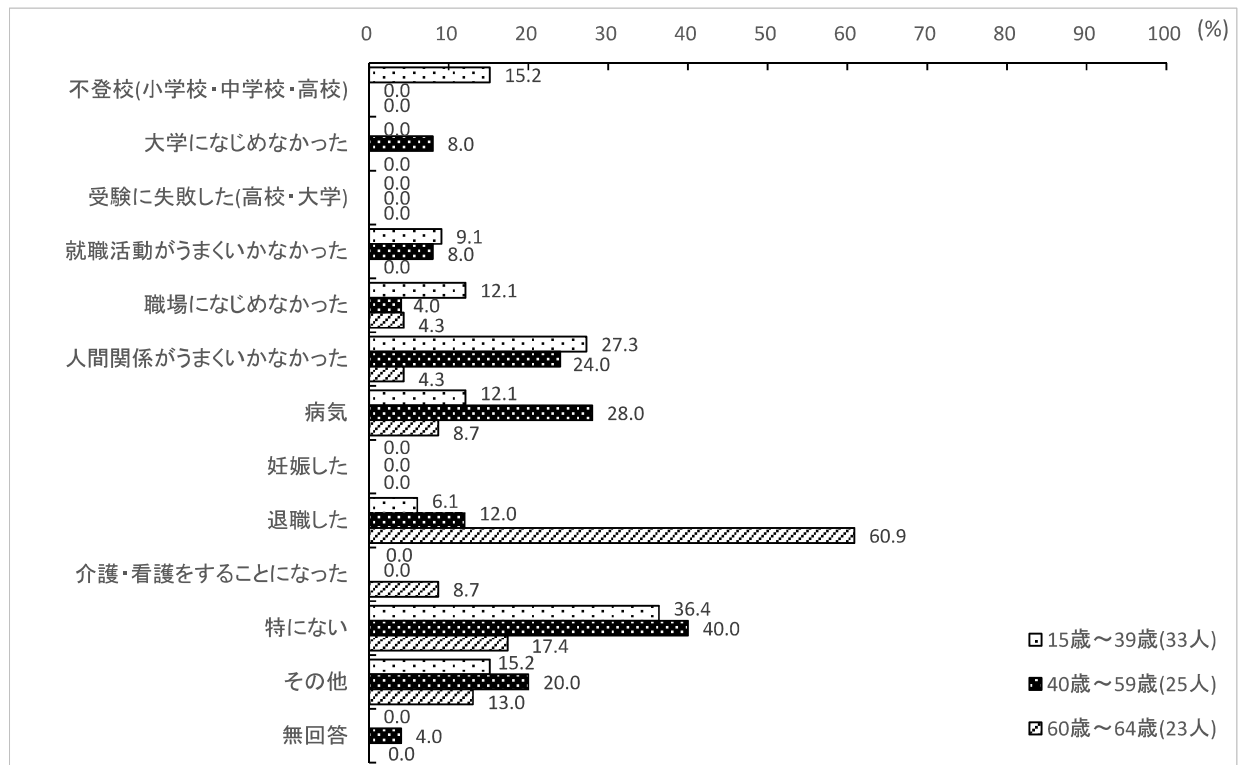
広義のひきこもり群



10年以上は15歳～39歳(33.3%)、40歳～59歳(60.0%)、60歳～64歳(34.8%)となっており、40歳～59歳の間でひきこもりの長期化傾向が見られる。

Q20 現在の状態になったきっかけは何だと思ってますか。(〇はいくつでも)

広義のひきこもり群

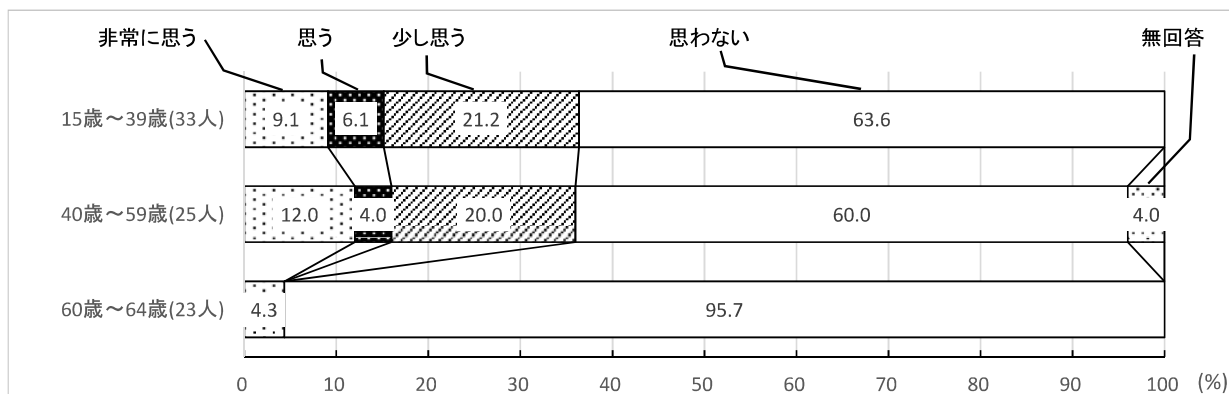


ひきこもりになったきっかけは、15歳～39歳では「人間関係がうまくいかなかった」「不登校」などの回答が多く、40歳～59歳では「病気」「人間関係がうまくいかなかったこと」と答えた者が多く、また、60歳～64歳では「退職した」が6割を超えた。

(6) 相談機関に関すること

Q21 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか。(〇はひとつだけ)

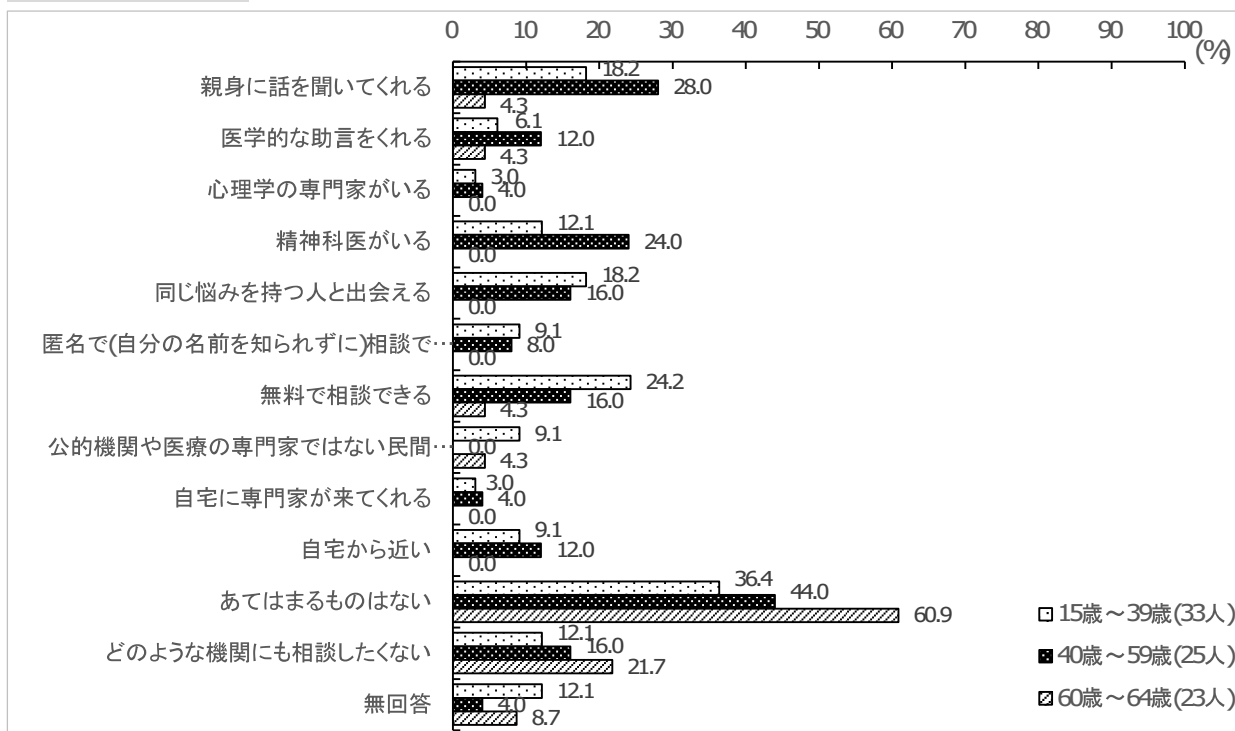
広義のひきこもり群



15歳～39歳の「非常に思う」「思う」「少し思う」までの合計で36.4%となっており、「思わない」が63.6%となっている。60歳～64歳の「思わない」が95.7%と非常に多くなっている。

Q22 現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いませんか。(〇はいくつでも)

広義のひきこもり群

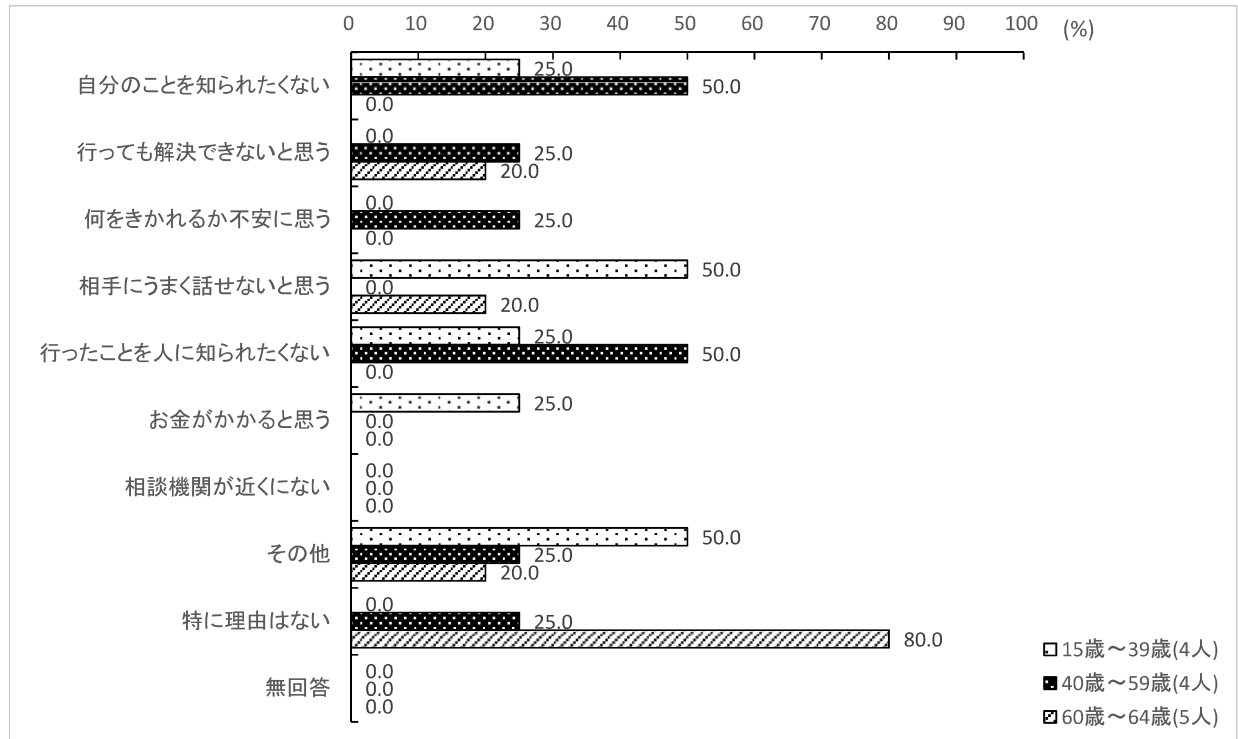


ひきこもりについて、どのような機関なら相談したいかたずねたところ「親身に話を聞いてくれる」「無料で相談できる」「精神科医がいる」などの回答が多かった。

※SQ22-1 は、Q22 で「どのような相談機関にも相談したくない」の回答者のみ対象

SQ22-1 相談したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

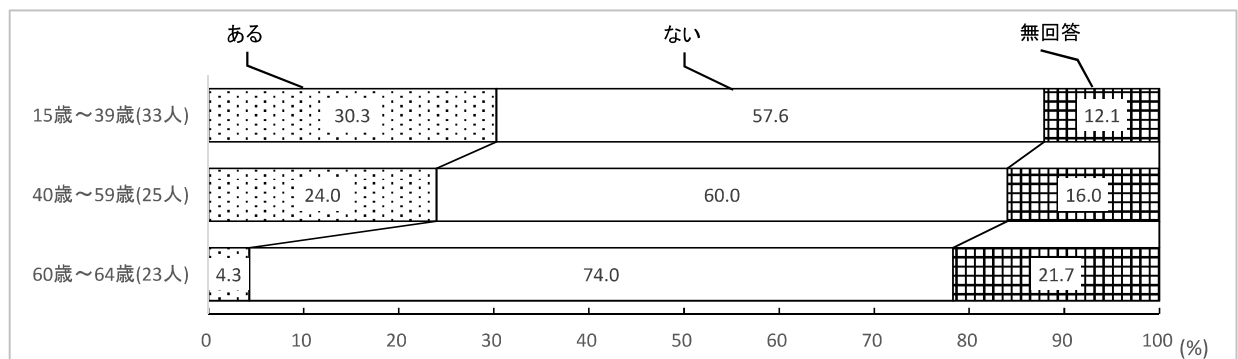
広義のひきこもり群



60歳～64歳の「特に理由はない」が80.0%と多くなっている。

Q23 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群

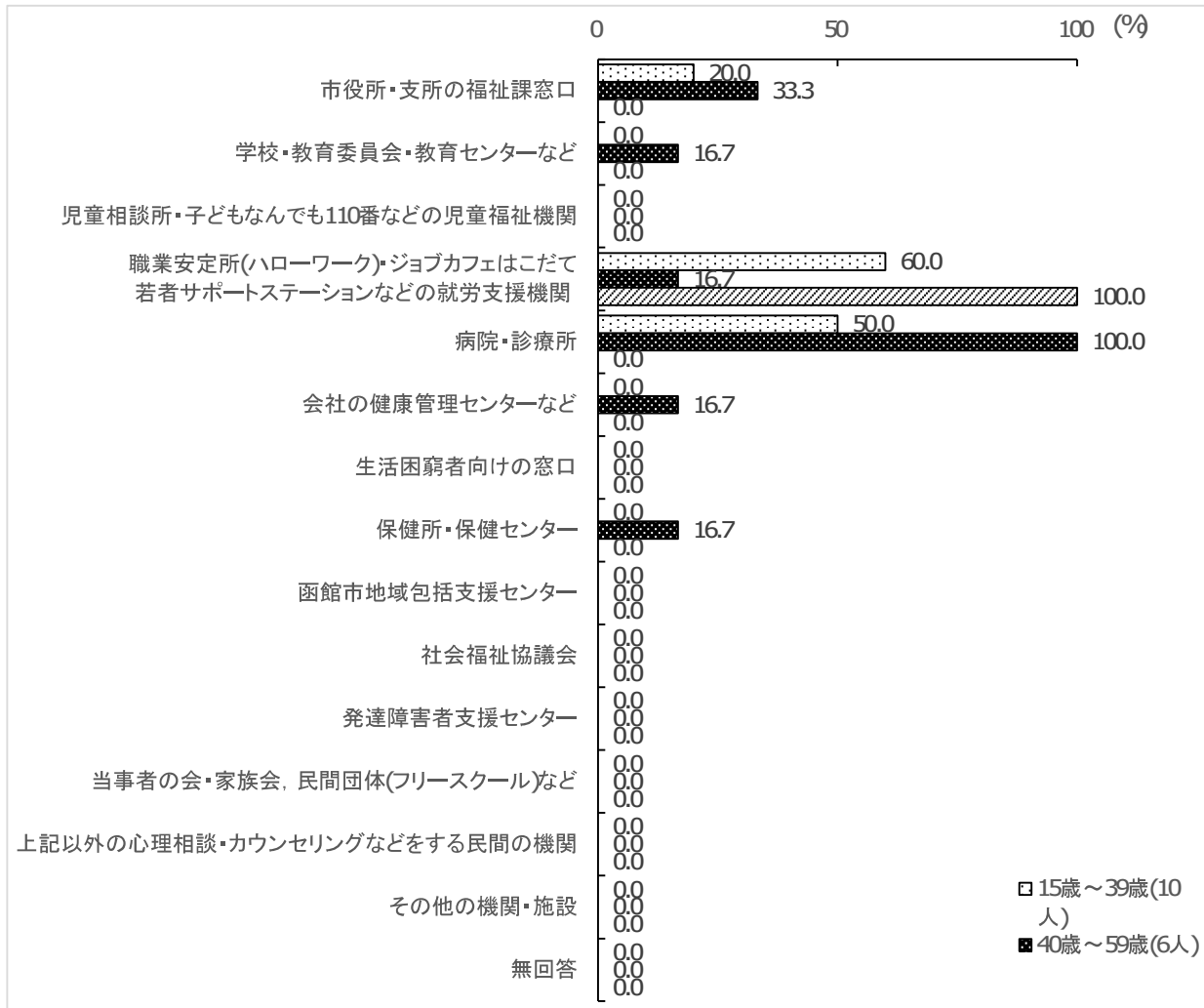


各年代ともに「ない」との回答が半数以上で、その割合は年齢が高くなるにつれ多くなっている。

※SQ23-1 および SQ23-2 は、Q23 で「ある」の回答者のみ対象

SQ23-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことのある機関に○をつけてください。
(○はいくつでも)

広義のひきこもり群



相談機関については各種就労支援機関，病院・診療所が多くなっている。

SQ23-2 関係機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

主な回答について以下に抜粋した。

- ・とても親切に対応して頂きました。80年代とは隔世の感がありました。(男性 60 歳～64 歳)
- ・症状が改善しない(うつ病)。(男性 55 歳～59 歳)
- ・夫の事業失敗, 借金取たて。(女性 50 歳～54 歳)
- ・勤めていた職場(介護施設)でマタニティハラスメントにあい, 退職へ導くような言動を言われ続けた末に退職しました。(女性 25 歳～29 歳)
- ・同居している親の介護のことで函館市地域包括支援センターに相談してデイサービスを利用するようになりました。現在, 入院中ですが退院後のケアについても相談したいと考えております。(女性 50 歳～54 歳)
- ・今は全く学校へ行きません。友達と学校へ行く約束をすると学校へ行きます。(男性 15 歳～19 歳)
- ・障がい者なので市役所や包括センターに相談します。どちらも親身に聞いてくれて助かっています。(女性 55 歳～59 歳)

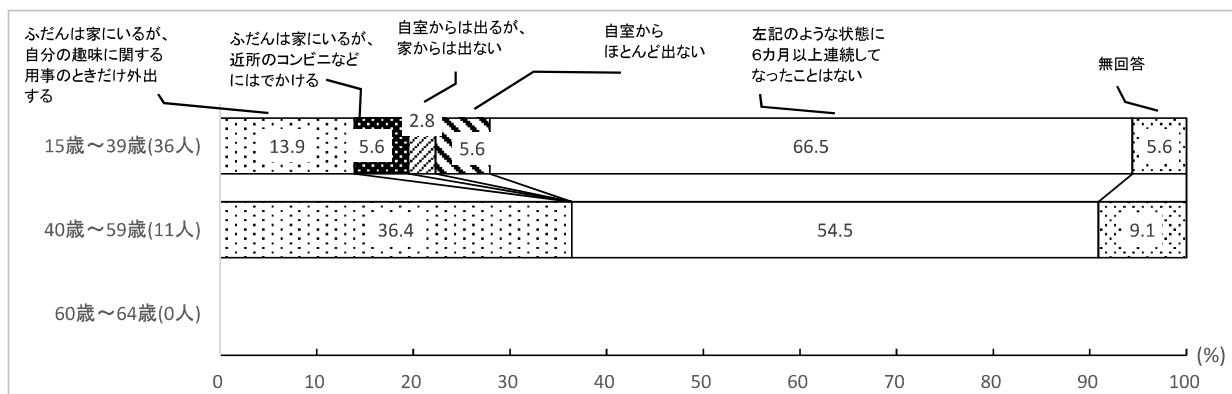
(7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること

※Q24 は、Q17 で「仕事や学校で平日は毎日外出する」、「仕事や学校で週に3～4日外出する」、「遊び等で頻繁に外出する」または「人づきあいのためにときどき外出する」の回答者のみ対象

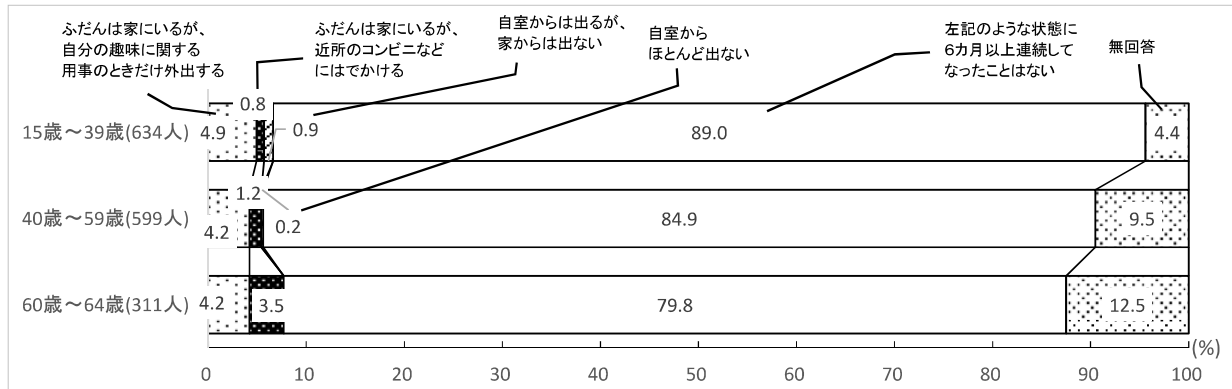
Q24 あなたは今までに、6カ月以上連続して以下のような状態になったことはありますか。
(○はひとつだけ)

※Q24 の設問は、過去にひきこもり傾向があった人を把握するために使用

親和群



一般群

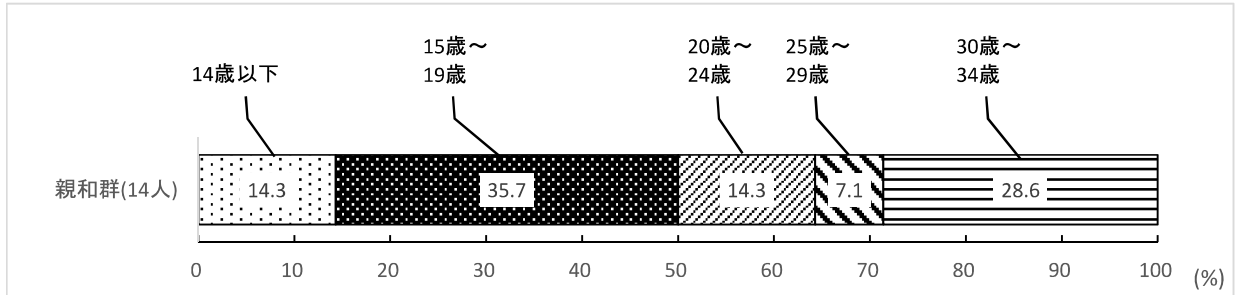


親和群では一般群に比べ、過去にひきこもり傾向にあった人の割合が多い。

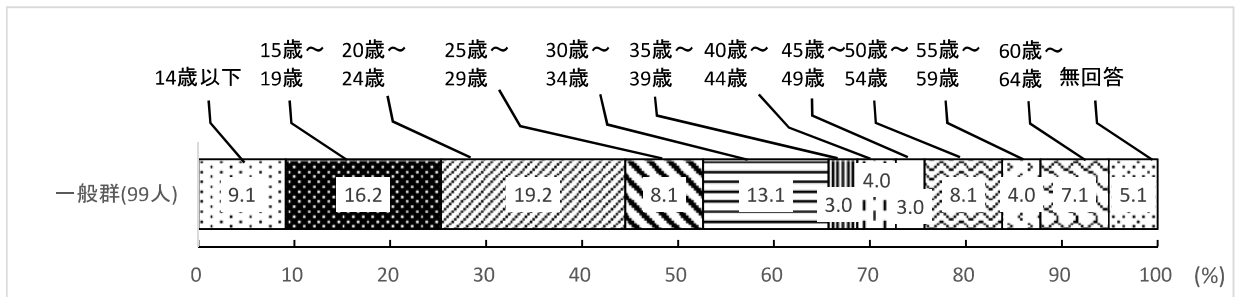
※Q25～Q27 は、Q24 で外出頻度が低かった回答者(「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」,「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」,「自室からは出るが、家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」の選択者)のみ対象

Q25 その状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

親和群



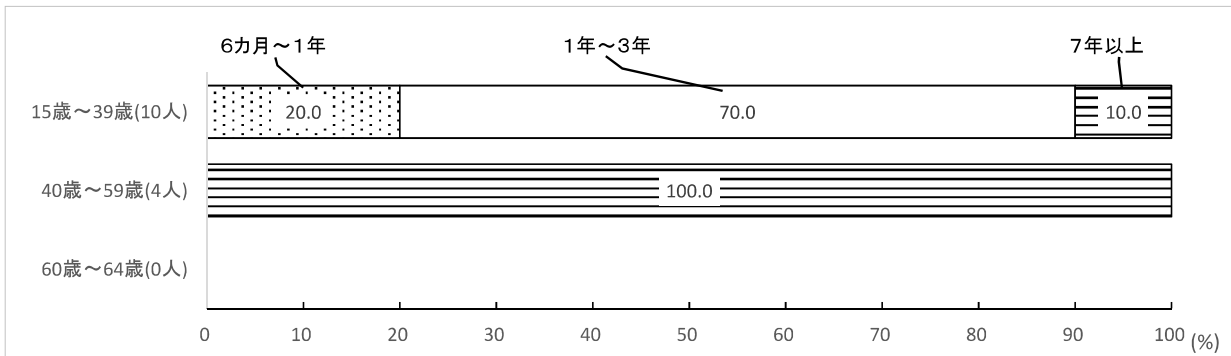
一般群



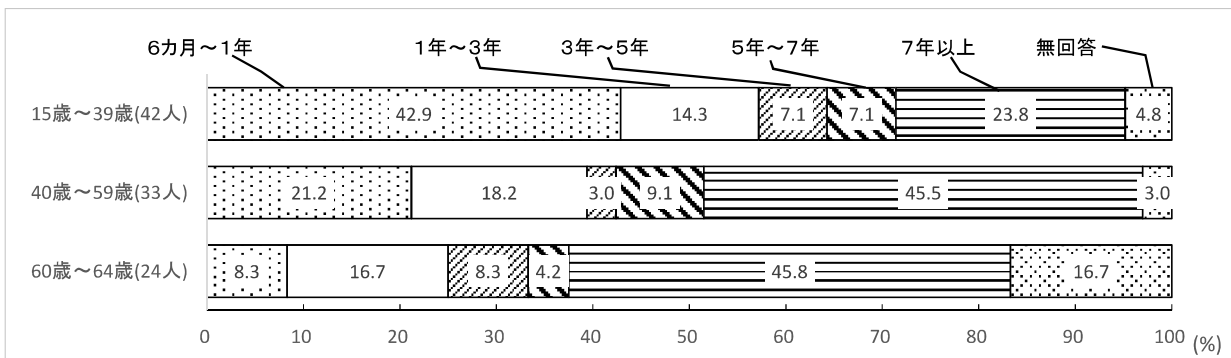
親和群における過去のひきこもり傾向は34歳までの間で発生している。

Q26 その状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

親和群



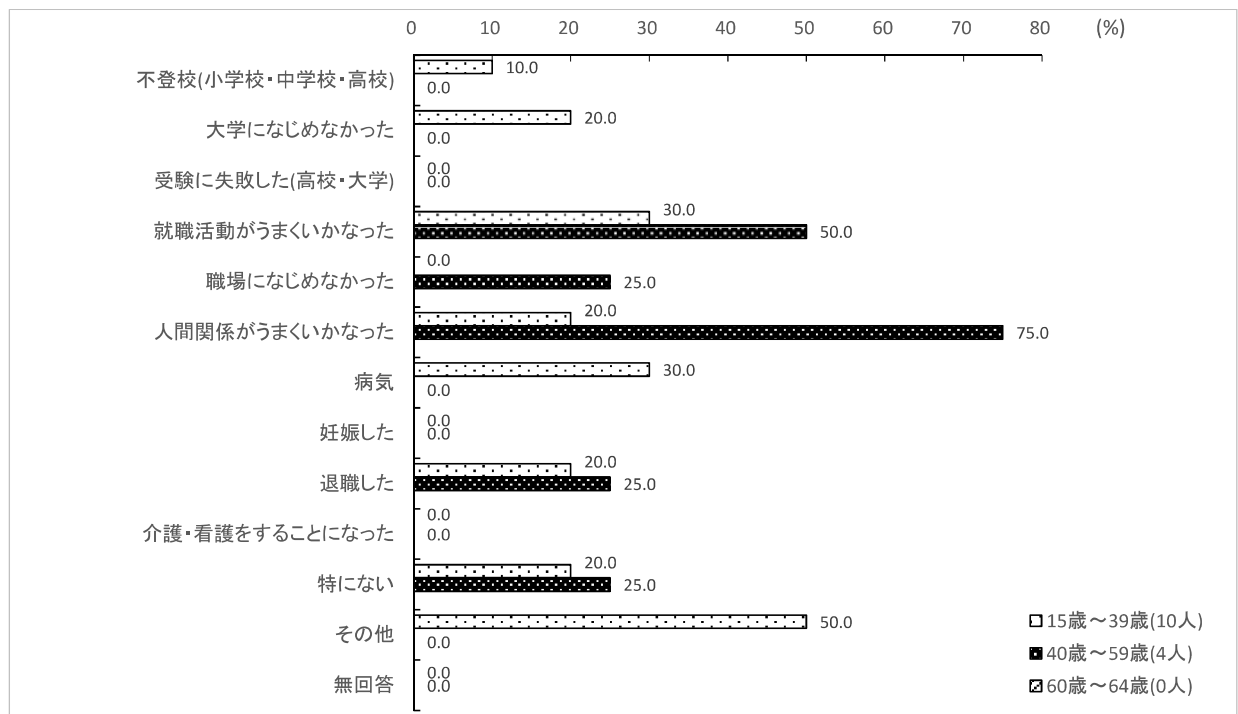
一般群



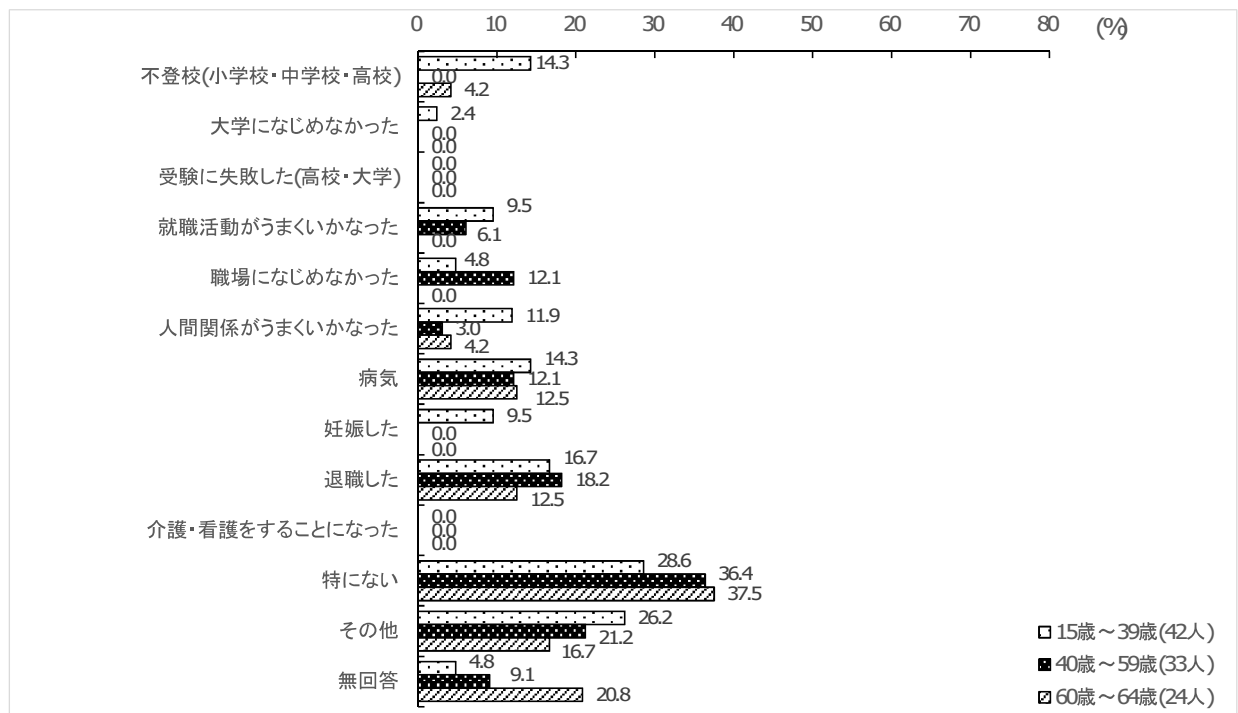
親和群の40歳～59歳の4人全員が7年以上のひきこもり状態が続いたと回答している。

Q27 その状態になったきっかけは何でしたか。(〇はいくつでも)

親和群



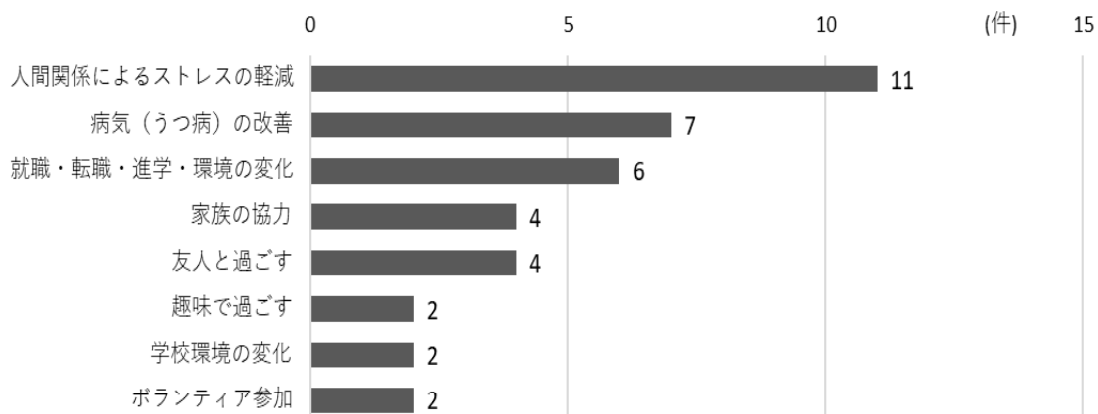
一般群



ひきこもり状態になったきっかけは「特にない」「その他」を除くと、親和群では「人間関係がうまくいかなかった」「就職活動がうまくいかなかった」が多くなっている。

Q28 その状態から Q17 で回答した現在の状況になったきっかけや役立つことはなんだったと思いますか。ご自由にお書きください。

回答内容を分類し、主な回答について以下に抜粋した。



人間関係によるストレスの軽減

- ・人と接するのが面倒になり仕事以外は（休日は）親と一緒に、一人で居ることが多くなった。一人の時は大好きな趣味に時間を費やせて日々のストレス発散をしている。（女性 20 歳～24 歳）

病気（うつ病）の改善

- ・悪性リンパ腫再発をきっかけに、うつ病発症。癌関連のボランティアに参加、うつ病が軽くなり職場に戻る事が出来た。（男性 60 歳～64 歳）
- ・心療内科を受診し一応診断名をもらった事で自分が納得いくまで自宅療養出来た事。休養中元気な時には勉強し、自分に自信が持てた事。休養後、復帰していく過程で〇歳では〇年生、〇歳では学生、〇歳では働いていて当たり前という価値観にはあまり意味が無いと気付いた事。（女性 25 歳～29 歳）

就職・転職・進学・環境の変化

- ・たまたま職場環境と働いている人に恵まれていたこと。（女性 35 歳～39 歳）
- ・ずっと勉強ばかりでしたが、一区切りし就職しようと思った。（女性 30 歳～34 歳）

家族の協力

- ・心も体も休める事が大事。配偶者や子ども、友達と会話をして笑ったり泣いたり、普通の事がとても大事と思う。（女性 60 歳～64 歳）

友人と過ごす

- ・インターネットでの情報収集、SNSでの友人とのやりとり。古い友人の遊びへの誘い、外への感性の変化（景観療法）。（女性 35 歳～39 歳）

趣味で過ごす

- ・自分の好きな事を好きなだけやった（趣味に集中した）。（女性 30 歳～34 歳）

学校環境の変化

- ・生徒会に入ったため。（男性 15 歳～19 歳）

ボランティア参加

- ・仕事以外の人間関係は良好なので積極的に用事を作り外出をしたり、ボランティアや今後の就職活動のためにPC教室に通っている。（男性 60 歳～64 歳）

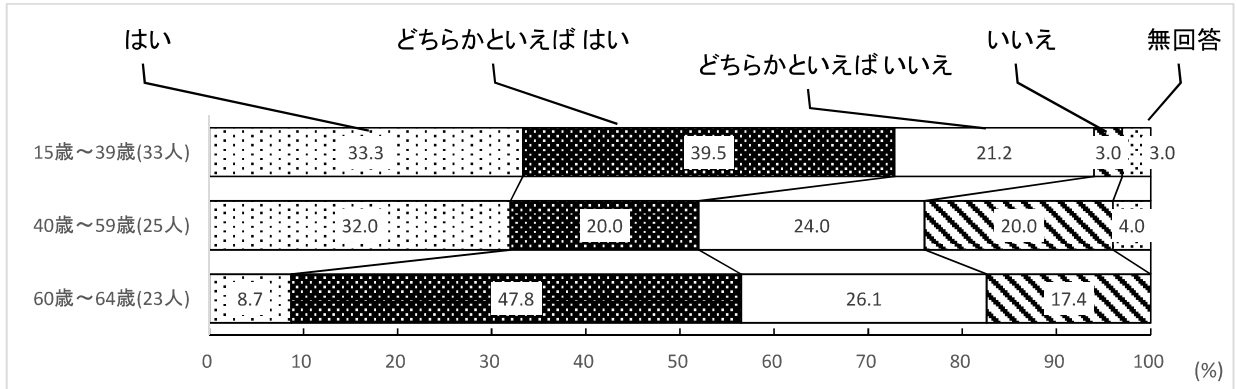
(8) 自分についてあてはまること

Q29 次にあげられることについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。

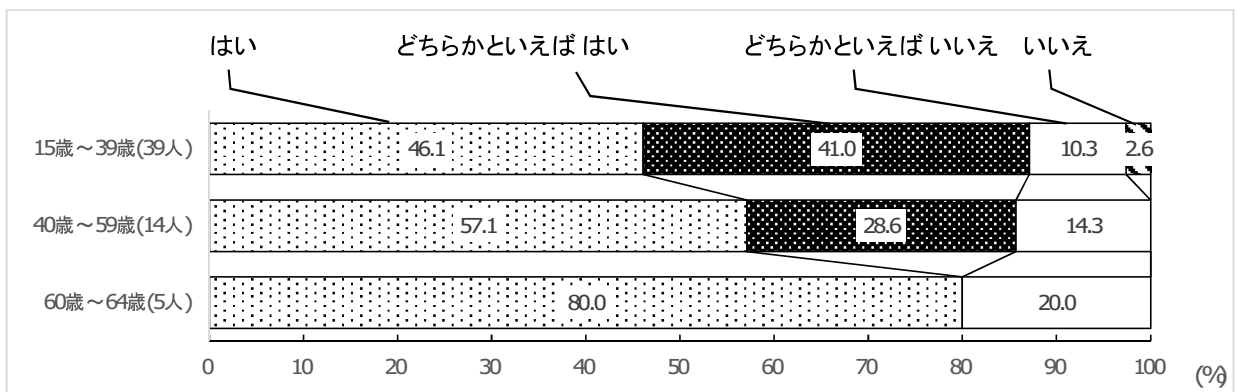
(○は各項目につき、ひとつだけ)

1. 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺(どうよう)する

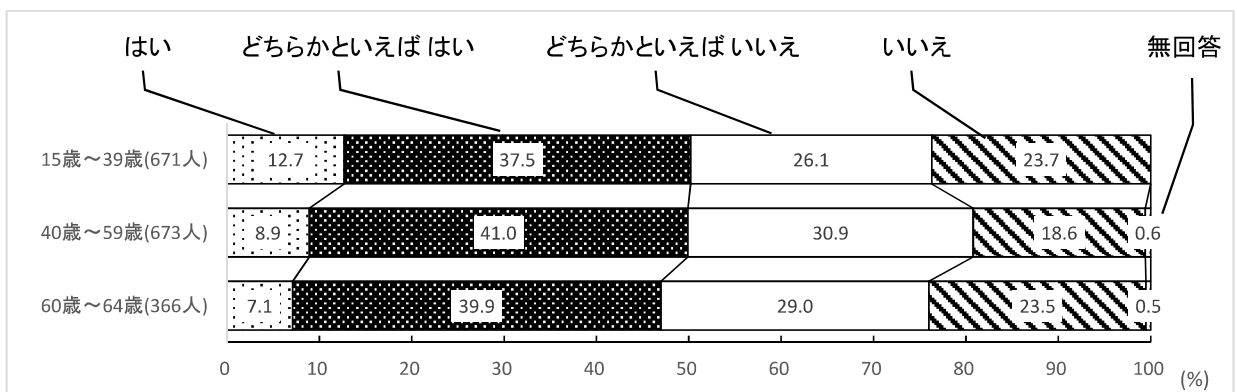
広義のひきこもり群



親和群



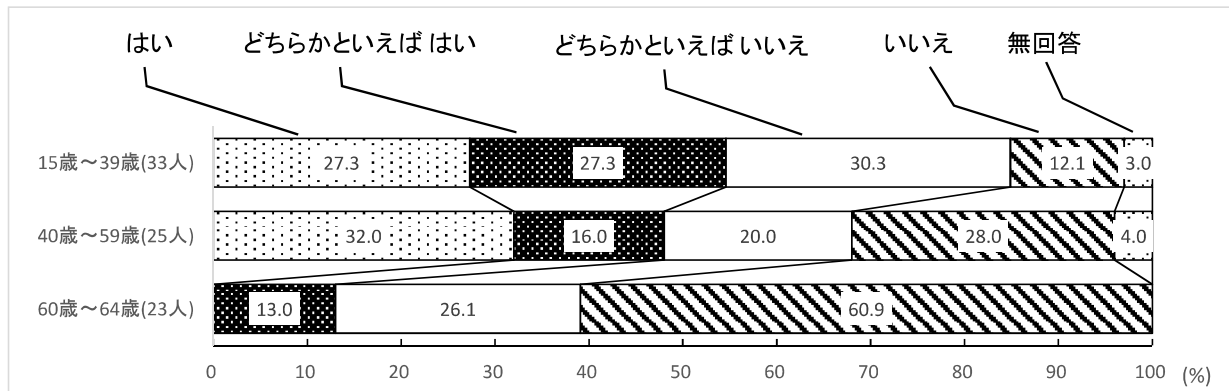
一般群



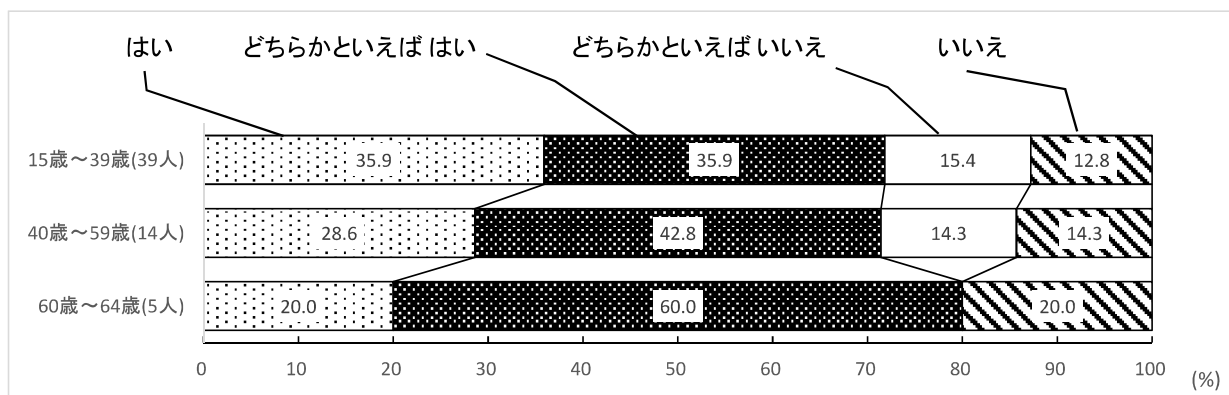
広義のひきこもり群の「はい」「どちらかといえば はい」が15歳～39歳で72.8%と多くなっている。

2. 人といると、馬鹿にされたり、軽く扱われはしないかと不安になる

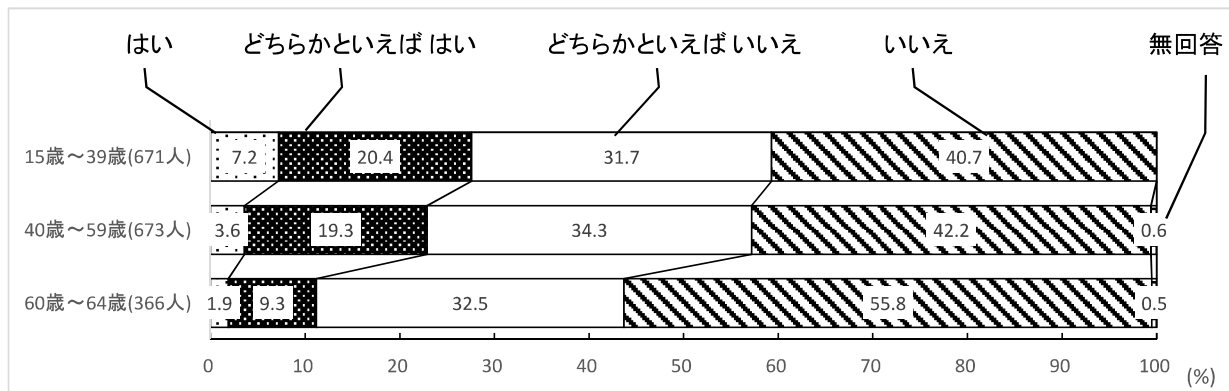
広義のひきこもり群



親和群



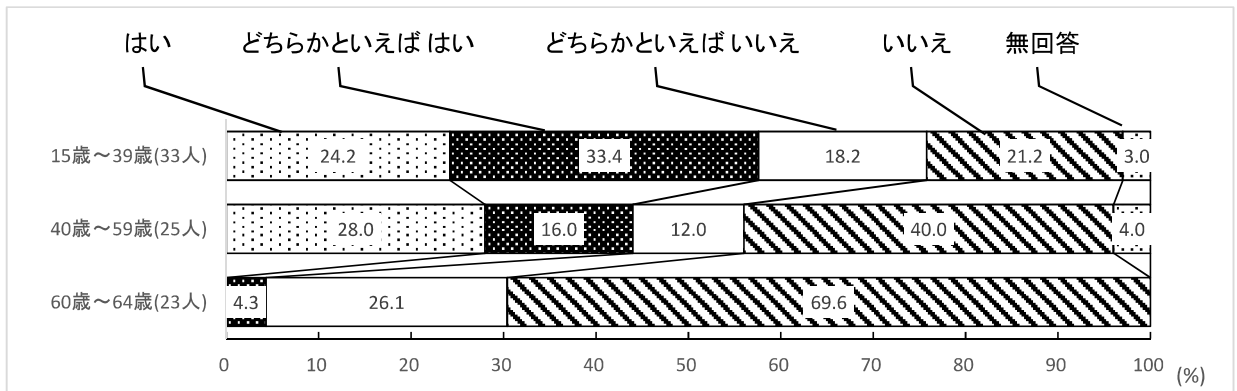
一般群



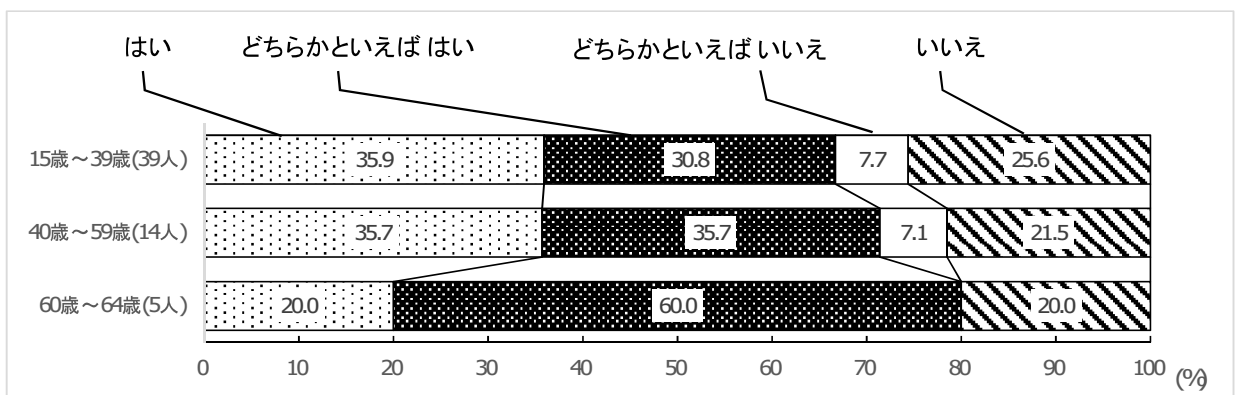
広義のひきこもり群の「はい」「どちらかといえば はい」が15歳～39歳で54.6%と多くなっている。

3. 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる

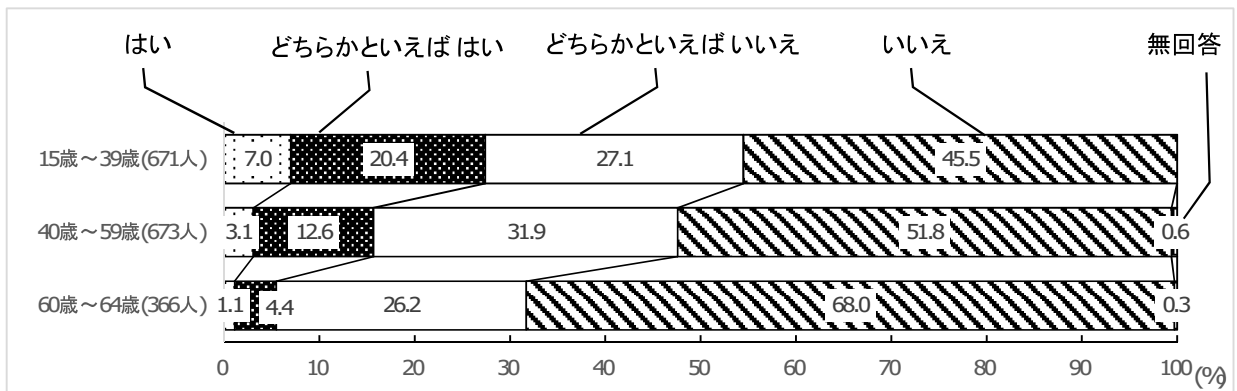
広義のひきこもり群



親和群



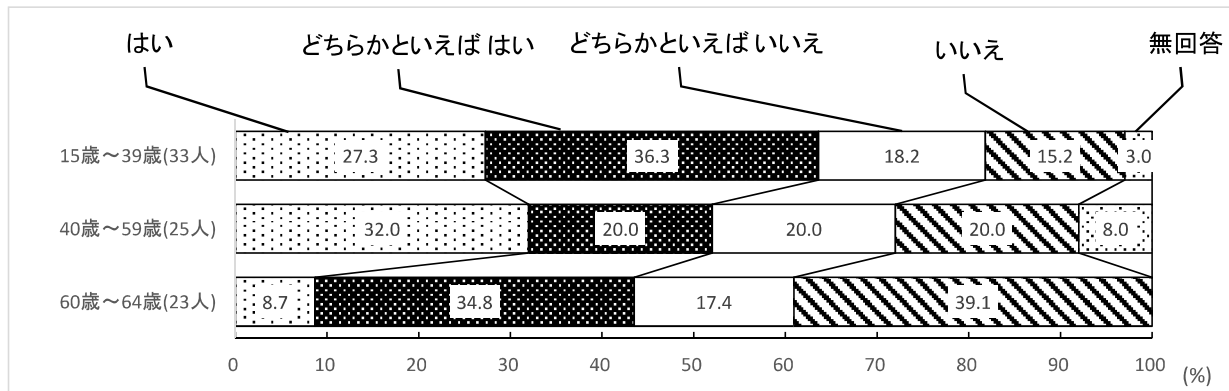
一般群



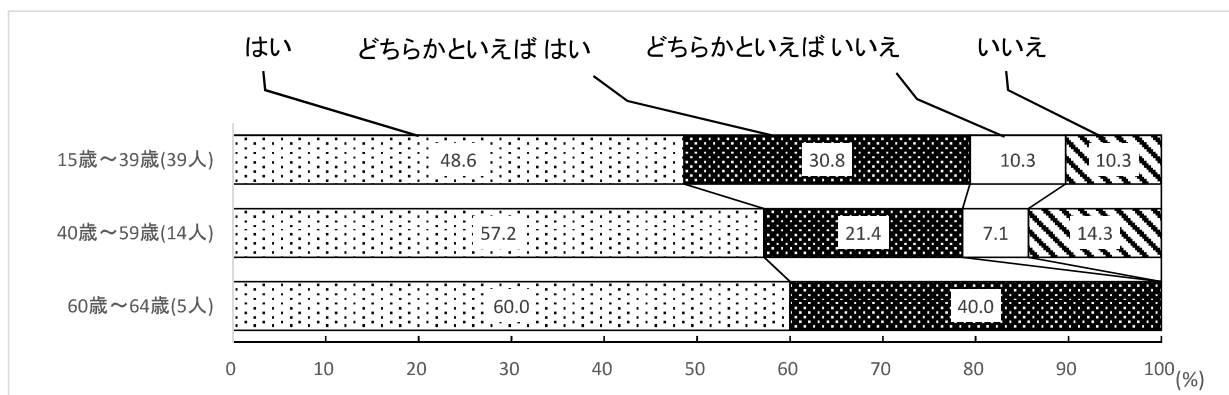
広義のひきこもり群の「はい」「どちらかといえば はい」が15歳～39歳で57.6%と多くなっている。

4. 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く

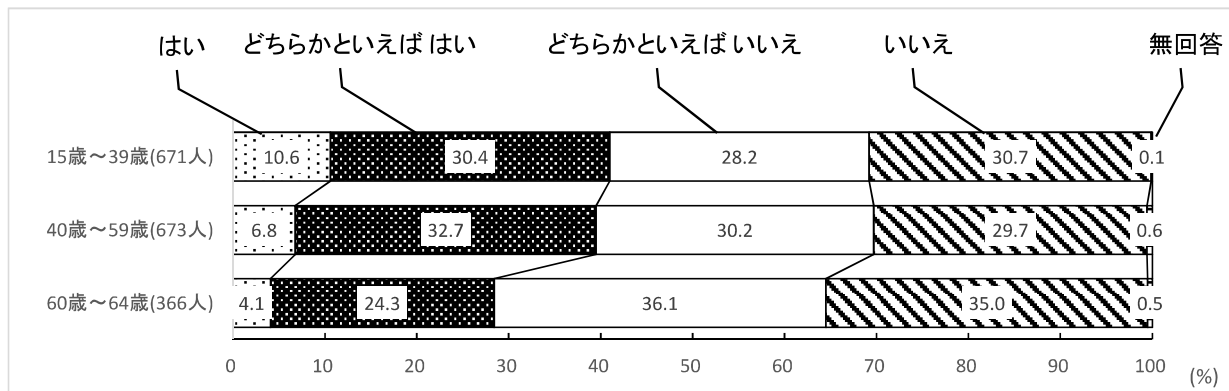
広義のひきこもり群



親和群



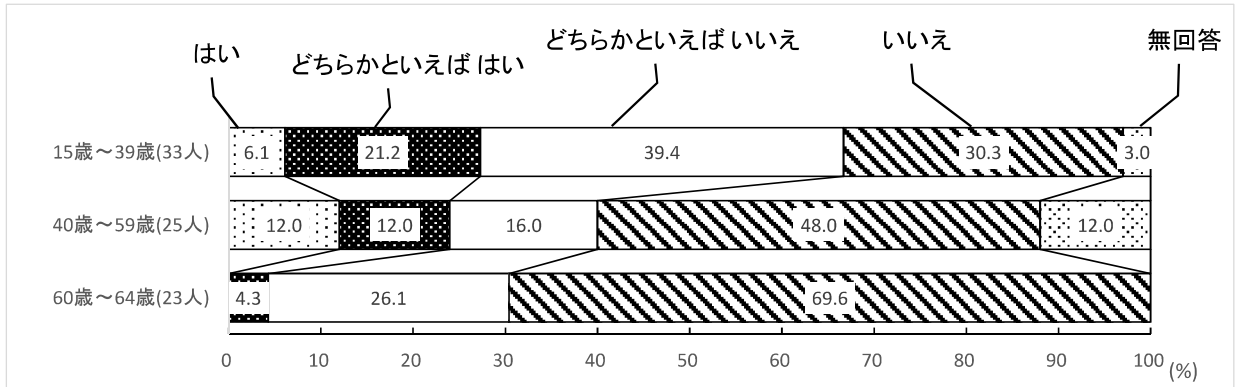
一般群



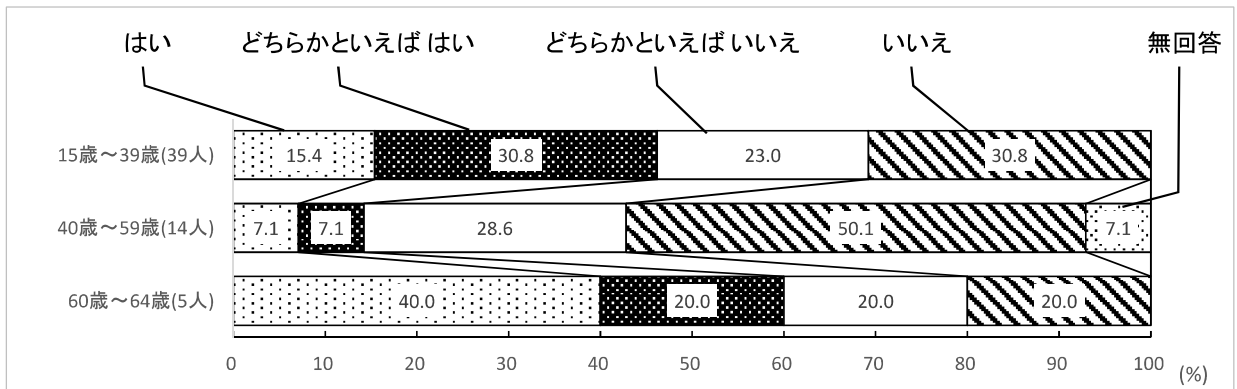
広義のひきこもり群の「はい」「どちらかといえば はい」が15歳～39歳で63.6%と多くなっている。

5. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ

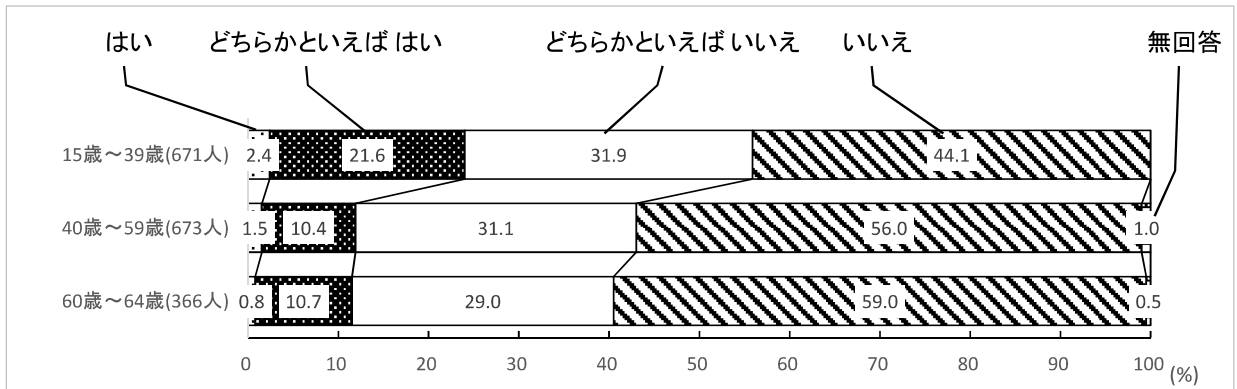
広義のひきこもり群



親和群



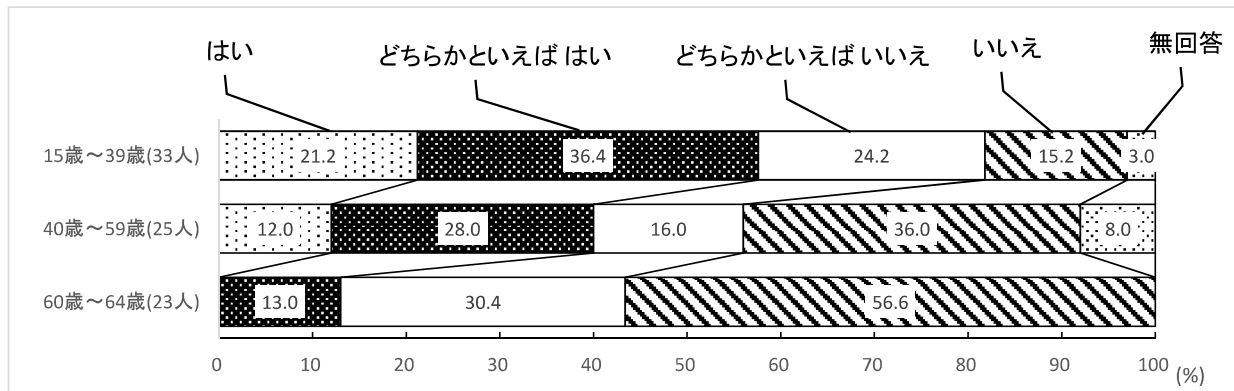
一般群



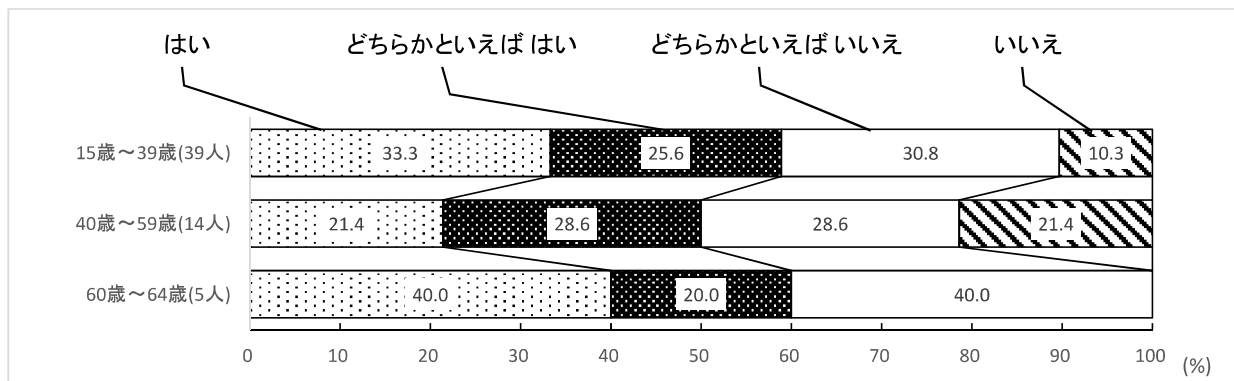
広義のひきこもり群では全体的に「どちらかといえばいいえ」「いいえ」の割合が多くなっている。親和群では15歳～39歳で「はい」「どちらかといえばはい」の割合が46.2%とやや多い傾向となっている。

6. 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ

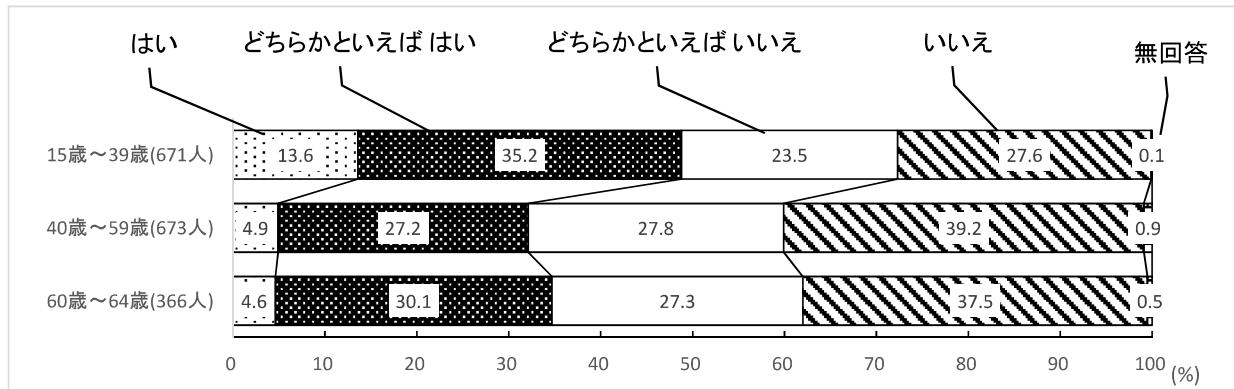
広義のひきこもり群



親和群



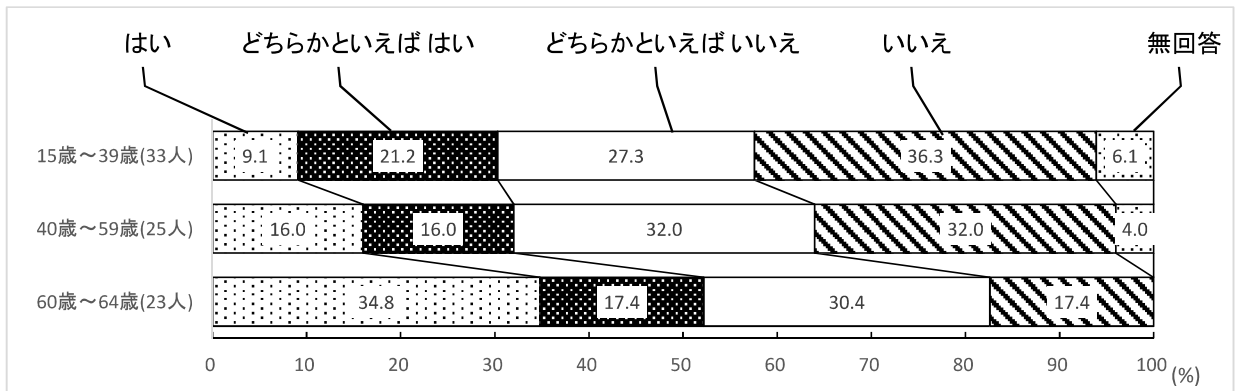
一般群



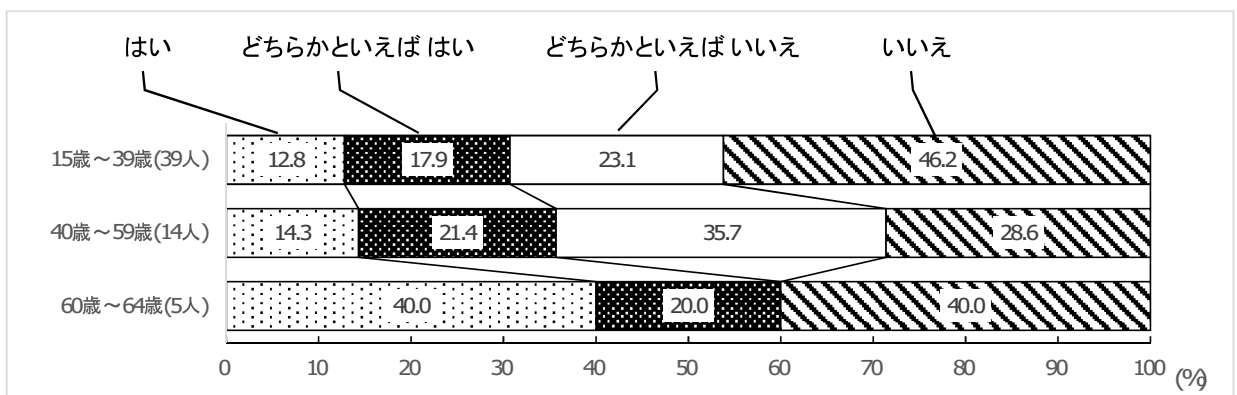
広義のひきこもり群の「はい」「どちらかといえば はい」が15歳～39歳で57.6%と多くなっている。

7. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある

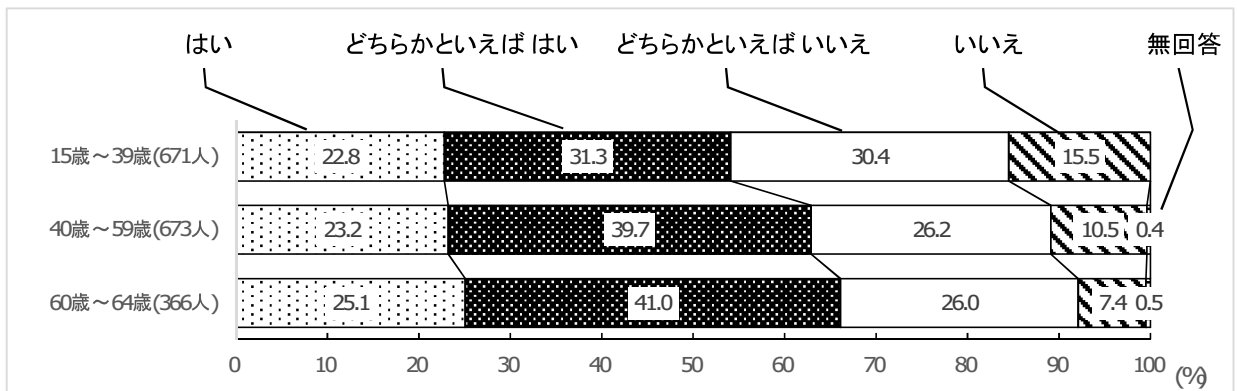
広義のひきこもり群



親和群



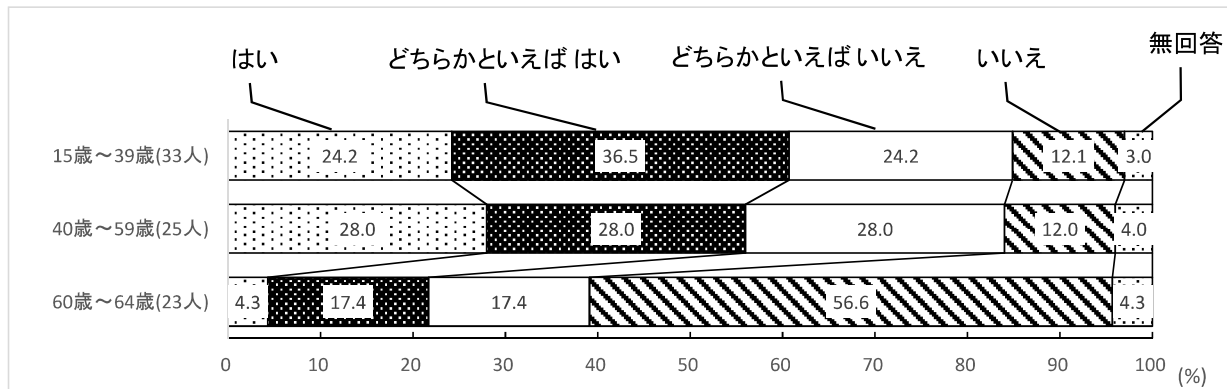
一般群



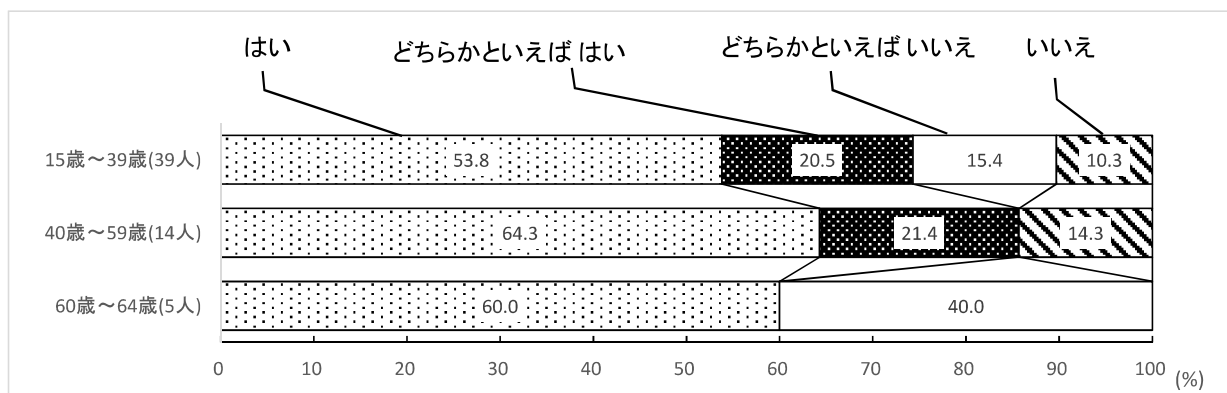
広義のひきこもり群および親和群の15歳～39歳、40歳～59歳において、「はい」「どちらかといえばはい」の割合が少なくなっている。

8. 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む

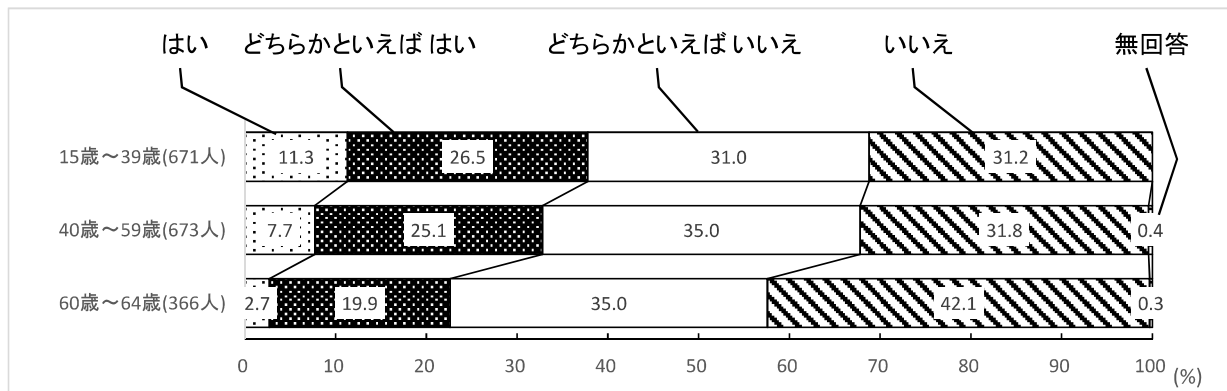
広義のひきこもり群



親和群



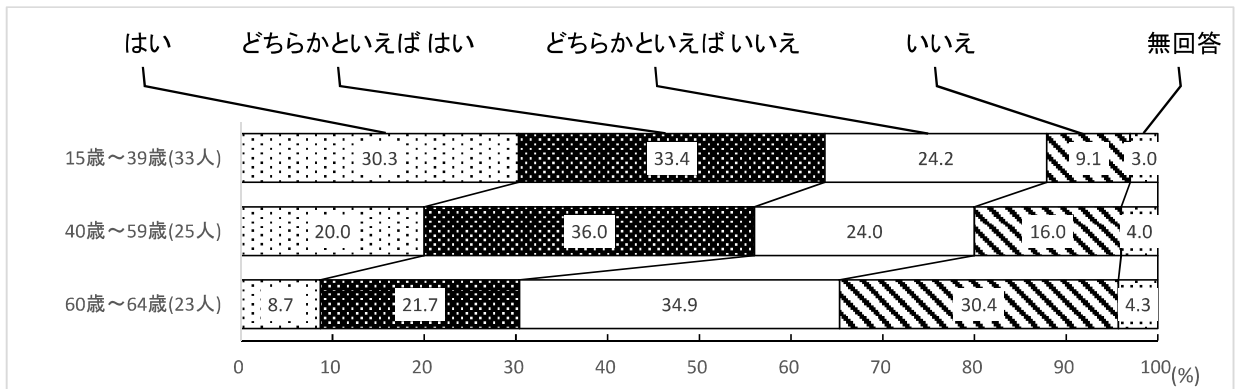
一般群



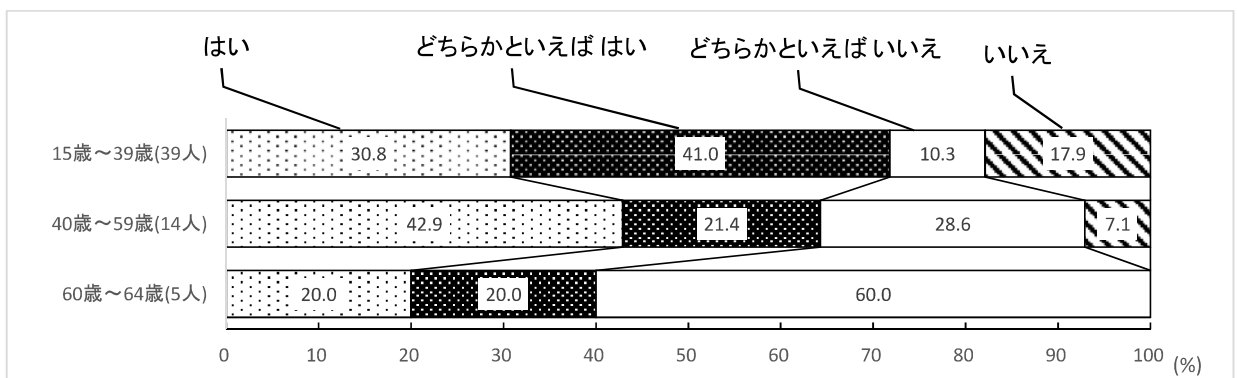
親和群では「はい」「どちらかといえば はい」の割合が他の群と比べて多くなっている。

9. 自分の感情を表に出すのが苦手だ

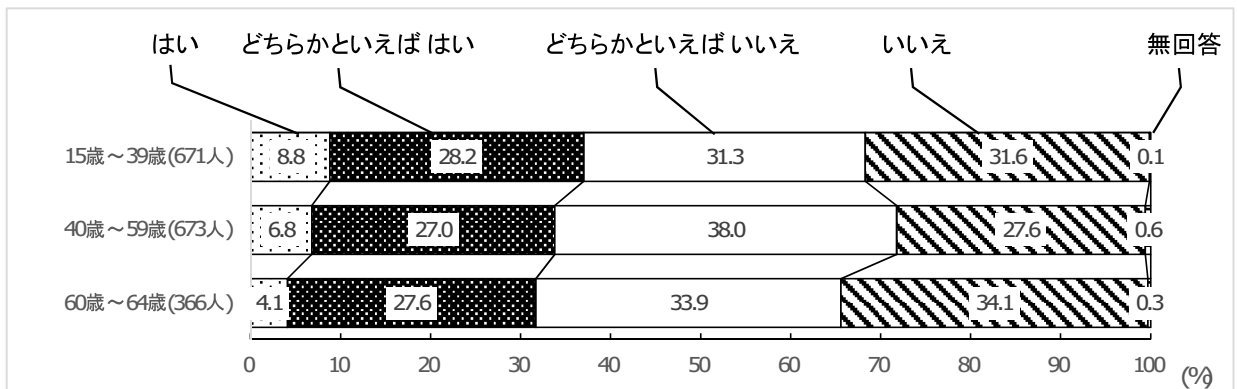
広義のひきこもり群



親和群



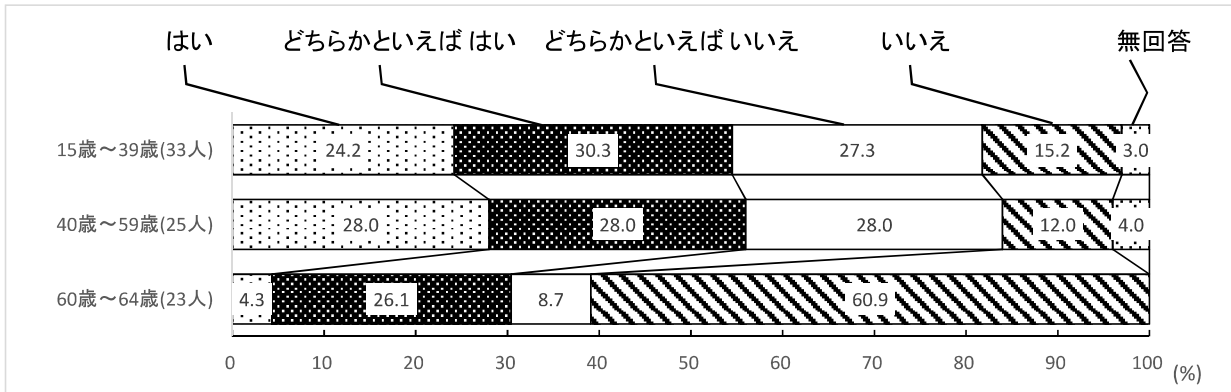
一般群



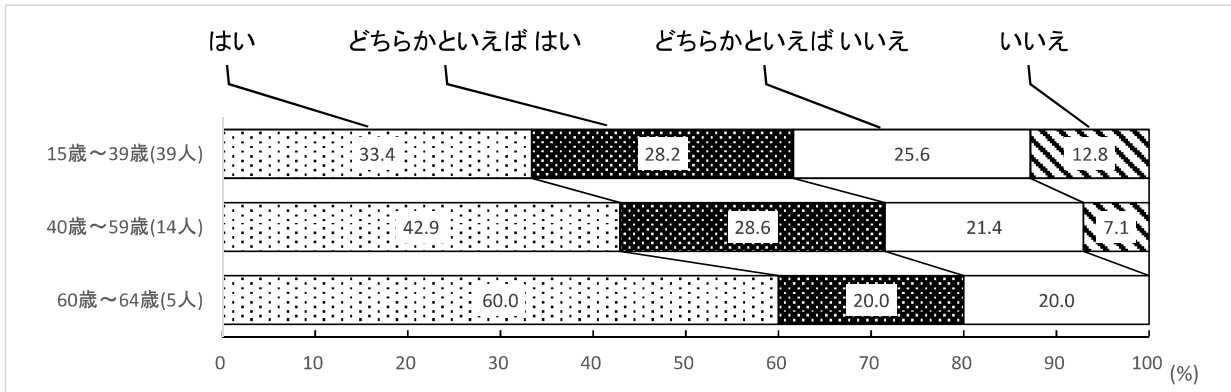
広義のひきこもり群および親和群の15歳～39歳、40歳～59歳において、「はい」「どちらかといえばはい」の割合が多くなっている。

10. 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない

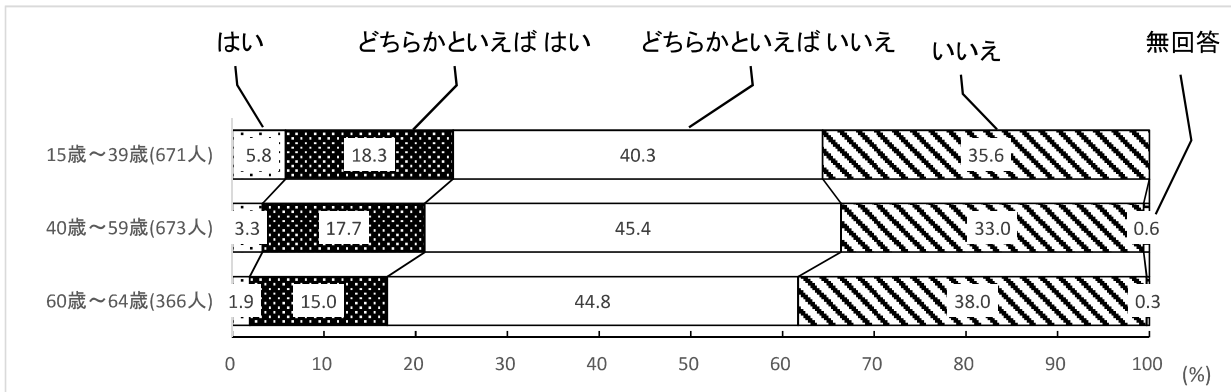
広義のひきこもり群



親和群



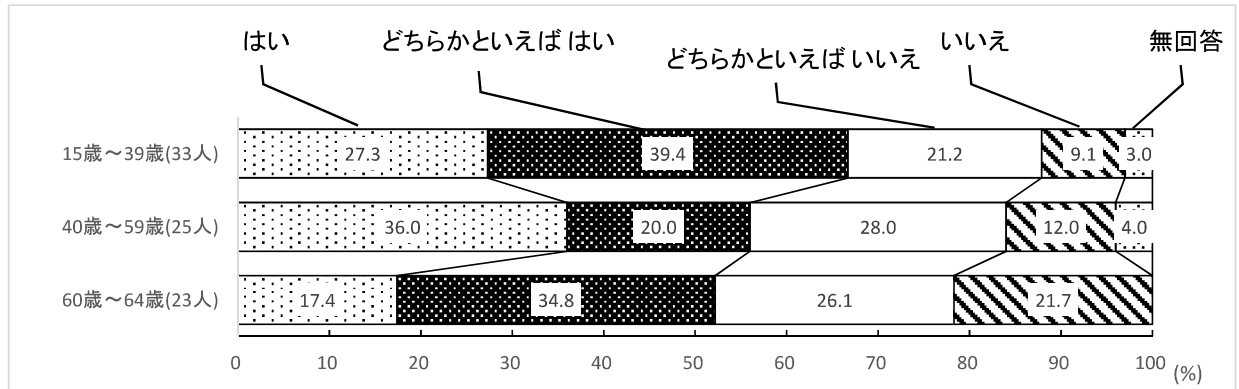
一般群



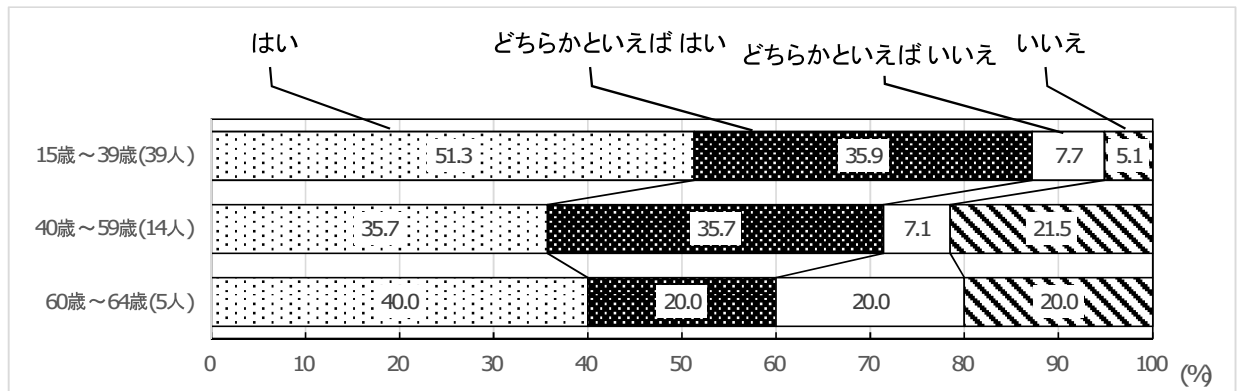
親和群では「はい」「どちらかといえば はい」の割合が15歳～39歳(61.6%)、40歳～59歳(71.5%)、60歳～64歳(80.0%)と、年齢層が上がるにつれて増加傾向がみられる。

11. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい

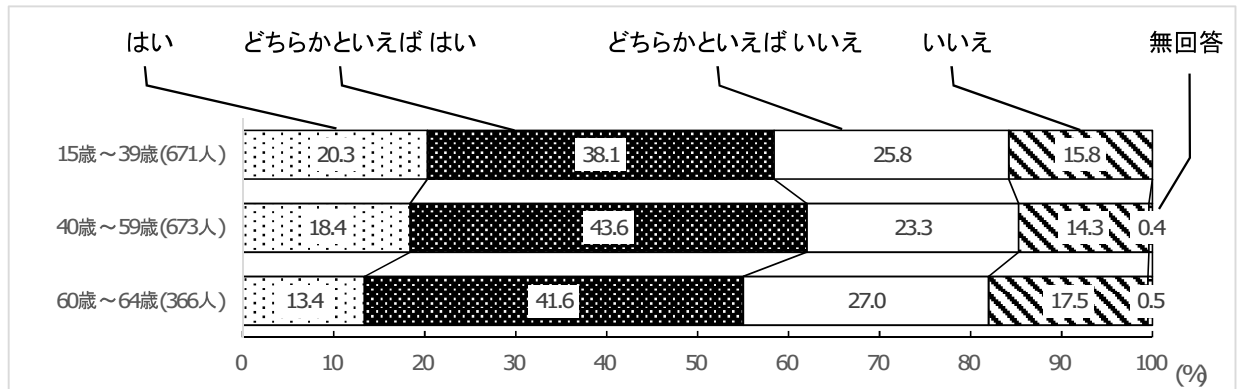
広義のひきこもり群



親和群



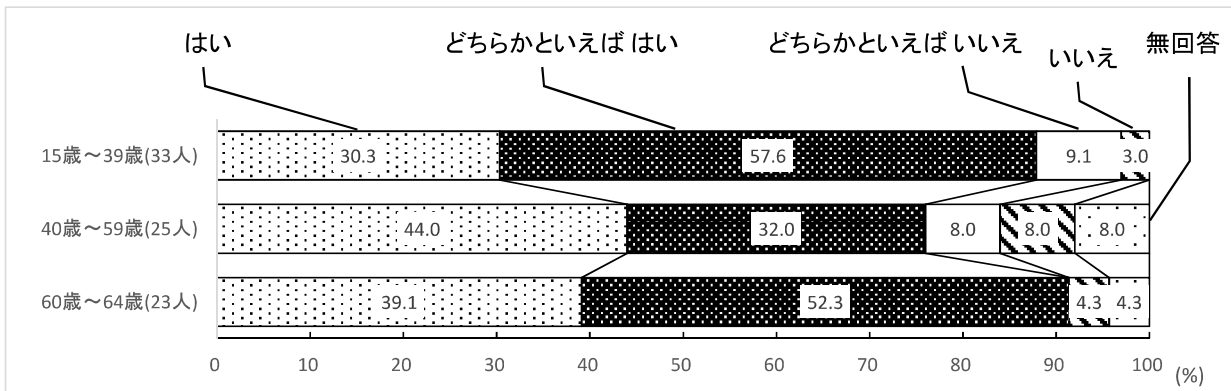
一般群



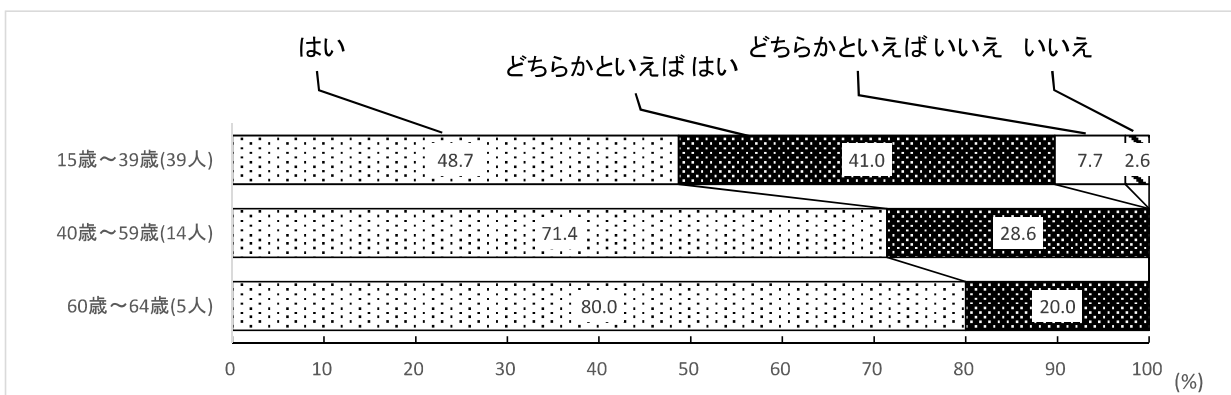
親和群の15歳～39歳において、「はい」「どちらかといえばはい」の割合が87.2%と多くなっている。

12. 自分の生活のことで人から干渉されたくない

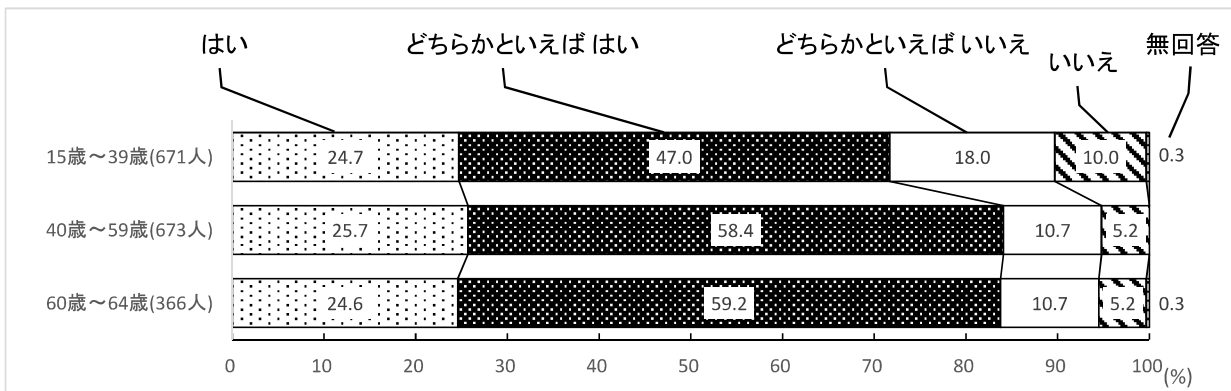
広義のひきこもり群



親和群



一般群

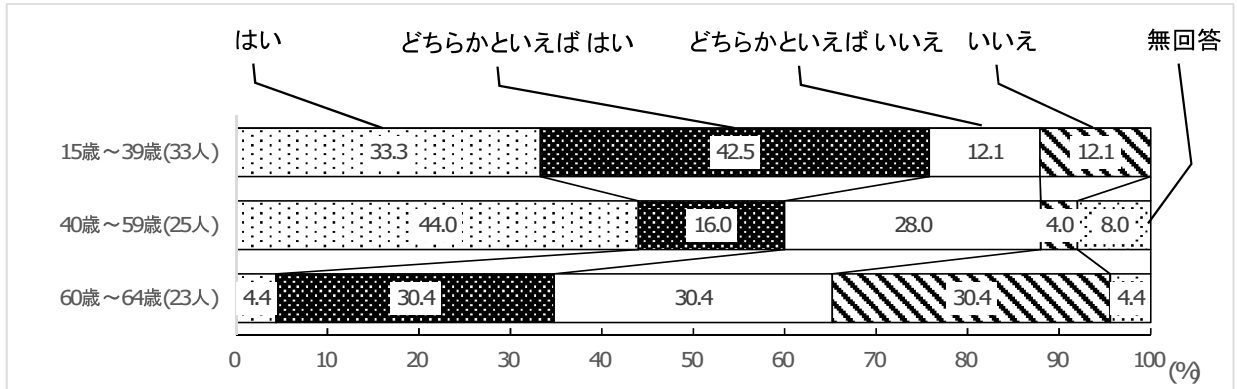


全体的に「はい」「どちらかといえば はい」の割合が多くなっている。

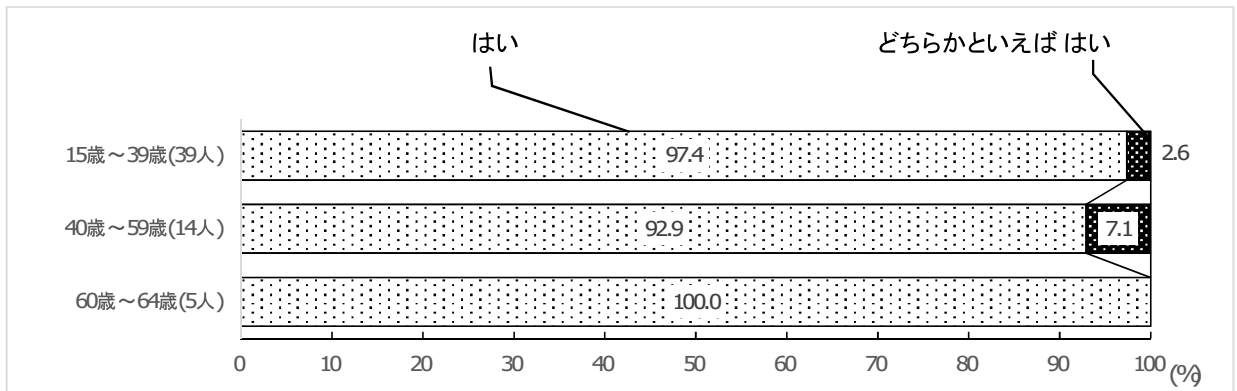
※Q29の13.～16.の設問は、親和群を判定するために使用

13. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる

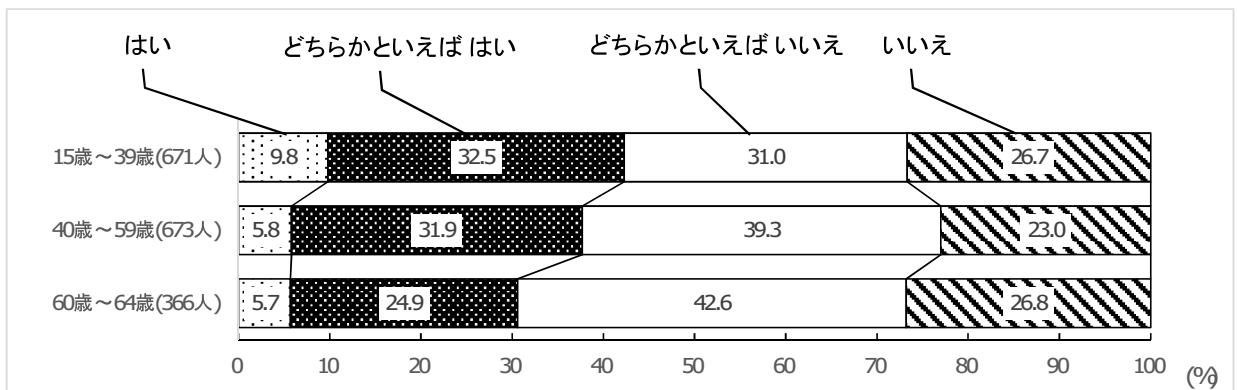
広義のひきこもり群



親和群

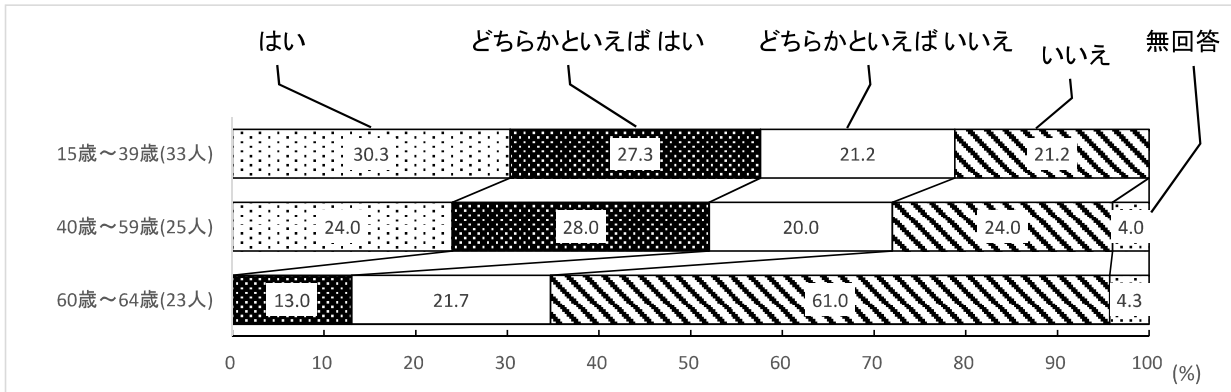


一般群

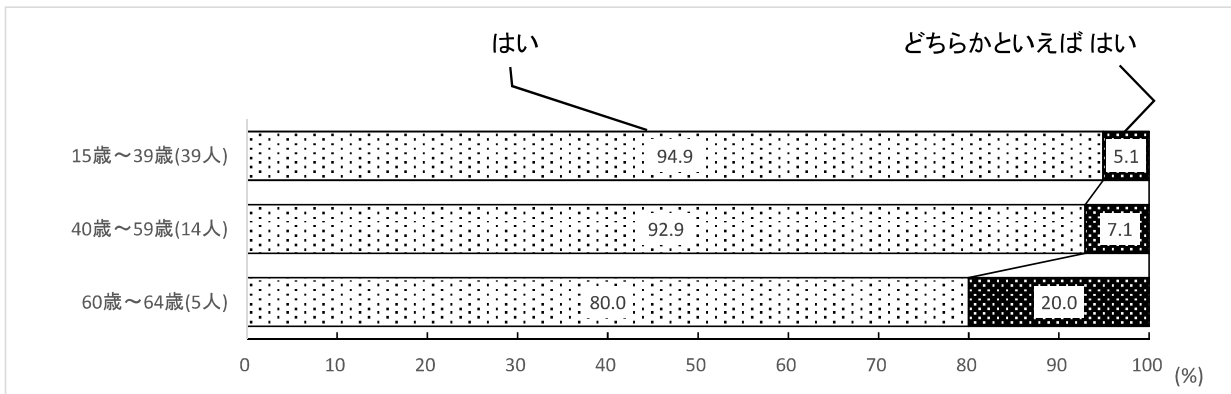


14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

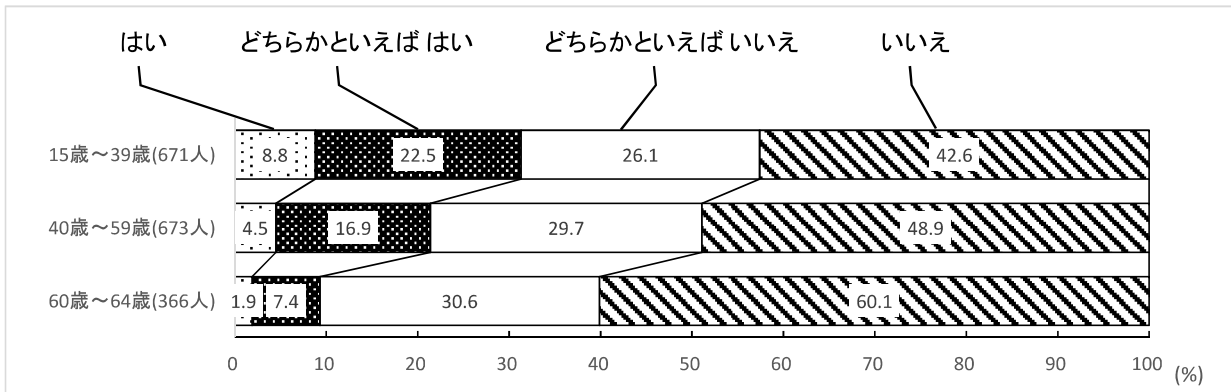
広義のひきこもり群



親和群

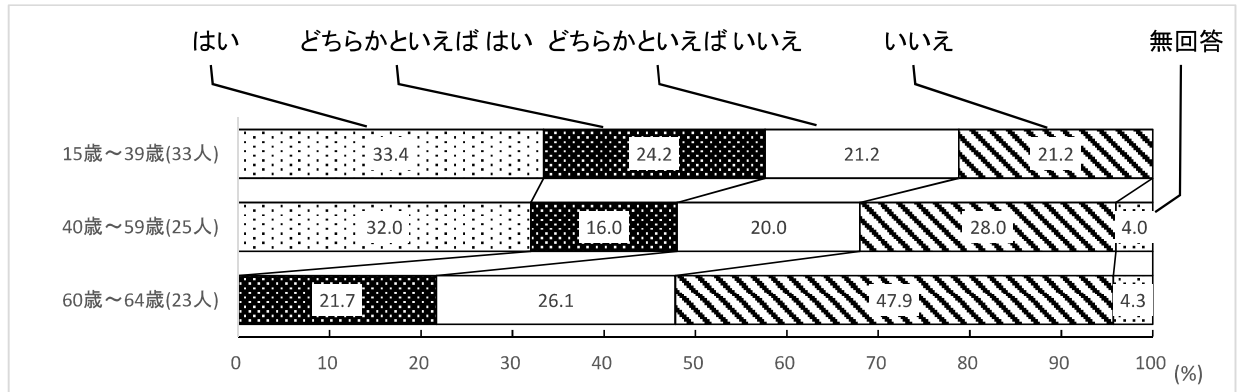


一般群

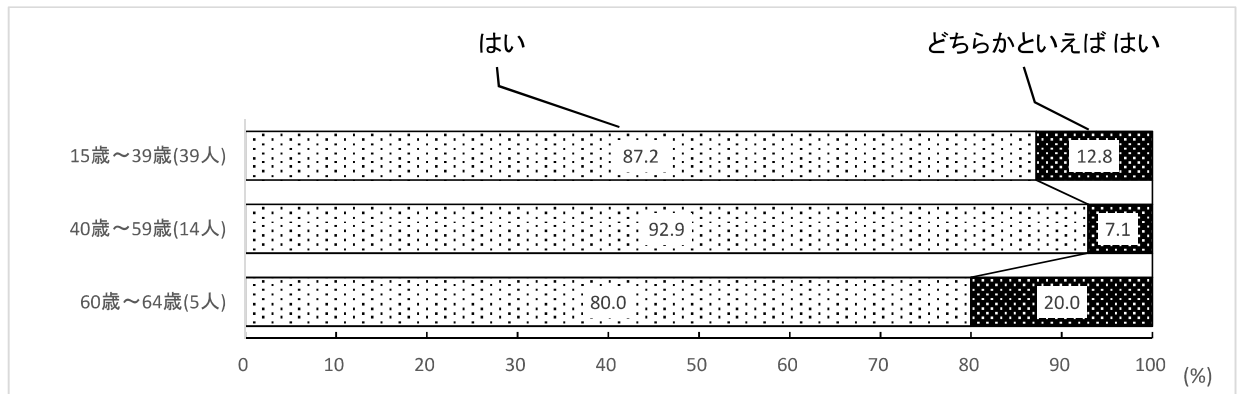


15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

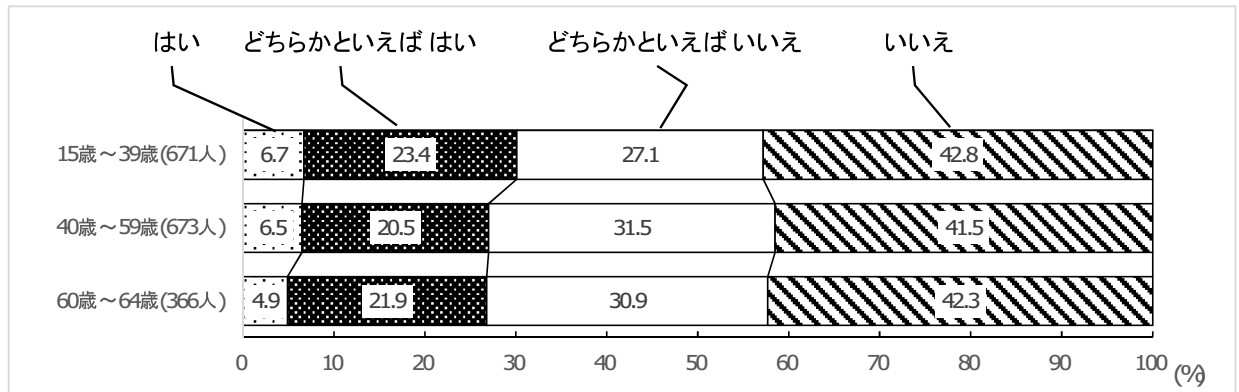
広義のひきこもり群



親和群

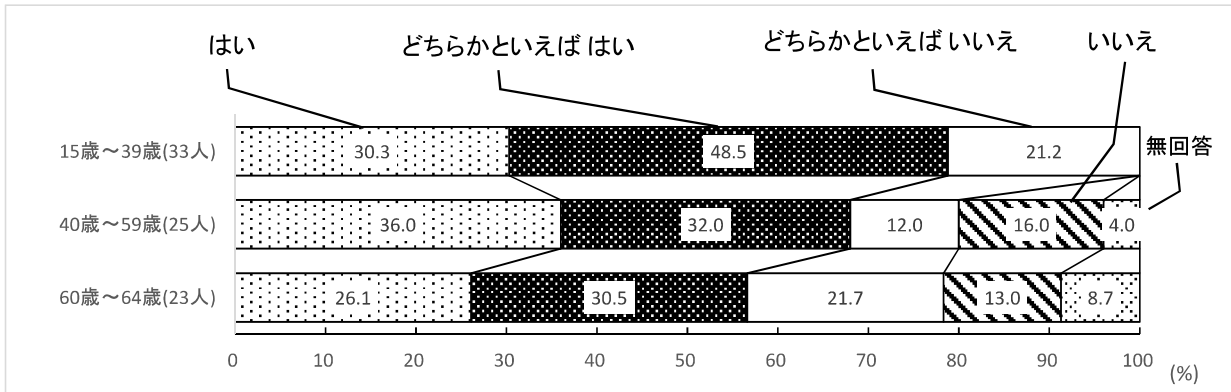


一般群

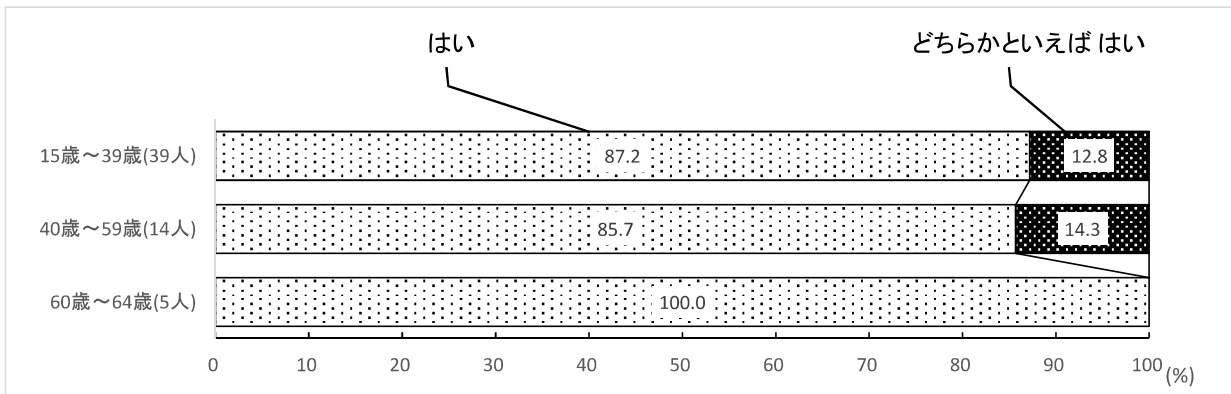


16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

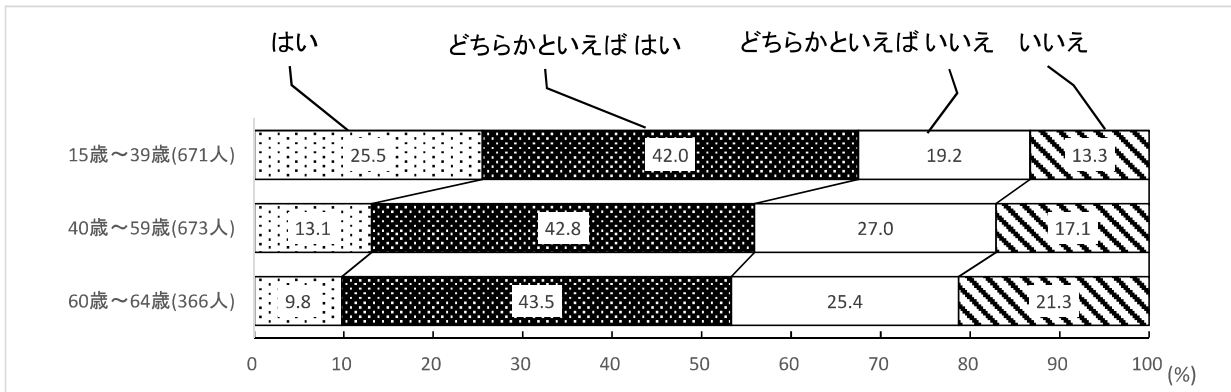
広義のひきこもり群



親和群



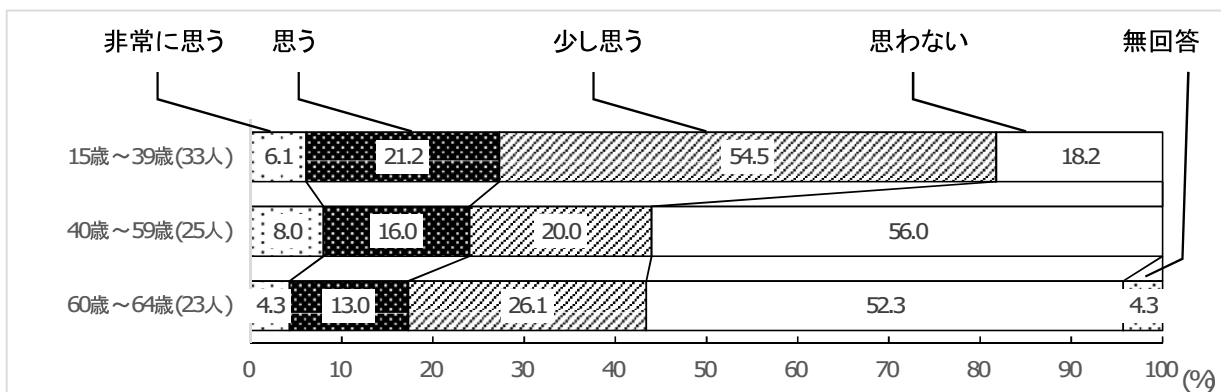
一般群



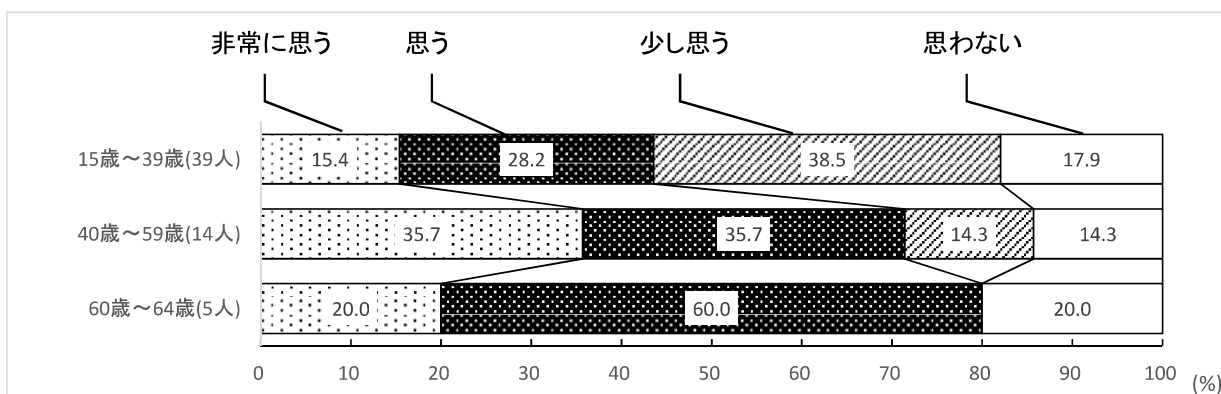
(9) 悩み事の相談に関すること

Q30 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(〇はひとつだけ)

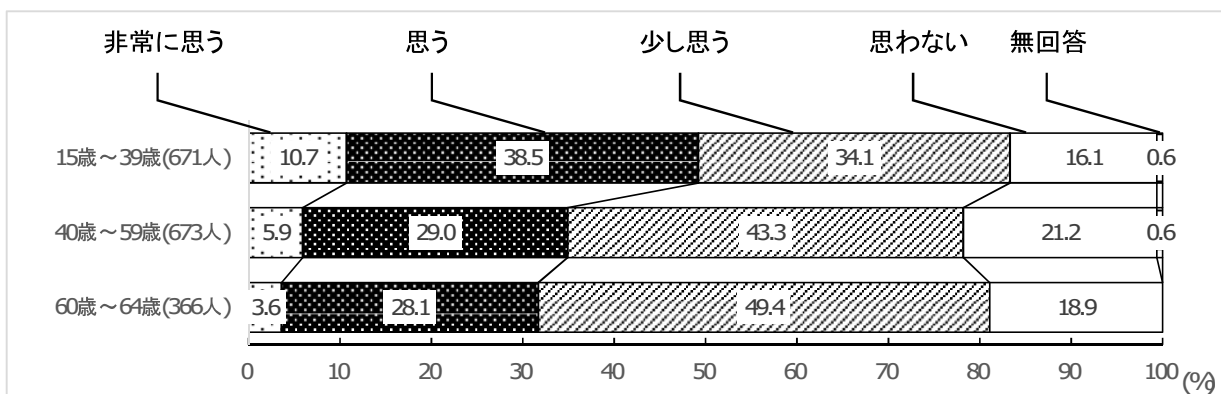
広義のひきこもり群



親和群



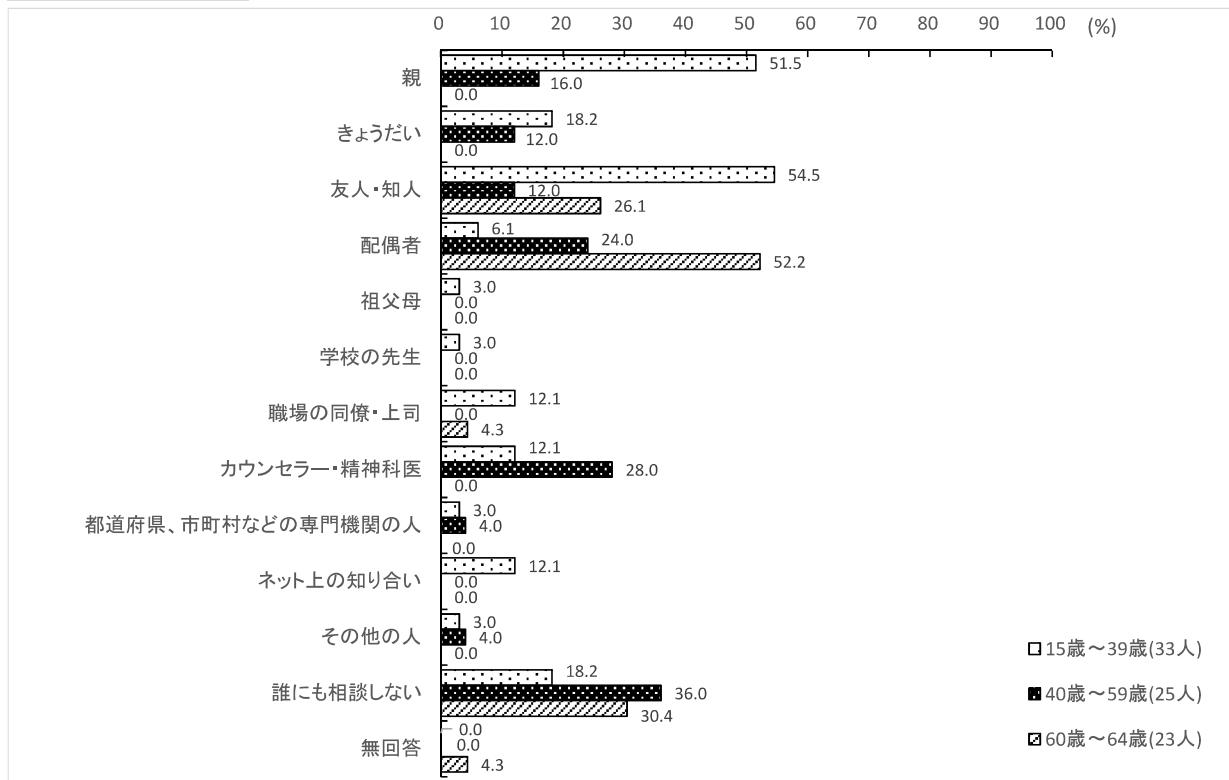
一般群



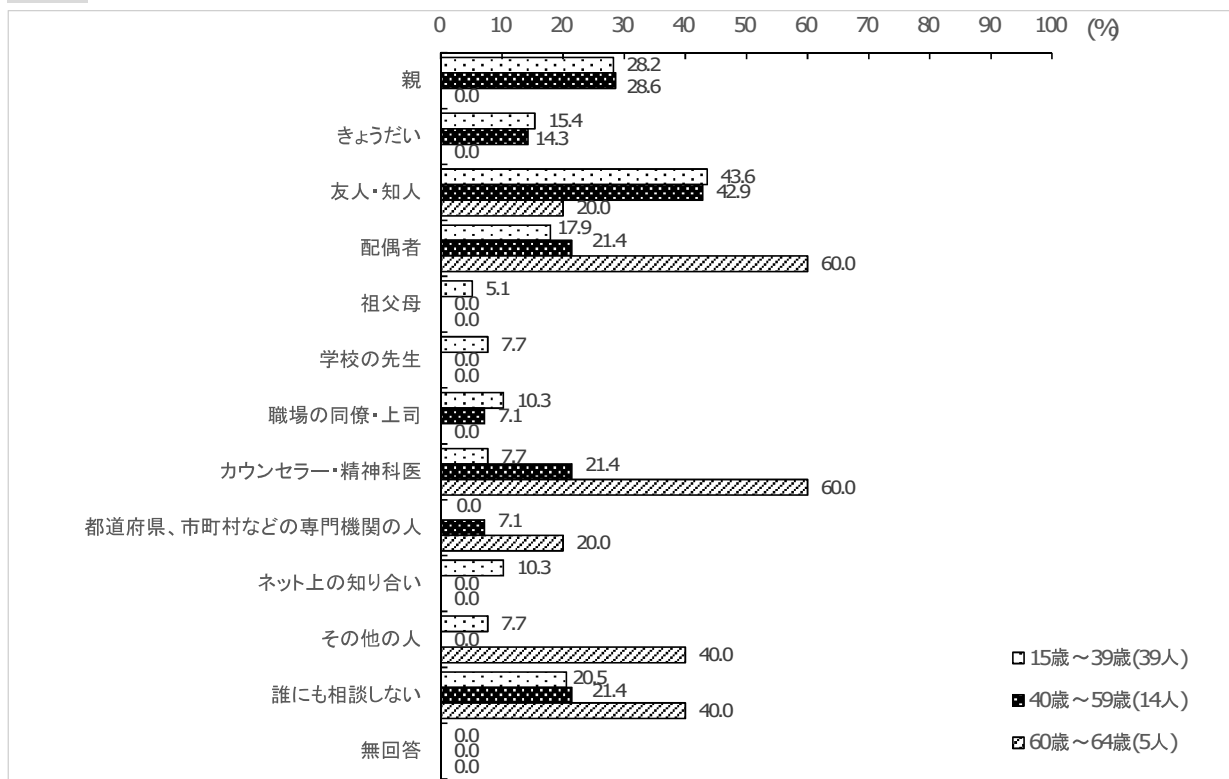
広義のひきこもり群では「思わない」の割合が40歳～59歳(56.0%)、60歳～64歳(52.3%)と15歳～39歳(18.2%)と比べて多くなっている。

Q31 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

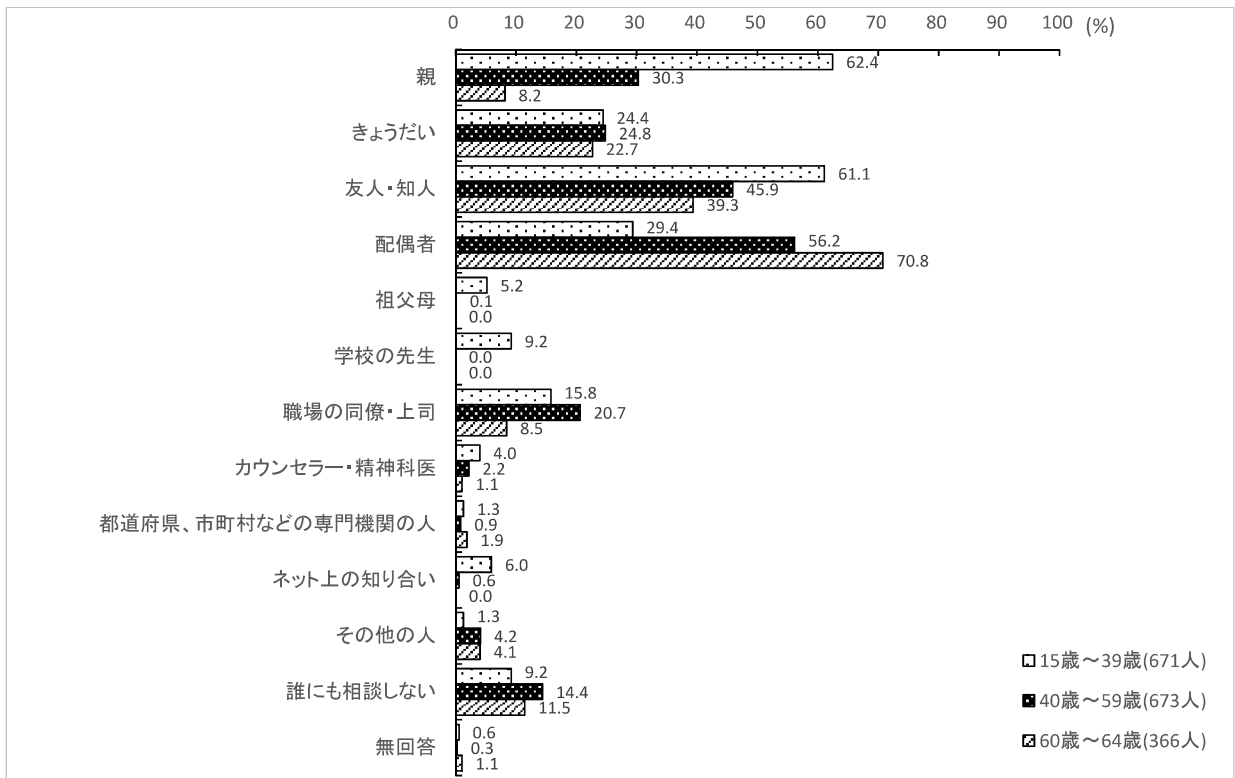
広義のひきこもり群



親和群



一般群



広義のひきこもり群では、15歳～39歳では「親」「友人・知人」が多く、40歳～59歳では「誰にも相談しない」「カウンセラー・精神科医」が多く、60歳～64歳になると「配偶者」が多かった。

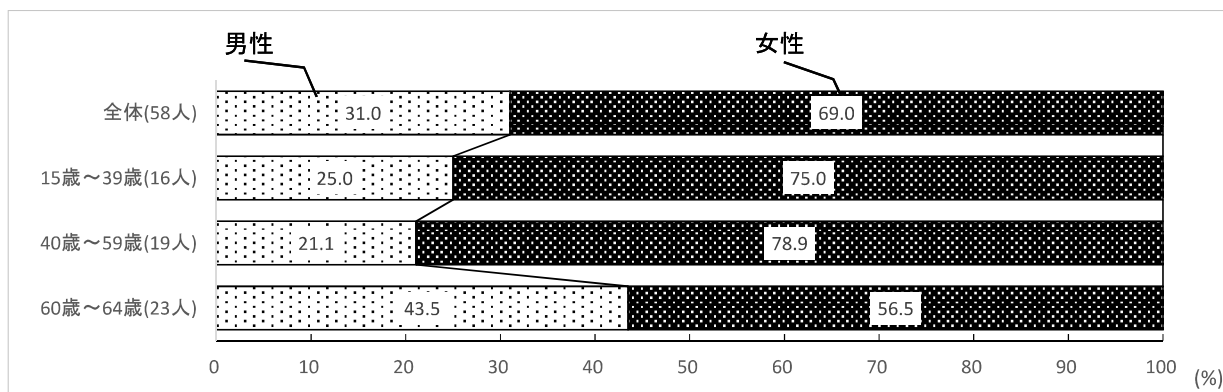
IV 家族向けアンケート調査の結果

IV 家族向けアンケート調査の結果

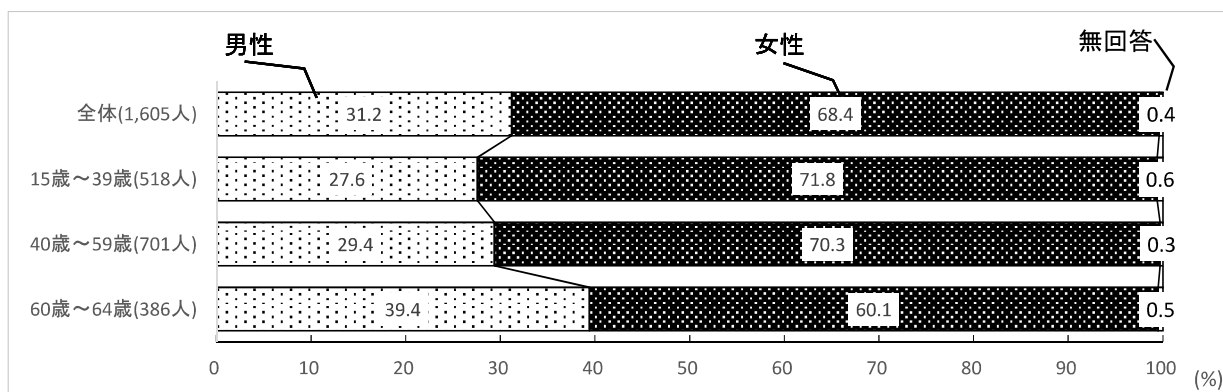
(1) 調査対象者および家族の基本的属性について

Q1 あなたの性別をお答えください。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



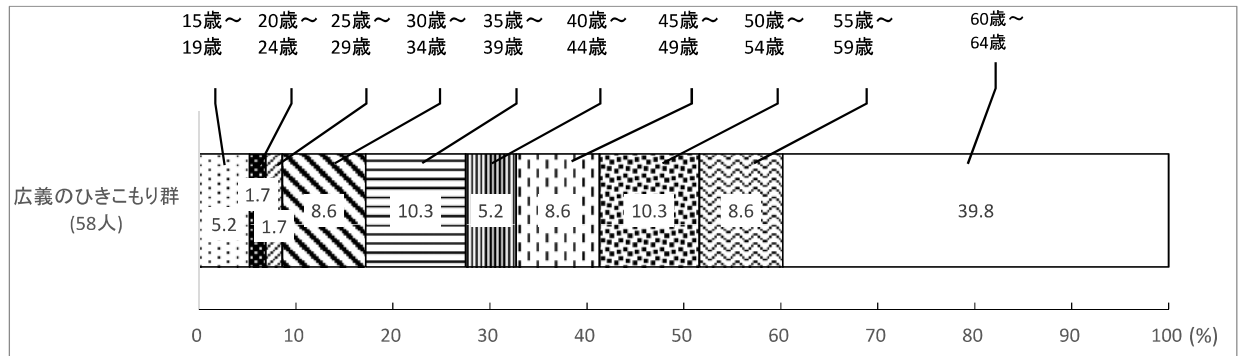
一般群



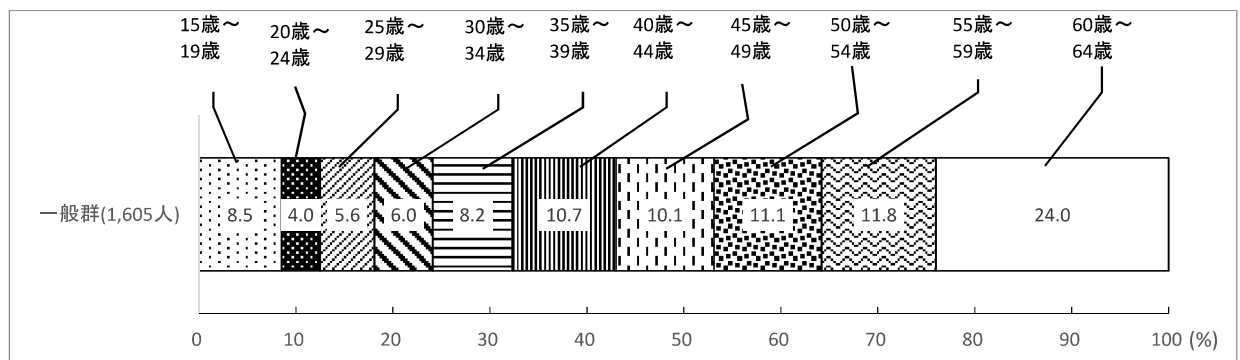
広義のひきこもり群，一般群共に女性の回答が多かった(広義のひきこもり群男性 31.0%，女性 69.0%，一般群男性 31.2%，女性 68.4%)。

Q2 調査対象者の方の年齢(令和2年4月1日現在)をお答えください。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



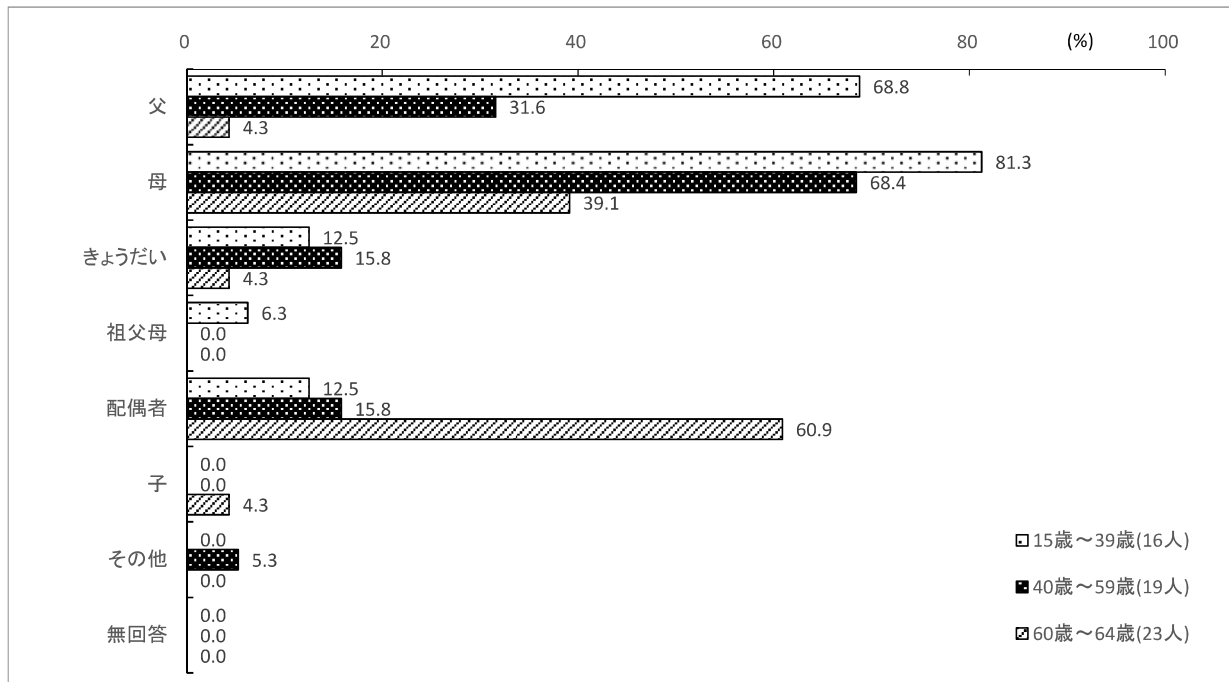
一般群



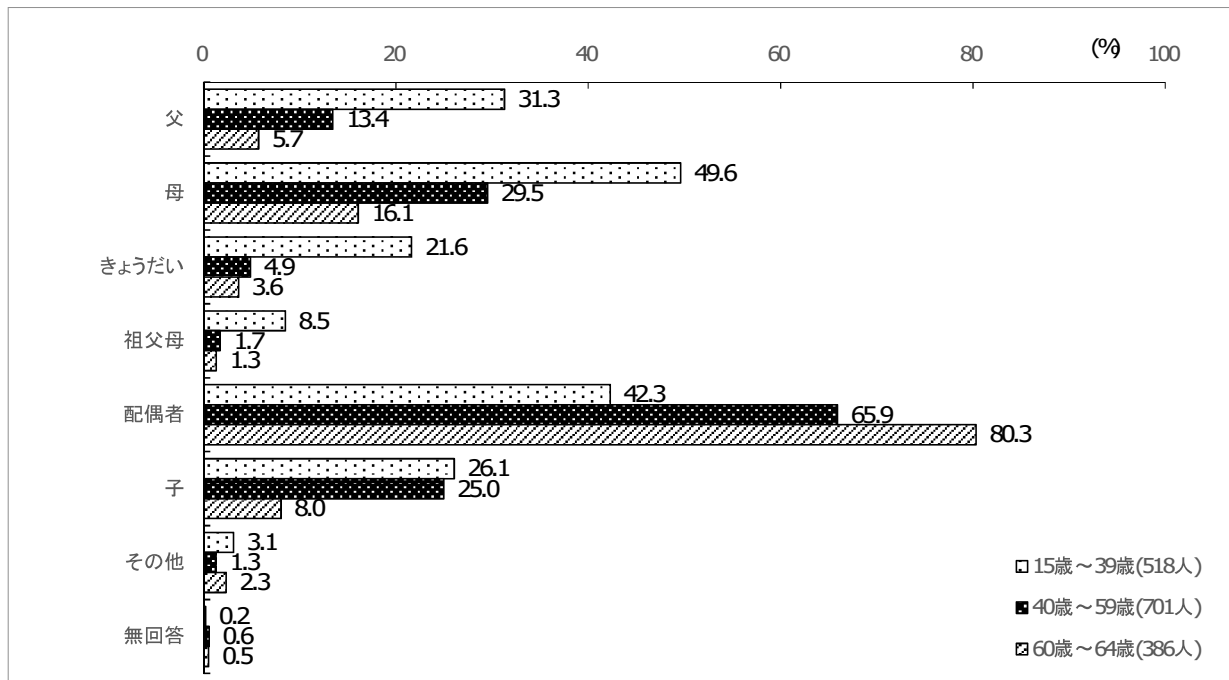
広義のひきこもり群では、60歳～64歳が39.8%と一番多くなっている。次いで35歳～39歳、50歳～54歳が10.3%と多い。

Q3 現在、調査対象者の方と同居している調査対象者の方から見たご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

広義のひきこもり群



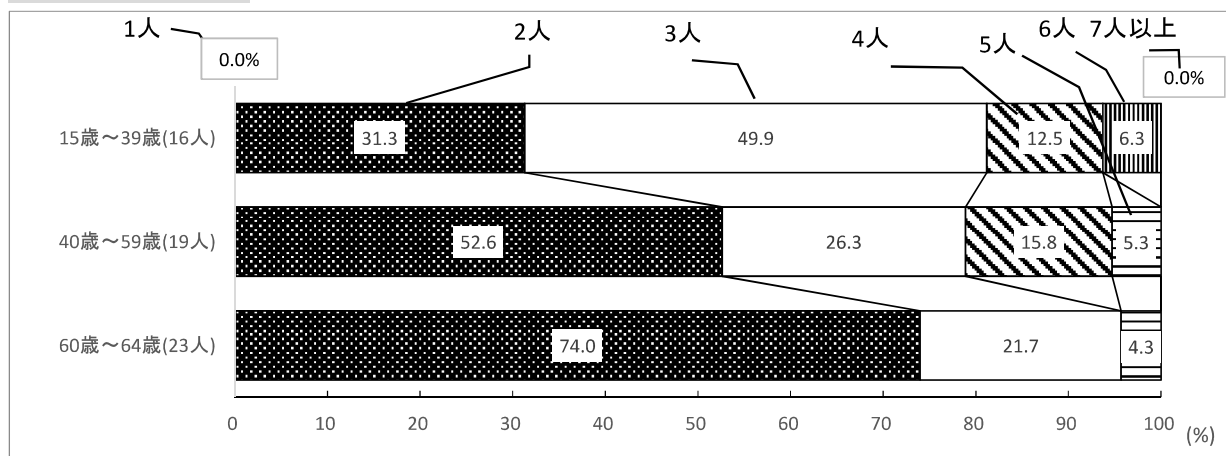
一般群



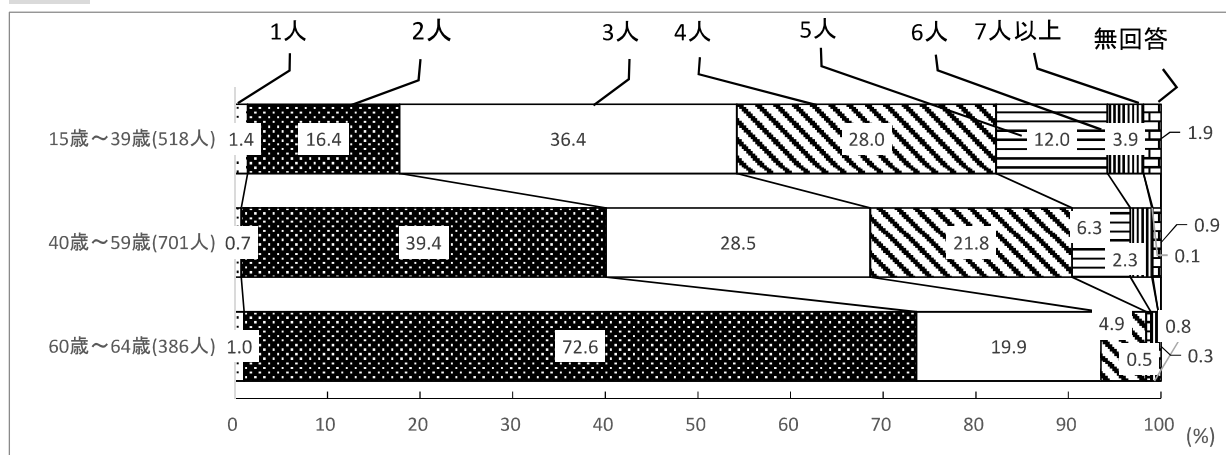
広義のひきこもり群において、15歳～39歳および40歳～59歳では「父」・「母」の割合が多かった。60歳～64歳では「配偶者」の割合が60.9%と多くなっている。

Q4 現在、同居している人は合計で何人ですか。現在、調査票にご回答いただいている方および調査対象者の方も含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)

広義のひきこもり群



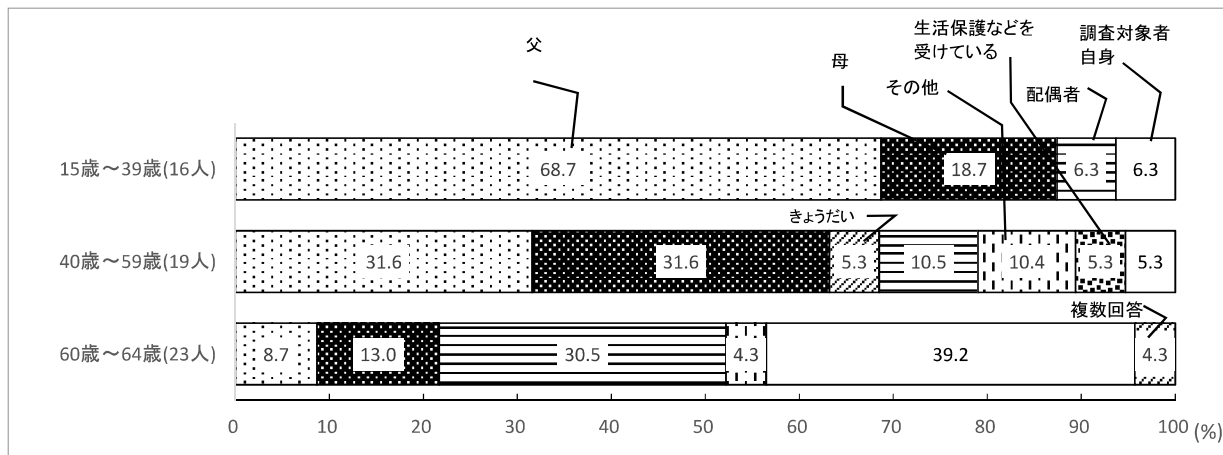
一般群



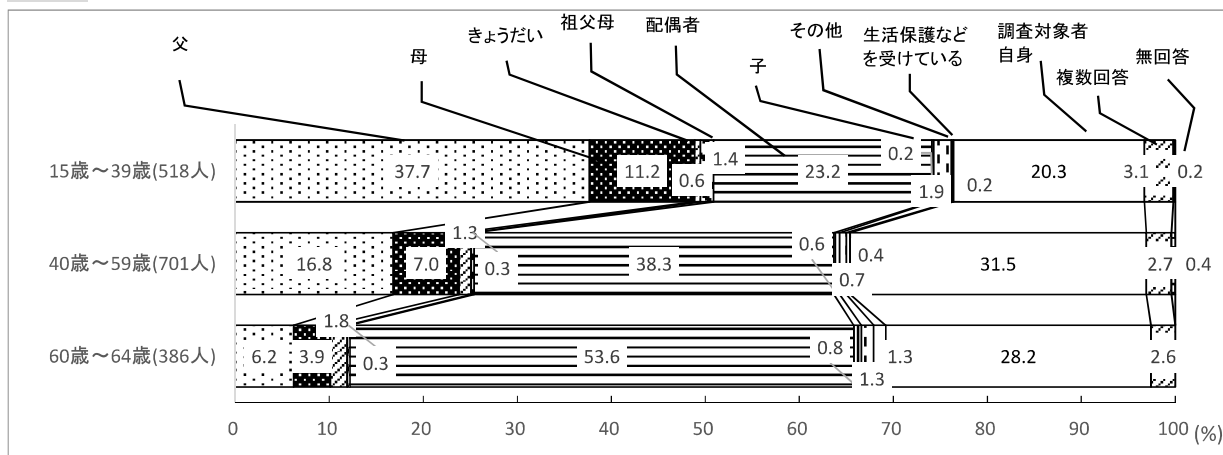
広義のひきこもり群について「2人」を年齢別に見ると、15歳～39歳(31.3%)、40歳～59歳(52.6%)、60歳～64歳(74.0%)と高齢になるにつれて二人世帯が増加傾向になる。

Q5 調査対象者の方の家の生計を立てているのは、主に調査対象者の方から見てどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれる人をお答えください。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



一般群

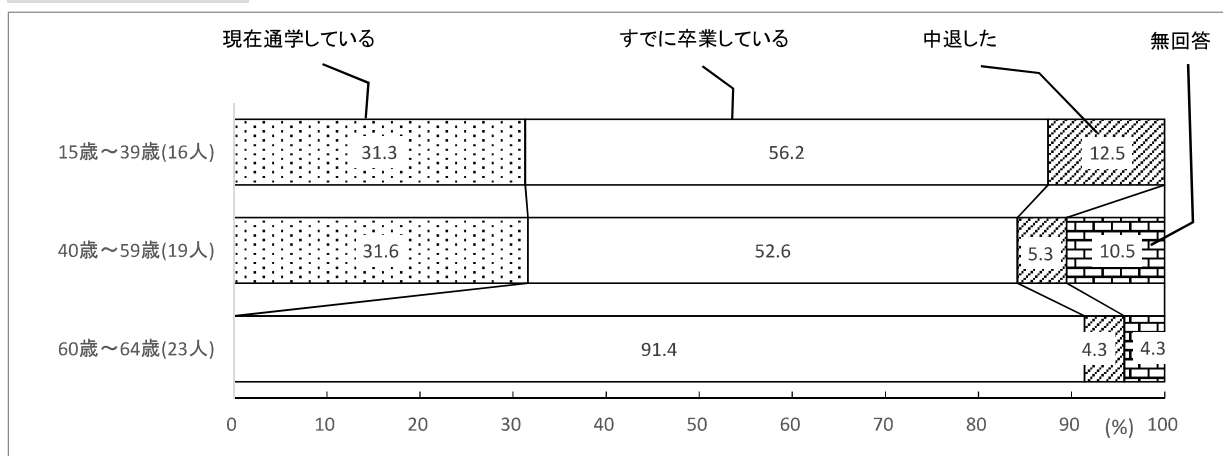


広義のひきこもり群および一般群の15歳～39歳では共に「父親」が最も多い(広義のひきこもり群68.7%、一般群37.7%)。「配偶者」については、広義のひきこもり群では40歳～59歳が10.5%、60歳～64歳が30.5%となっていて、一般群と比べて割合が少なくなっている。

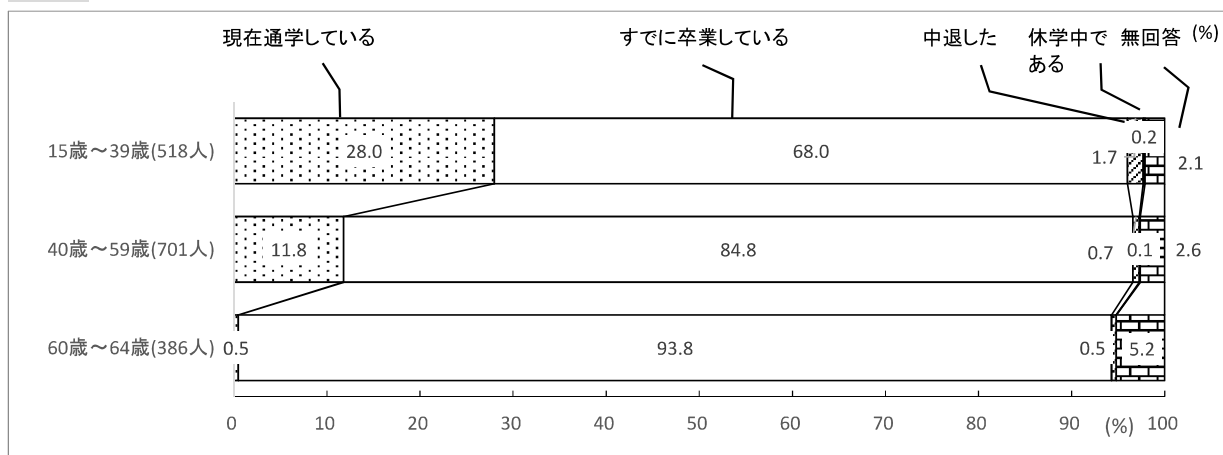
(2) 調査対象者の学校生活に関すること

Q6 調査対象者の方は現在、学校に通っていますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



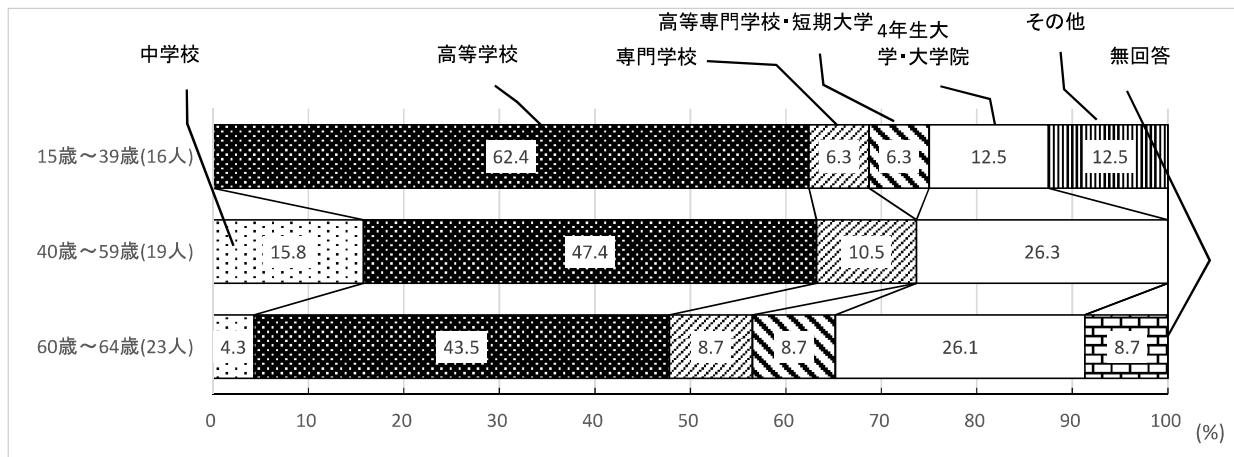
一般群



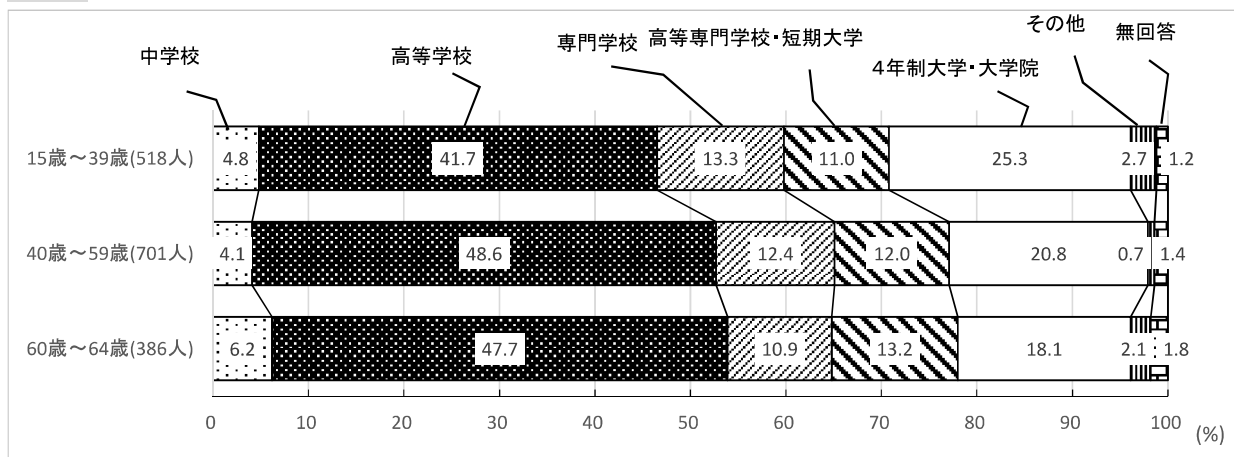
広義のひきこもり群では、15歳～39歳で中退した人は12.5%、以下、40歳～59歳(5.3%)、60歳～64歳(4.3%)となっている。

Q7 調査対象の方が最後に卒業(中退を含む)した、または現在在学している学校はどれですか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



一般群

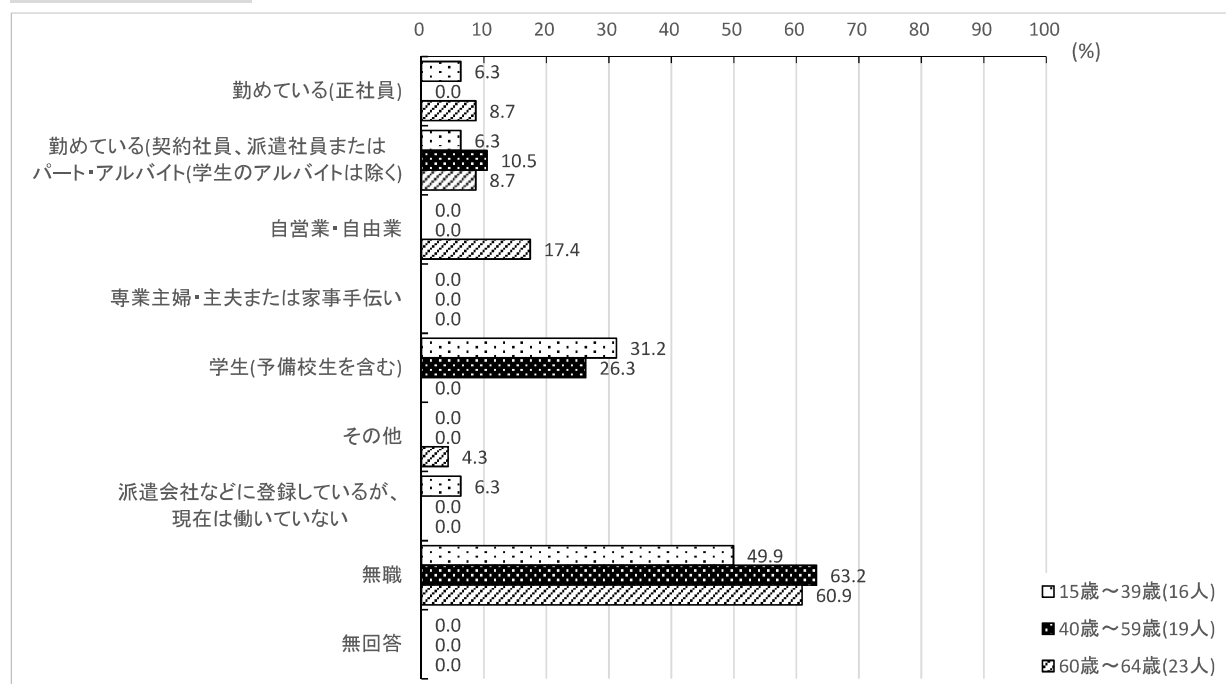


広義のひきこもり群および一般群では、すべての年代で「高等学校」が一番多くなっている。

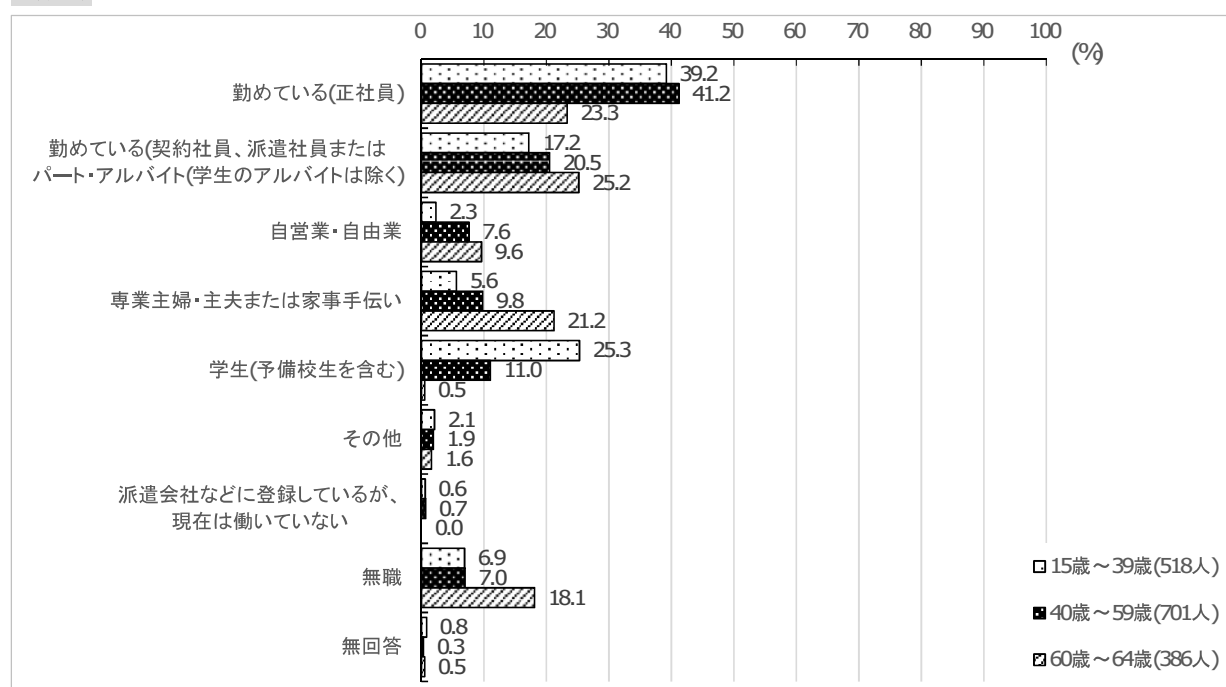
(3) 調査対象者の就労等に関すること

Q8 調査対象者の方は、現在働いていますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



一般群

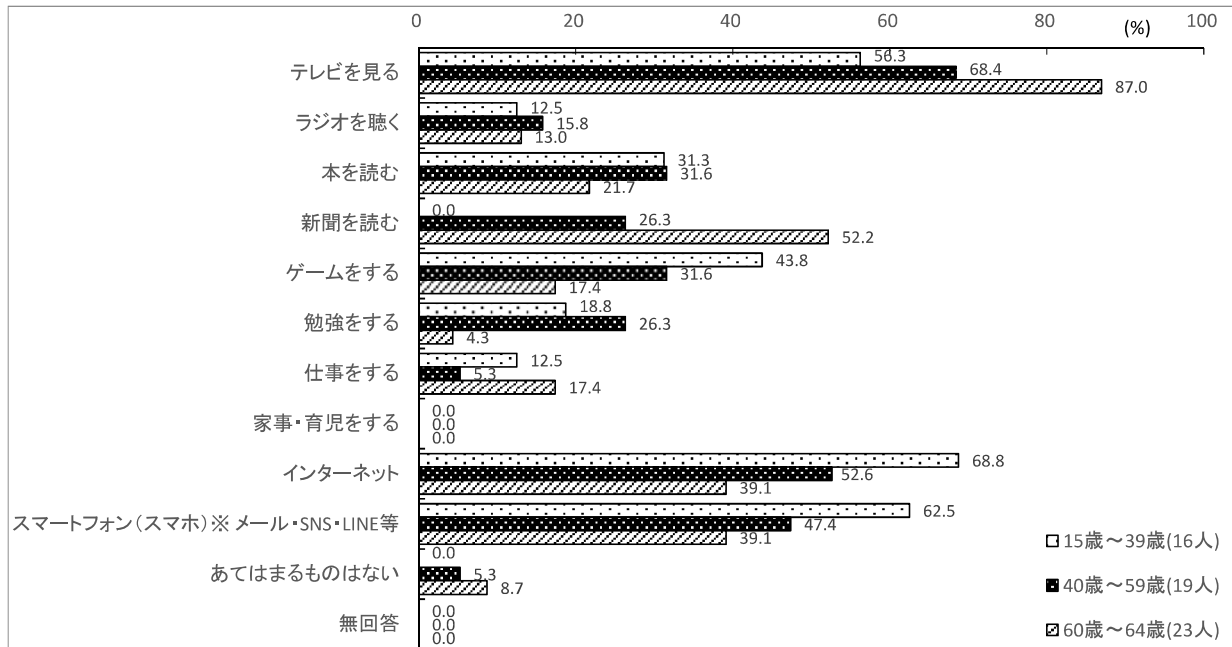


広義のひきこもり群では「無職」の占める割合が多く、15歳～39歳49.9%、40歳～59歳63.2%、60歳～64歳60.9%となっている。

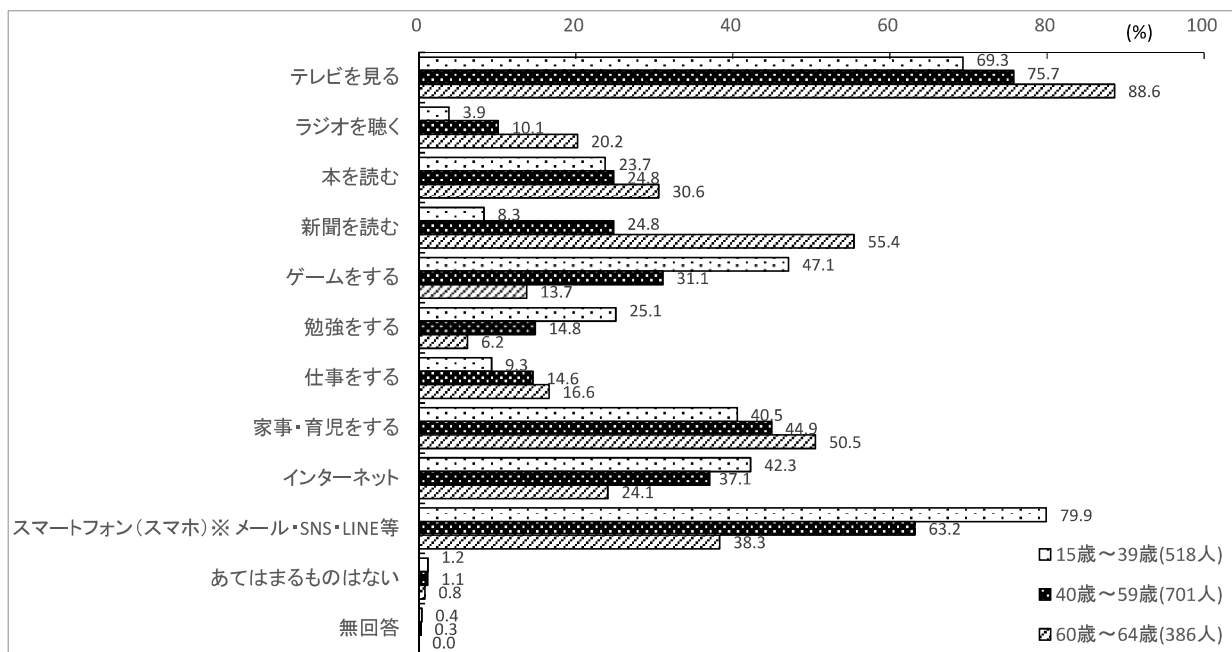
(4) 調査対象者のふだんの活動に関すること

Q9 調査対象者の方が、ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

広義のひきこもり群



一般群

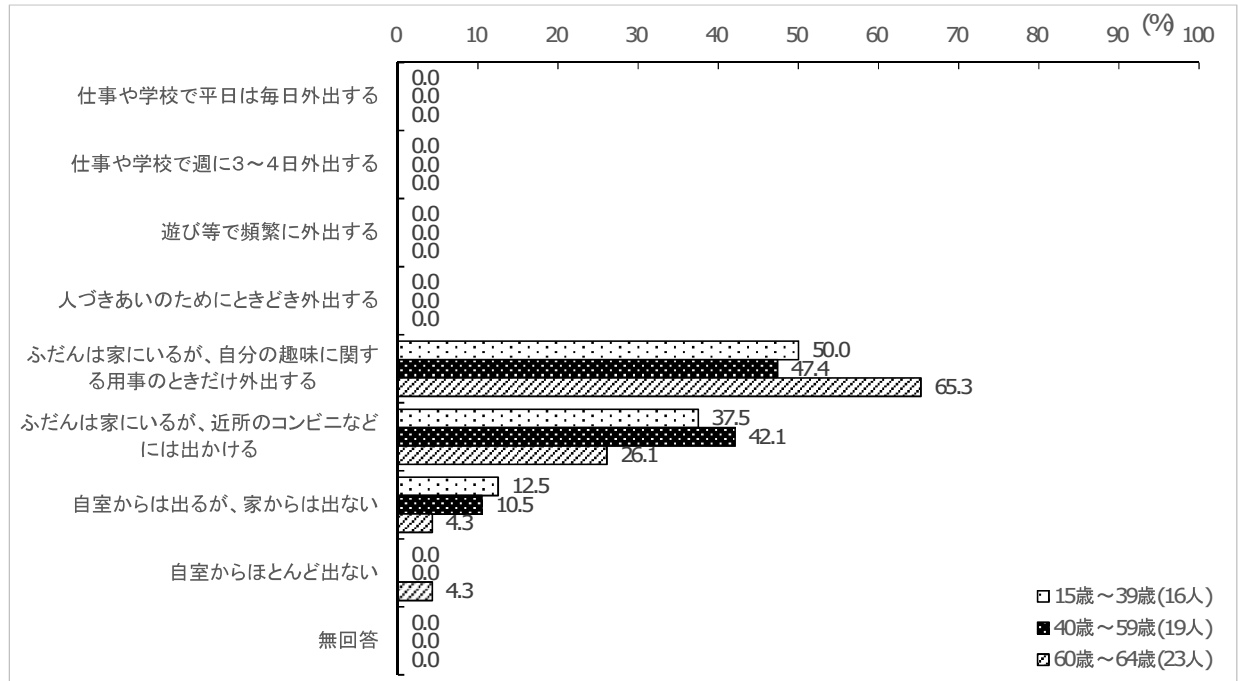


「テレビを見る」「新聞を見る」は高齢になるにつれて割合が多くなっている。「インターネット」「スマートフォン」は年代が若い方が多くなっている。

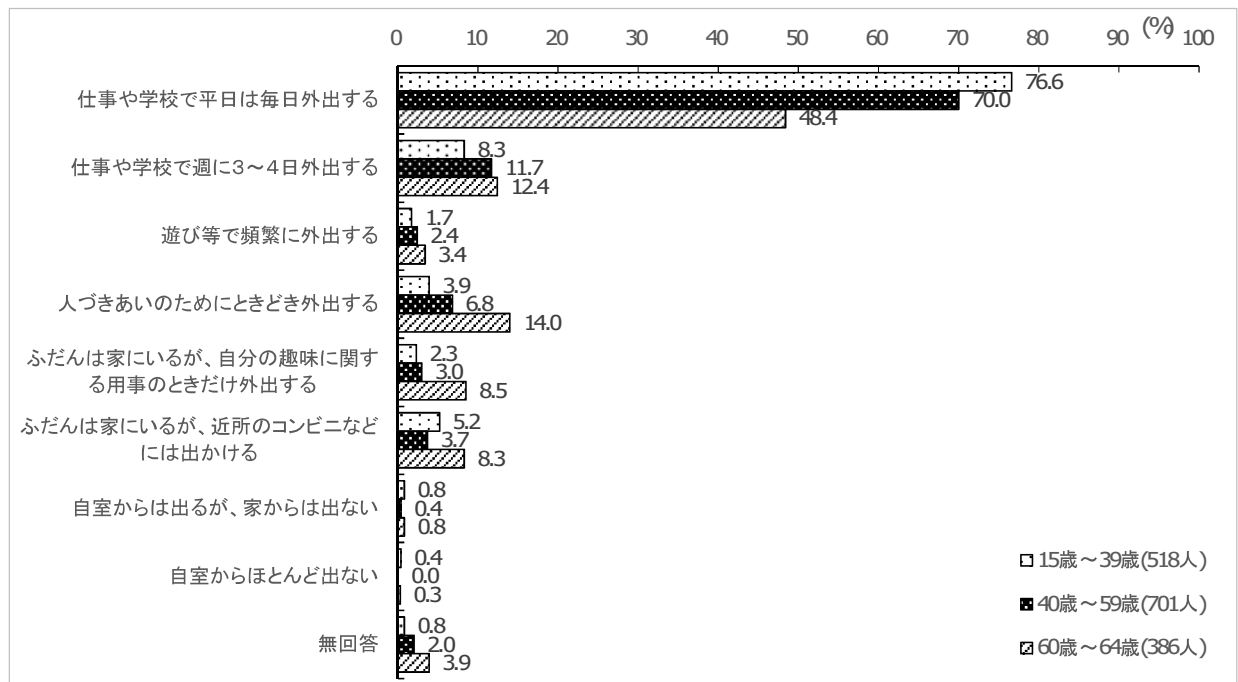
Q10 調査対象者の方は、ふだんどのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)

※Q10 の設問は、広義のひきこもり群を判定するために使用

広義のひきこもり群



一般群



本人回答よりも家族回答の方が「狭義のひきこもり」に該当する割合が多くなっている。(本人調査票Q17)

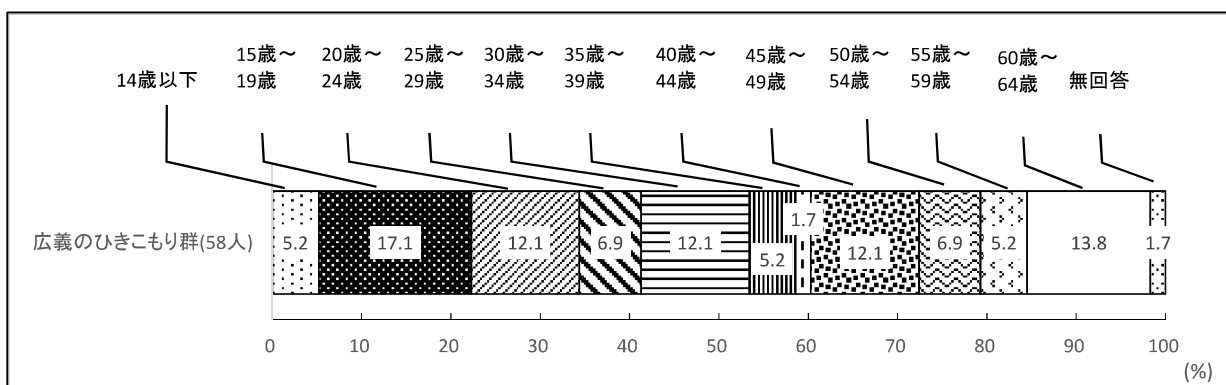
(5) 調査対象者のひきこもりの状態に関すること

※Q11～Q16 は、Q10において外出頻度が低かった回答者(「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」の選択者)のみが回答する項目となっている。

※本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

Q11 現在の状態になったのは、調査対象者の方が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

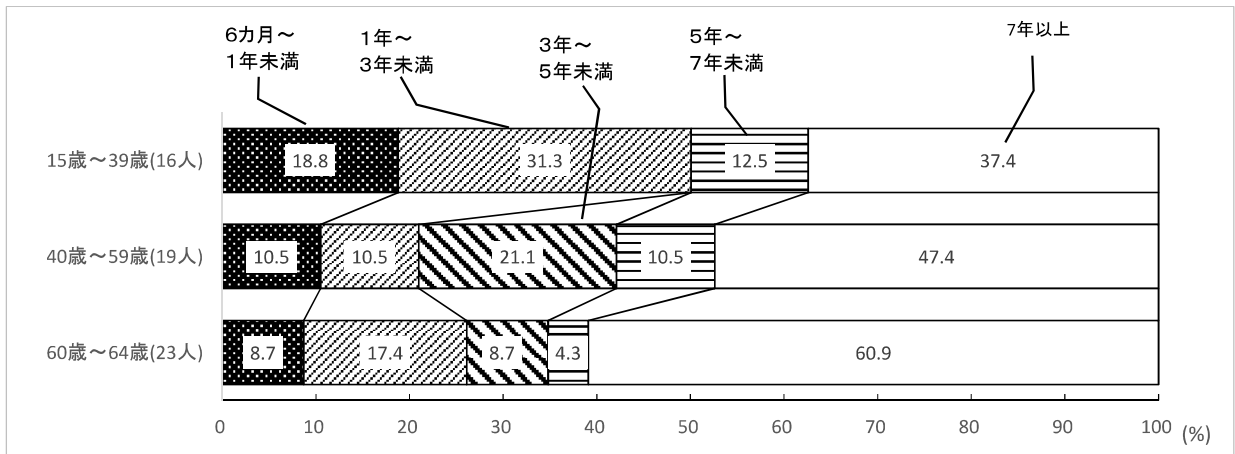
広義のひきこもり群



15歳～19歳までの割合が一番多い(17.1%)。

Q12 調査対象の方が現在の状態となってどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

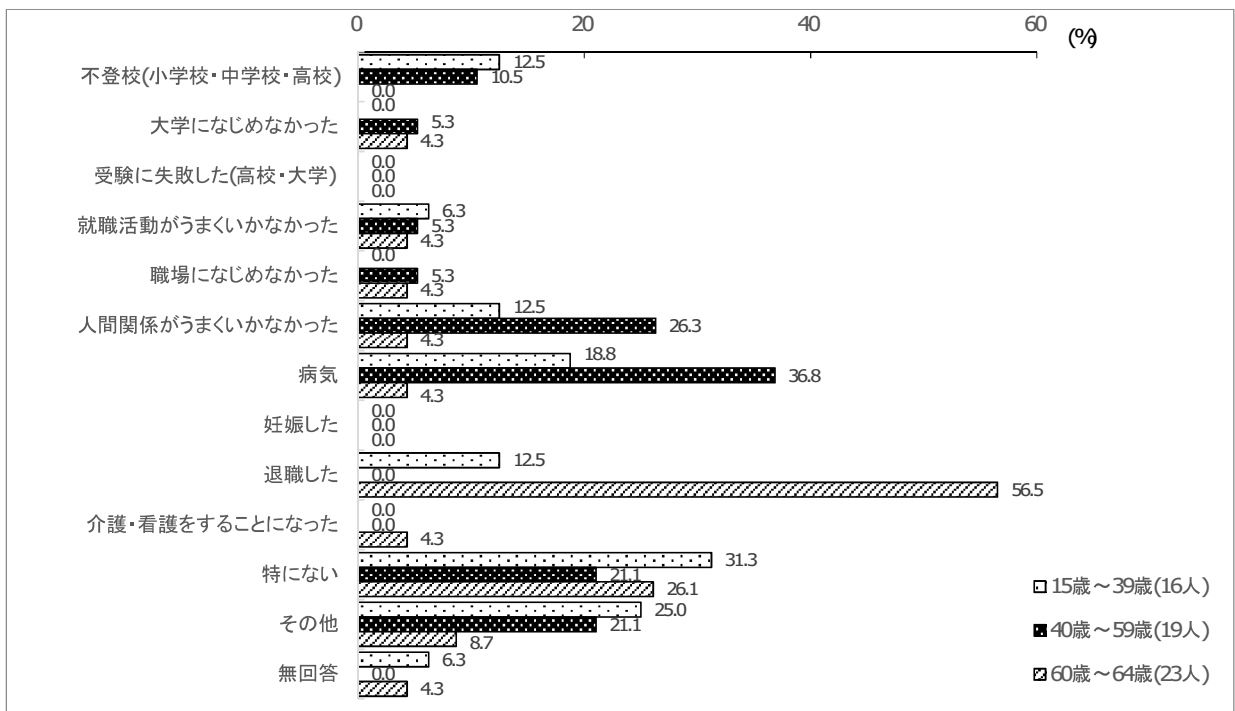
広義のひきこもり群



全年齢で「7年以上」が一番多かった。

Q13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何だと思いますか。(○はいくつでも)

広義のひきこもり群

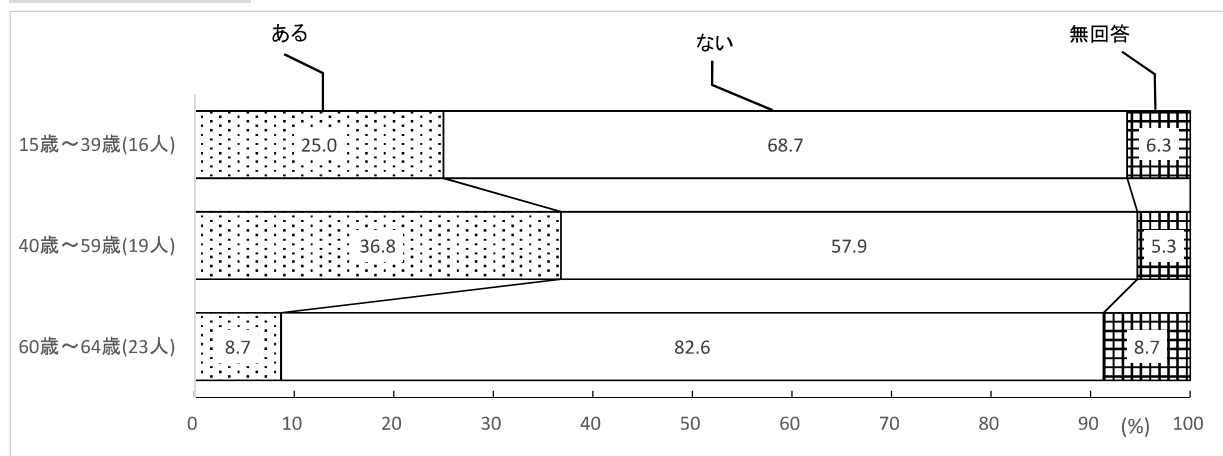


広義のひきこもり群の60歳～64歳では「退職した」が56.5%と多く、40歳～59歳では「病気」36.8%、「人間関係がうまくいかなかった」26.3%であった。

Q14 現在の状況について、調査対象の方が関係機関に相談したことはありますか。

(○はひとつだけ)

広義のひきこもり群

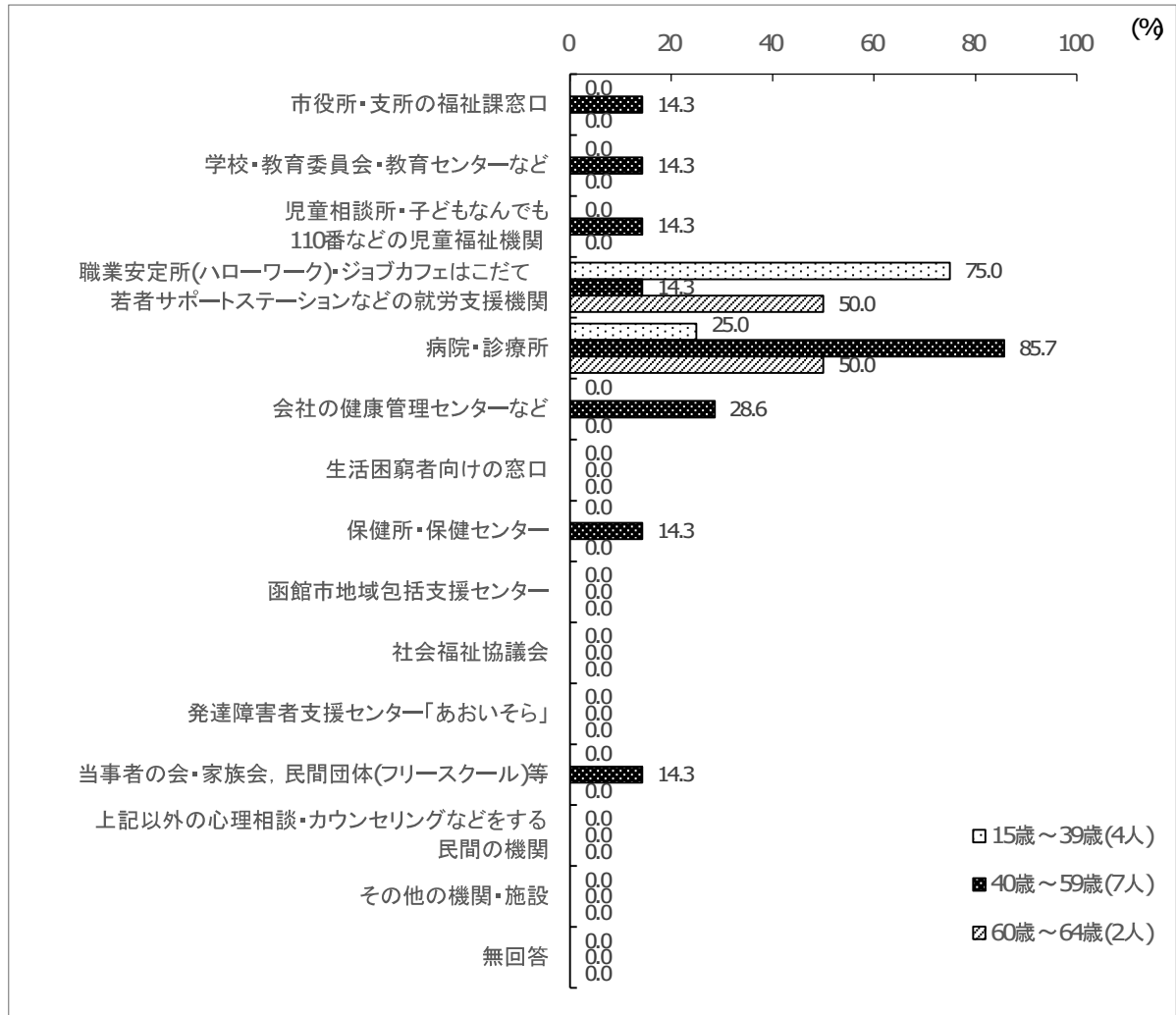


広義のひきこもり群では、調査対象者本人が相談したことが「ある」人が40歳～59歳では36.8%となっているが、60歳～64歳では8.7%と少ない割合となっている。

※SQ14-1 は、Q14 で「ある」の回答者のみ対象

SQ14-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことのある機関に○をつけてください。
(○はいくつでも)

広義のひきこもり群

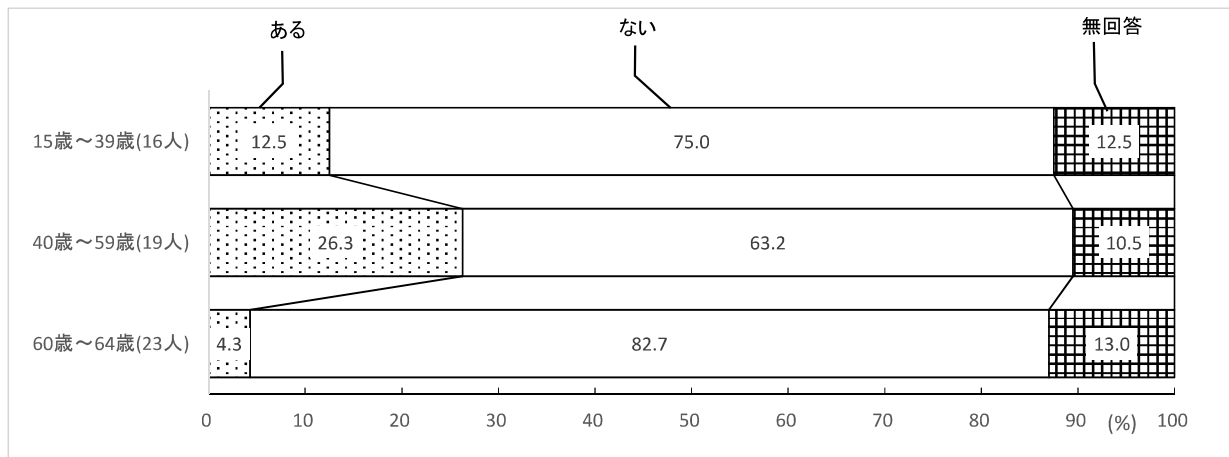


広義のひきこもり群の15歳～39歳では各種就労支援機関が75.0%と多い傾向が見られた。40歳～59歳は「病院・診療所」が85.7%と多くなっている。

(6) 相談機関に関すること

Q15 現在の状況について、調査対象者の方のご家族の方が関係機関に相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群

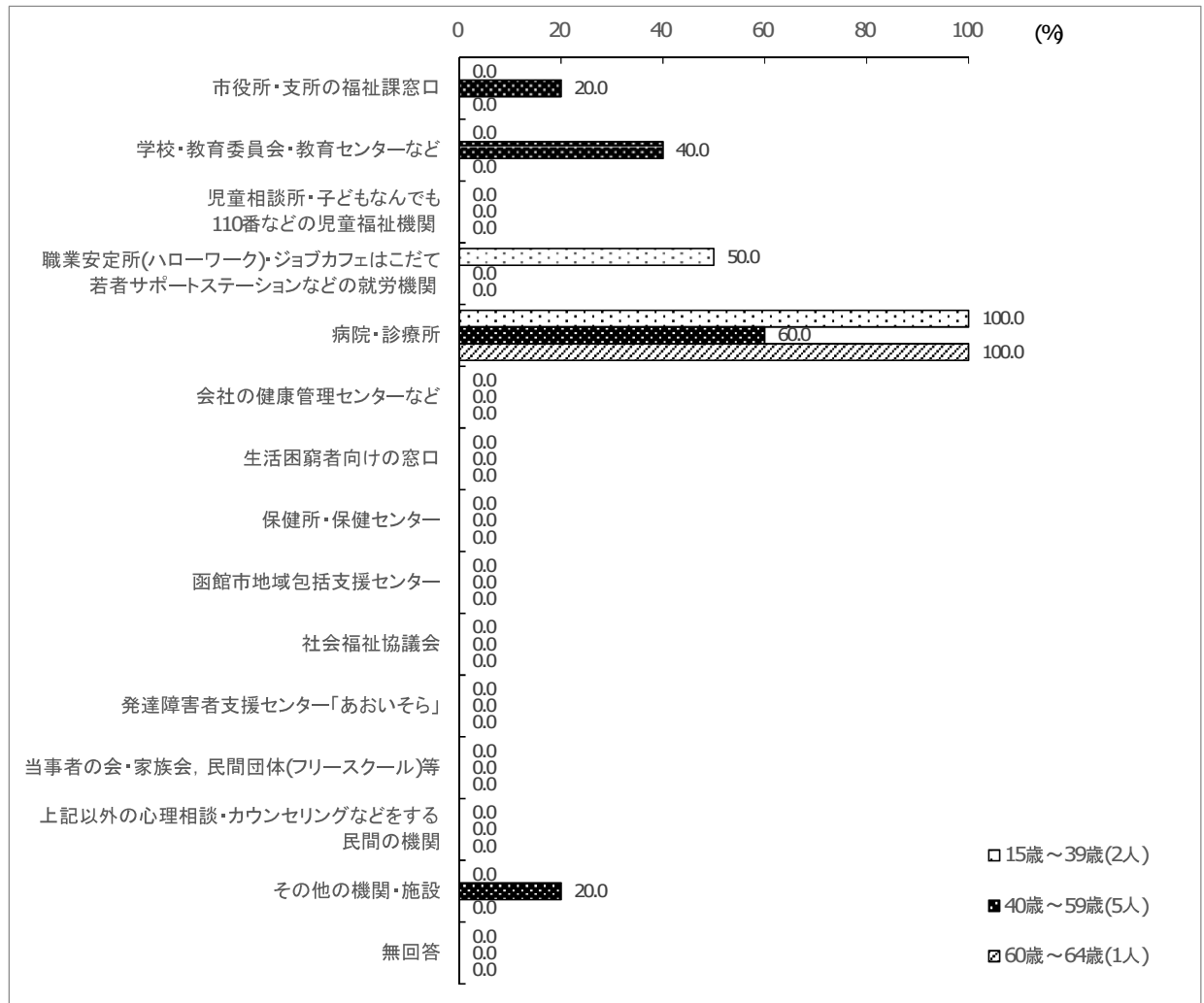


これまでの関係機関への相談の有無についてたずねたところ、各年代ともに「ない」との回答が多かった。

※SQ15-1, Q16 は, Q15 で「ある」の回答者のみ回答

SQ15-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことのある機関に○をつけてください。
(○はいくつでも)

広義のひきこもり群



広義のひきこもり群では、「病院・診療所」が全年齢で多くなっているが、該当数が少ないため、はっきりした傾向は読み取れない。

Q16 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

主な回答について以下に抜粋した。

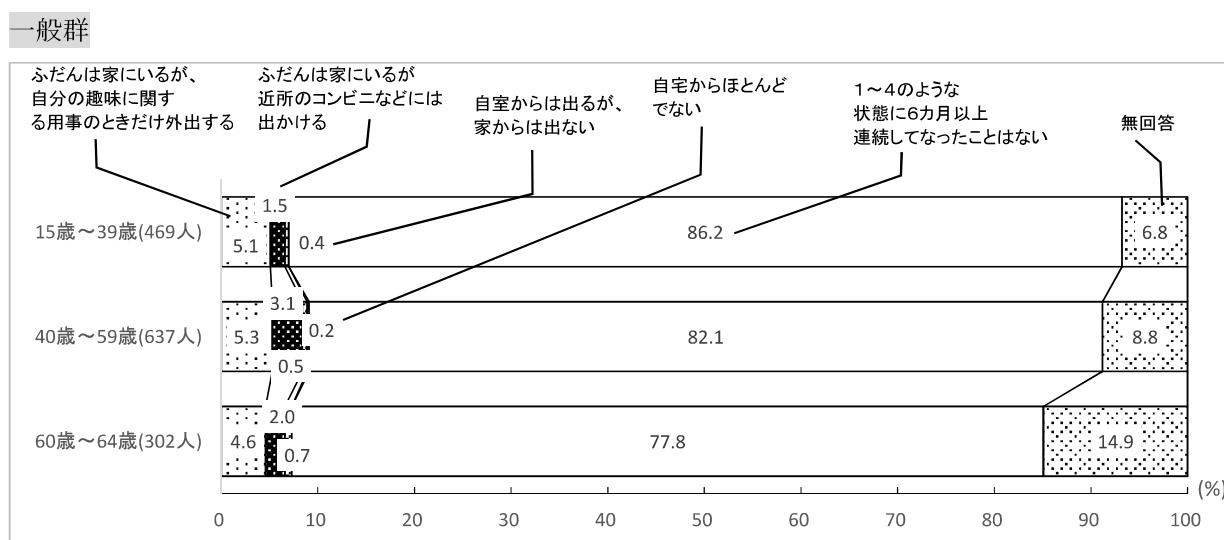
- ・地域の包括支援センターの内容をもっと高齢者の人々に宣伝し利用できるようにして欲しい。私も80歳越える高齢者ですがお隣の方（子どもなし）が倒れていても分からず吃驚する事が多々ある。（女性年齢未回答）
- ・新型コロナウイルスの関係で求人が無いがきちんと相談に乗ってくれている。とても感謝している。（男性60歳～64歳）
- ・趣味、スポーツ、料理、ウォーキング、登山等もっと具体的に働きかけて見てはどうでしょうか。メール、ライン等、またはインターネット等の活用。（男性55歳～59歳）
- ・薬による治療（眠剤・安定剤）のみで無く支援センター、作業場等で色々な体験をし、社会に出て欲しい。（本人が望んでいるが、なかなか機会が無い）（女性30歳～34歳）
- ・自死に至るのが最悪パターンとしての心配であったため、病院医師が障害者年金と障害者手帳の申請を進めて下さり気持ちが楽になり、当方の心的ストレスも少しだけ軽減された。（女性55歳～59歳）
- ・少しは気持ちが軽くなりました。周囲に相談する事は大事です。しっかりしたアドバイスは何より力になりアドバイスする方の人柄も大事です。難しい話をする方より周囲の能力に合わせた、説得力のある人望の方を選択するのが大事です。（女性60歳～64歳）
- ・病院受診は本人の気持ちが壊れないよう、先生と会話する事で心のつかえを吐き出す手口として利用するように言われております。現在は安定剤と睡眠導入剤使用継続中。学校責任者と常に情報交換し娘の状態によって登校のスケジュール調整して頂いております。（女性15歳～19歳）

(7) 調査対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること

※Q17～Q19は、Q10で「仕事や学校で平日は毎日外出する」、「仕事や学校で週に3～4日外出する」、「遊び等で頻繁に外出する」または「人づきあいのためにときどき外出する」の回答者のみ対象

Q17 調査対象者の方は今までに6か月以上連続して以下のような状態になったことはありますか。(○はひとつだけ)

※Q17の設問は、過去にひきこもり傾向があった人を把握するために使用

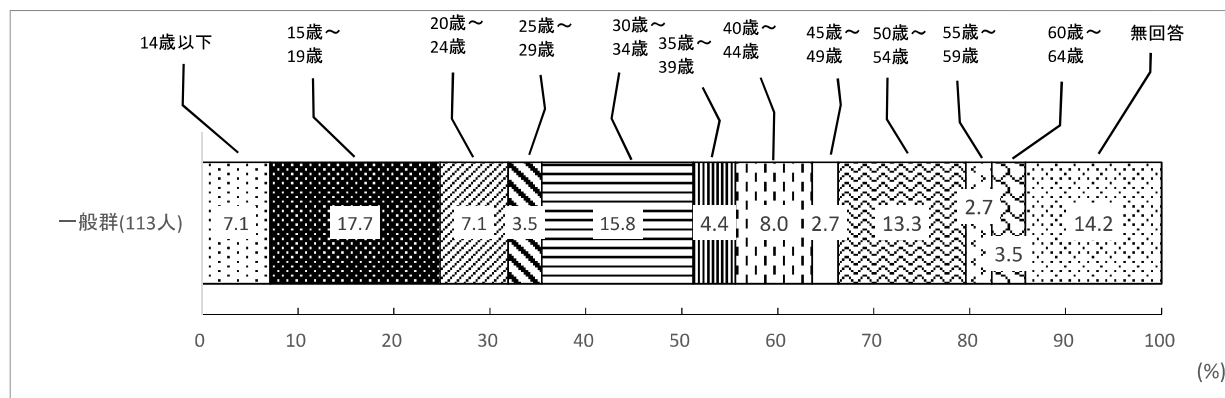


「ふだんは家にいるが自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が15歳～39歳(5.1%)、40歳～59歳(5.3%)、60歳～64歳(4.6%)と割合が多くはないが一定数いる傾向が見られた。

※Q18～Q19 は、Q17 で外出頻度が低かった回答者（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」の選択者）のみ対象

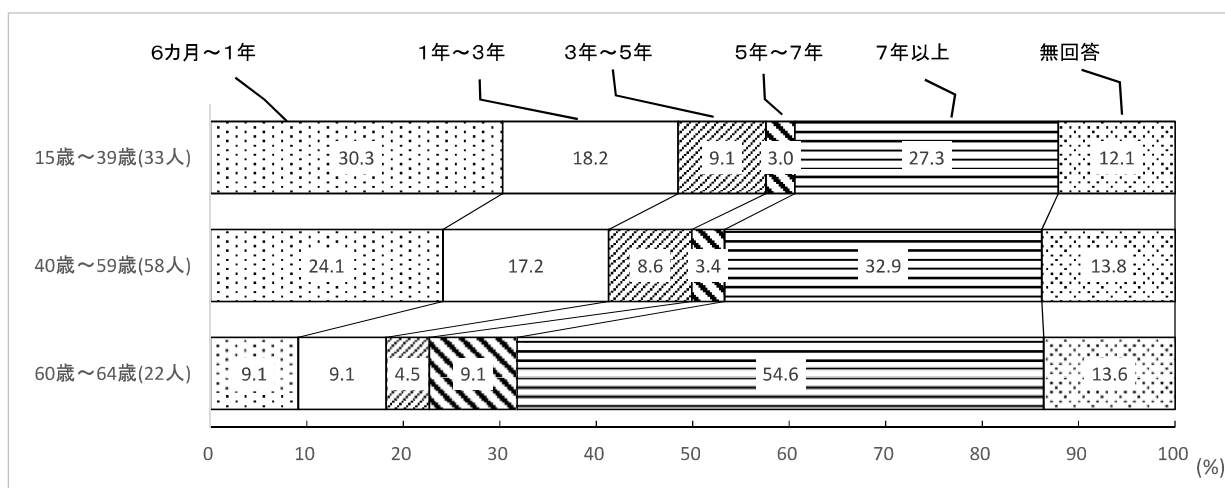
Q18 その状態になったのは、調査対象者の方が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

一般群



15歳～39歳が17.7%と最も多かった。

Q19 その状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

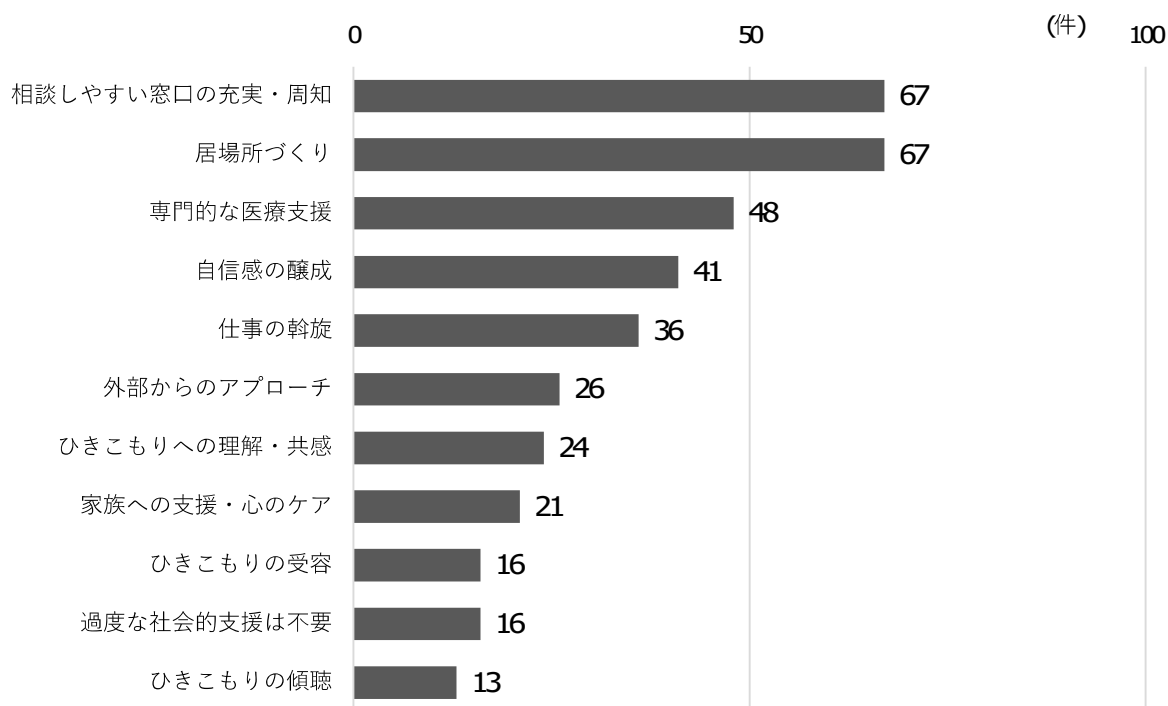


7年以上が15歳~39歳(27.3%)、40歳~59歳(32.9%)、60歳~64歳(54.6%)と年齢層が上がるにつれて増加傾向となっている。

(8) 身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方について

Q20 現在、函館市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、ご自由にお書きください。

回答内容を分類し、主な回答について以下に抜粋した。



相談しやすい窓口の充実・周知

- ・色々な支援が気軽に使える様に相談出来る場所を「市政はこだて」「FMいるか」等、皆が見聞き出来るもので知らせてあげると良いのではと考える。また、身体的病気以外の人達の支援には関わる者への支援も同時に行う必要があると考える。(男性 55歳～59歳)
- ・気軽に相談できるSNSでもあると今は良いのかもしれない。(男性 年齢回答なし)

居場所づくり

- ・気軽に外出できる環境を整えてみてはいかがでしょうか。(男性 50歳～54歳)
- ・病気でもなく介護認定もつかない親がいます。仕事を辞め友達も居らず配偶者も側に居ません。気軽に集まれるデイサービスの前段階のようなサークルがあれば良いと思います。(女性 25歳～29歳)
- ・子供の同級生の中には小学生・中学生の頃から不登校の子が数人います。家からあまり出ないようですが、友達が遊びに行くとゲームをして遊んでいたそうです。その様な子供達のため、学校以外の学び・友人との交流の場があったらいいと思います。それも市内に1か所ではなく行きやすいように数か所あったら良いと思います。(女性 45歳～49歳)

専門的な医療支援

- ・在宅カウンセラーや在宅医療など専門的な立場の人が家や電話で本人や家族を直接アプローチ出来る必要な支援に繋げられるような体制があると心強いと思う。(男性 35 歳～39 歳)

自信感の醸成

- ・私は生まれつき大きなアザがあり幼い頃から外出先での視線に苦労して来ました。私のように外見が気になって外出したくても出来ない人が少しでも減ってくれると嬉しいです。結局は本人達の強い意志が大切だと思いますし、そのように支援してくれるという気持ちだけで少しでも楽になれると思います。(女性 15 歳～19 歳)

仕事の斡旋

- ・自宅で働ける環境をもっと支援してあげても良い気がします。このアンケートだと外に出て働かないと、と感じ取れますが、世の中外に出なくてもあまり人と会わなくても出来る仕事があるので、もっと選択出来る環境を整備したらいかがでしょう。(女性 45 歳～49 歳)

外部からのアプローチ

- ・児童・社会人・高齢者のどの場合でも、その人の外出する時間を作るために負担を肩代わりする人材や相談出来る人、場所が近くにある事が大事だと考える。(女性 50 歳～54 歳)

ひきこもりへの理解・共感

- ・外出できない理由により支援の方法も変わるのでは。家族の手助けで解決出来る場合と、行政が関わらなければいけない事例の見極めが必要不可欠。行政の支援＝税金の使用と思うので、慎重な判断が必要だが早急な対応も要する場合もあると思う。(女性 45 歳～49 歳)

家族への支援・心のケア

- ・ひきこもり本人だけでなく家族の心のケアを行って欲しい。その状態を「仕方ない」と諦めているケースを聞いた事がある。家族だけで孤立しないケアが大切と思う。(女性 50 歳～54 歳)

ひきこもりの受容

- ・身体の病気でなければ心の病気なので環境を変えたり、心のケアをしてあげるべきと考えます。独りぼっちにならない環境をつくる。(女性 50 歳～54 歳)

過度な社会的支援は不要

- ・個人的な考えではあるが支援の必要はないと思う(市がやる事ではない)。家族がやる事と考える。(男性 45 歳～49 歳)

ひきこもりの傾聴

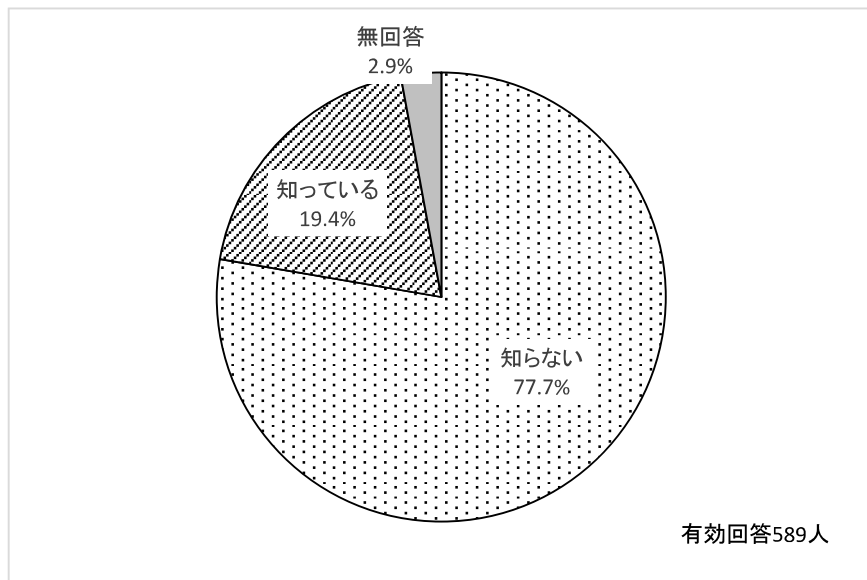
- ・無理に外出させるのではなく、その方達が興味を持つ事から少しずつ参加してもらい、同じ悩みを持つ方と知り合い友人となり、相談しあえるような場があれば良いなと思います。(男性 60 歳～64 歳)

V 民生委員・児童委員向けアンケート調査の結果

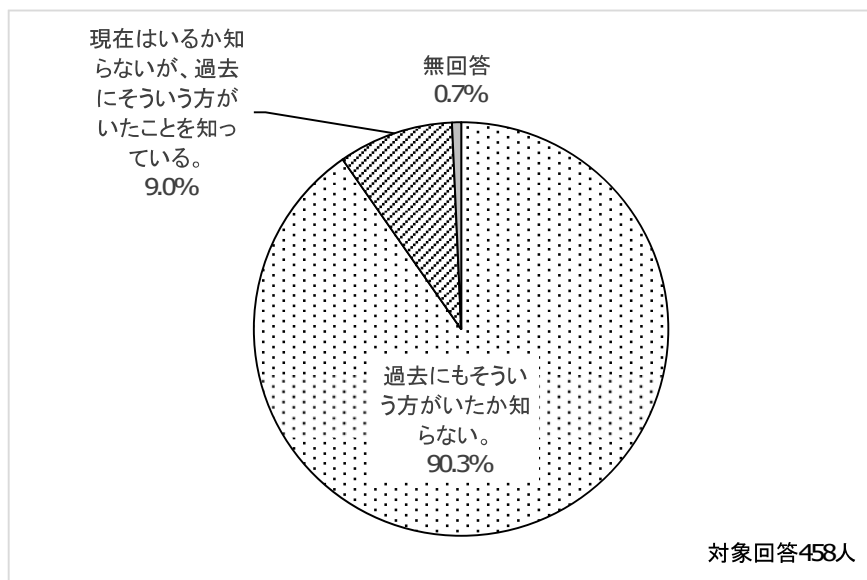
V 民生委員・児童委員向けアンケート調査の結果

(1) ひきこもり等の状態該当者について

問1 あなたが受け持っている地域に、ひきこもり等の状態にある方が現在おられるか知っていますか。



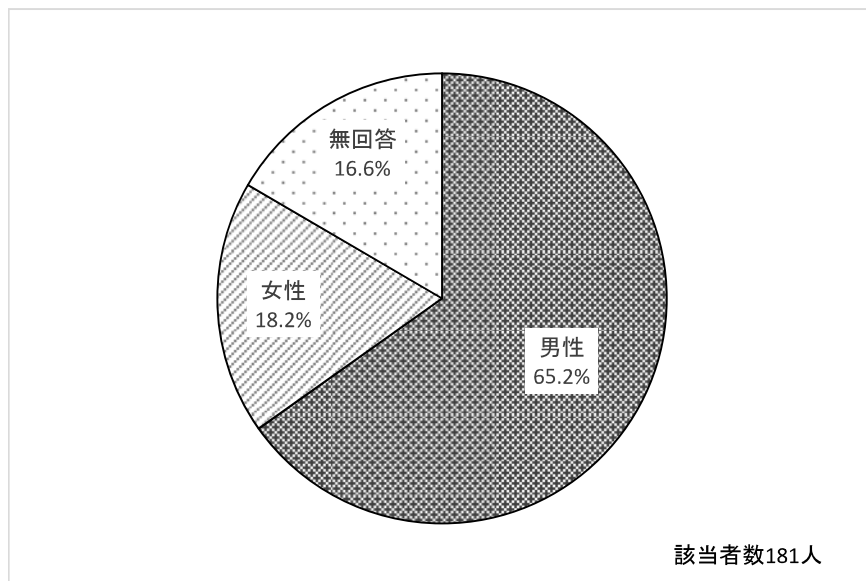
問2 問1で「知らない」とお答えの場合、過去の状況はいかがですか。



民生委員・児童委員がひきこもり等の状態にある人を知っていると答えたのは19.4%となった。現在は把握していないが過去にそういう方を知っているという方は9.0%となった。

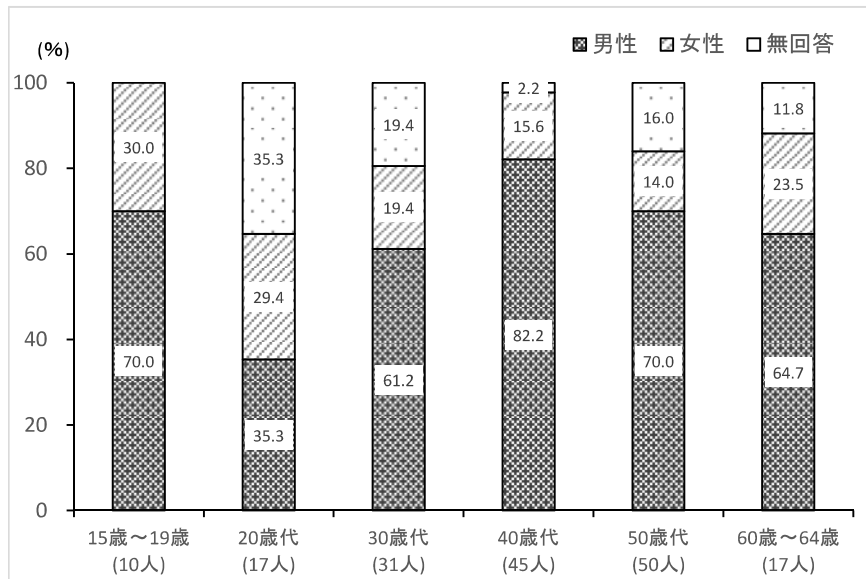
問3 問1で「知っている」とお答えの場合、その状況を教えてください。

1 該当する方の性別



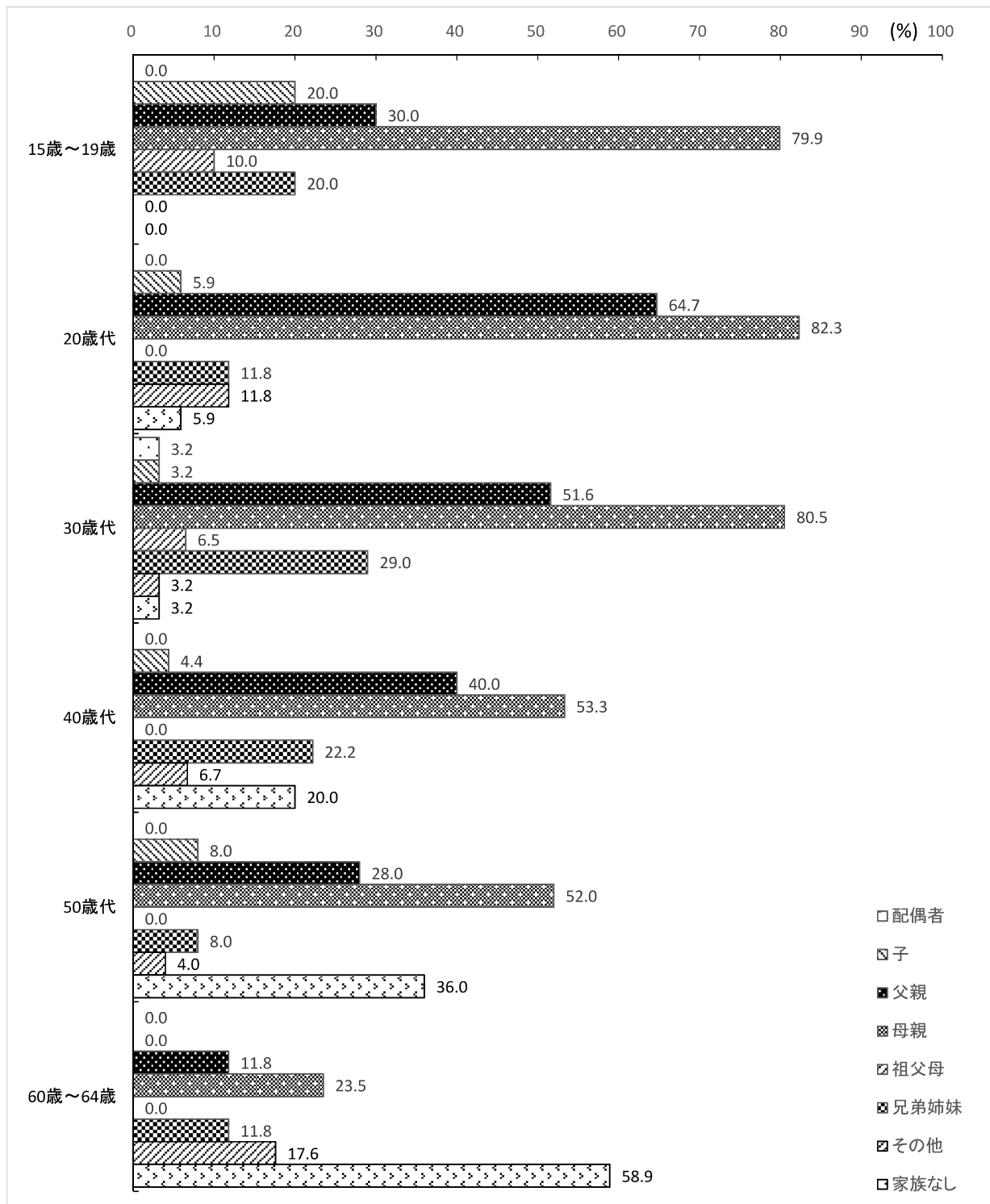
ひきこもり等の状態にある人を「知っている」と答えた人での男女比は、男性 65.2%、女性 18.2%と男性の比率の方が多くなった。

2 該当する方の年齢



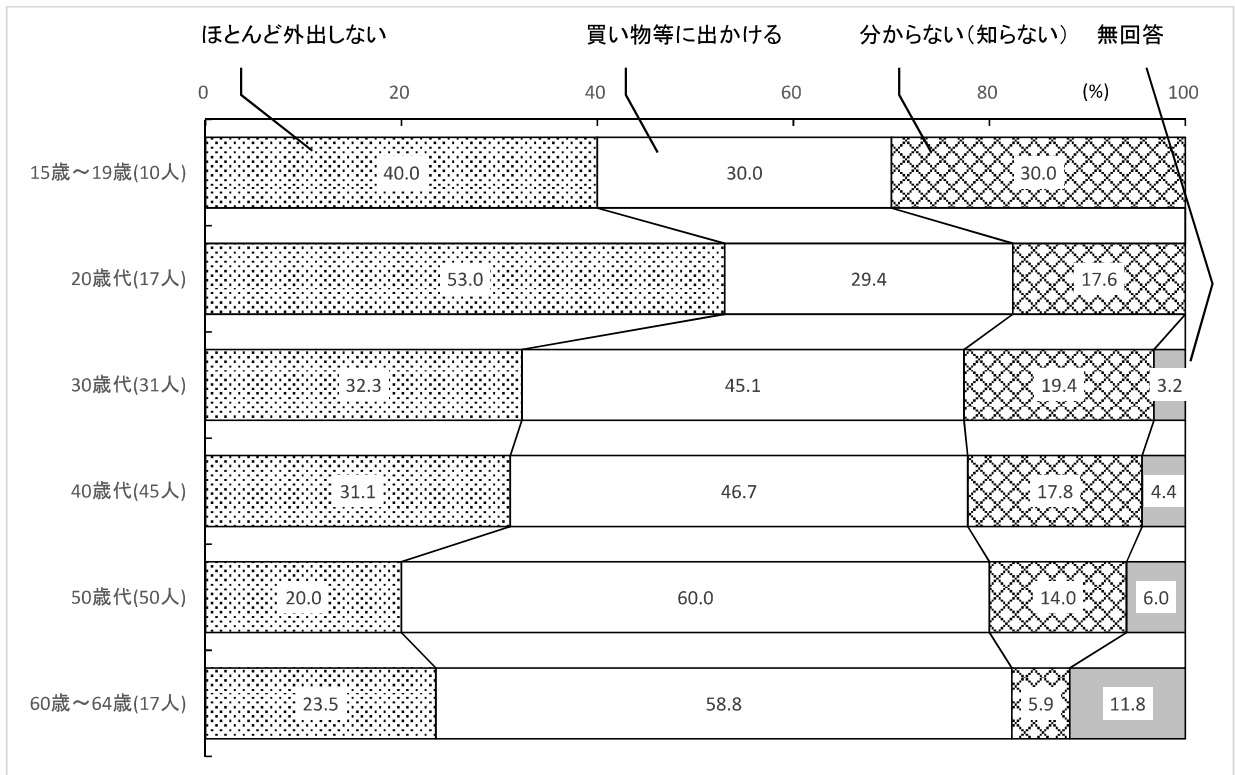
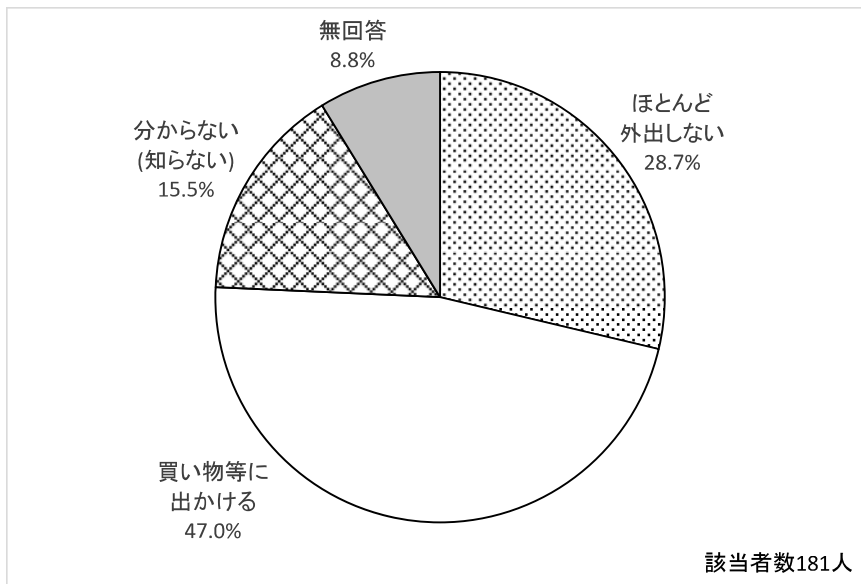
ひきこもり等の状態にある人の男女比はすべての年代において男性が高い傾向にあり、特に 40 歳代では男性 82.2%、女性 15.6%と男性が女性を大きく上回っている。

3 該当する方の家族構成



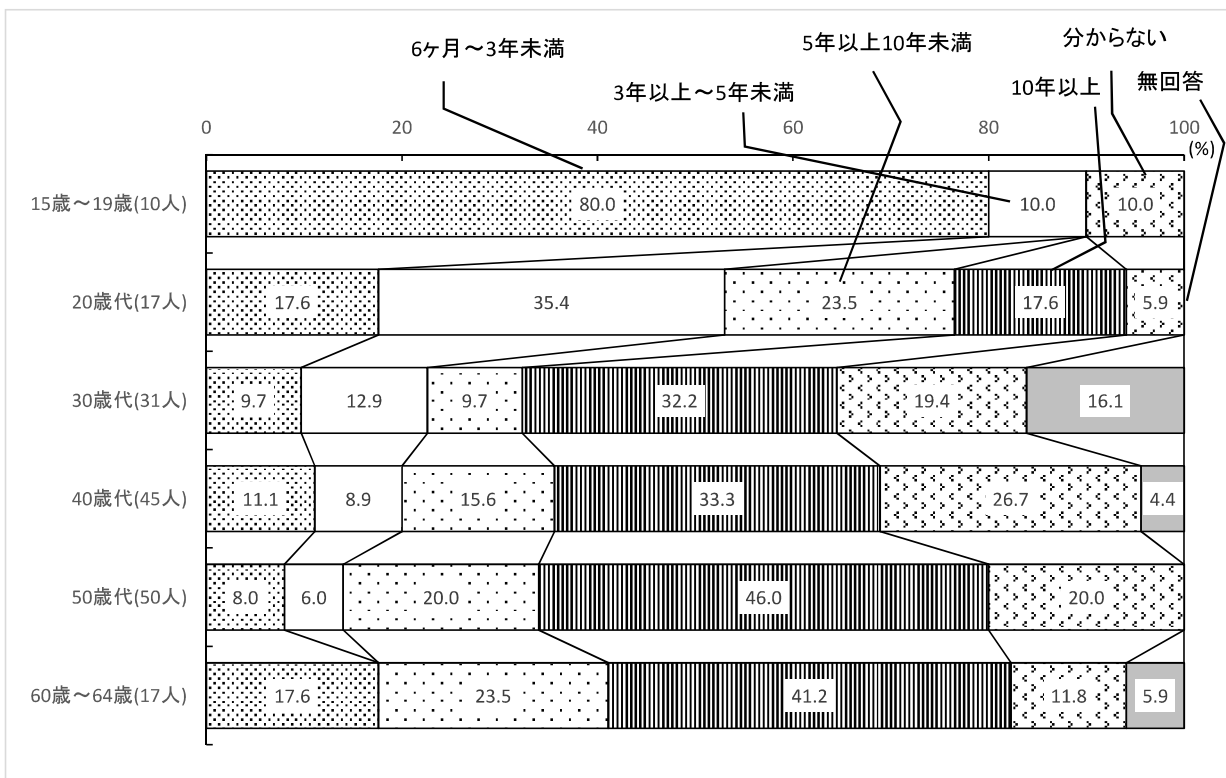
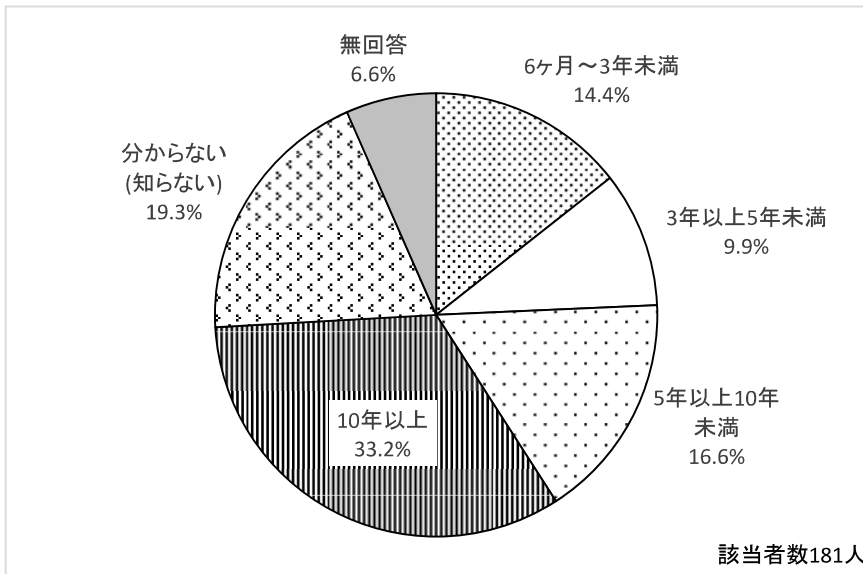
家族構成については、15歳～19歳から50歳代までは「母親」の割合が最も多かった。また40歳代から「家族なし」の割合が増え、60歳～64歳では58.9%と最も多くなっている。

4 該当する方の状況



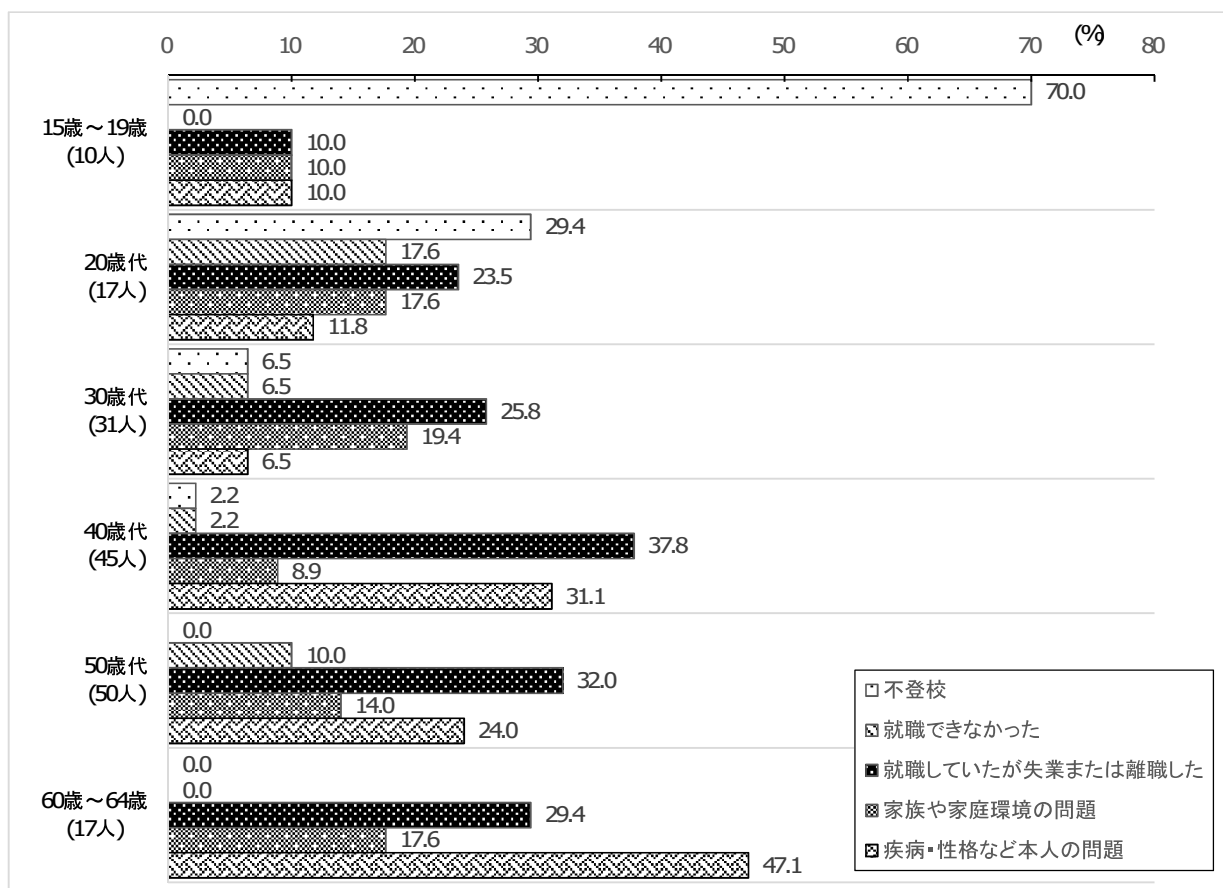
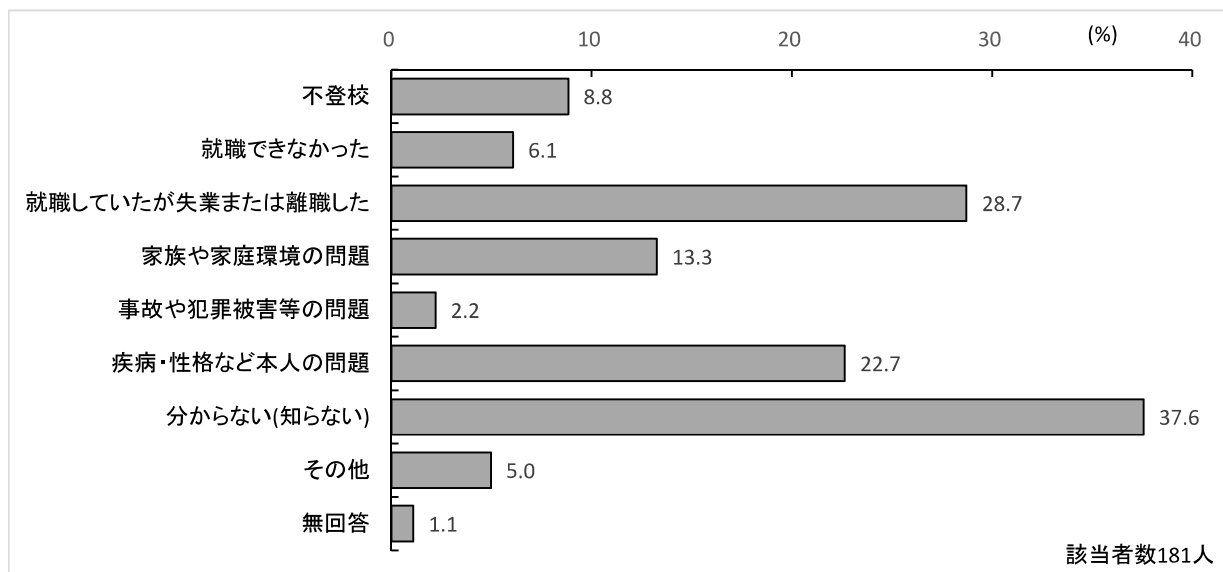
15歳～19歳および20歳代では「ほとんど外出しない」が一番多くなっている。その他の年代は「買い物等に出かける」が一番多くなっている。

5 ひきこもりの状態にある期間



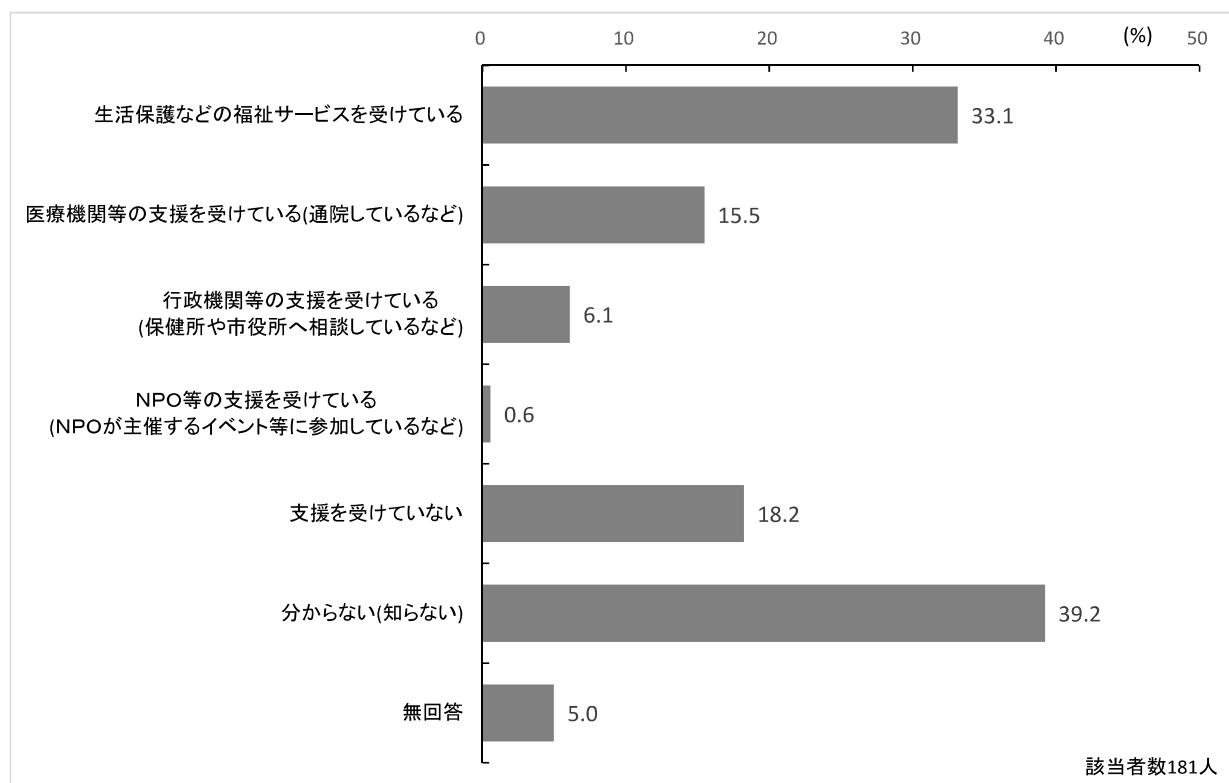
ひきこもりの状態にある期間は全体で10年以上が最も多い。年齢別に見ると30歳代以降で10年以上が多くなっており、高齢になるにつれて年数が増加傾向となっている。

6 ひきこもり等に至った経緯



ひきこもり等に至った経緯は、「分からない」を除いて「就職していたが失業または離職した」が28.7%、「疾病・性格など本人の問題」が22.7%となっている。年齢別に見ると15歳～19歳は「不登校」が一番多くなっており、30歳代～50歳代が「就職していたが失業または離職した」が一番多い。60歳～64歳になると「疾病・性格など本人の問題」が一番多くなる。

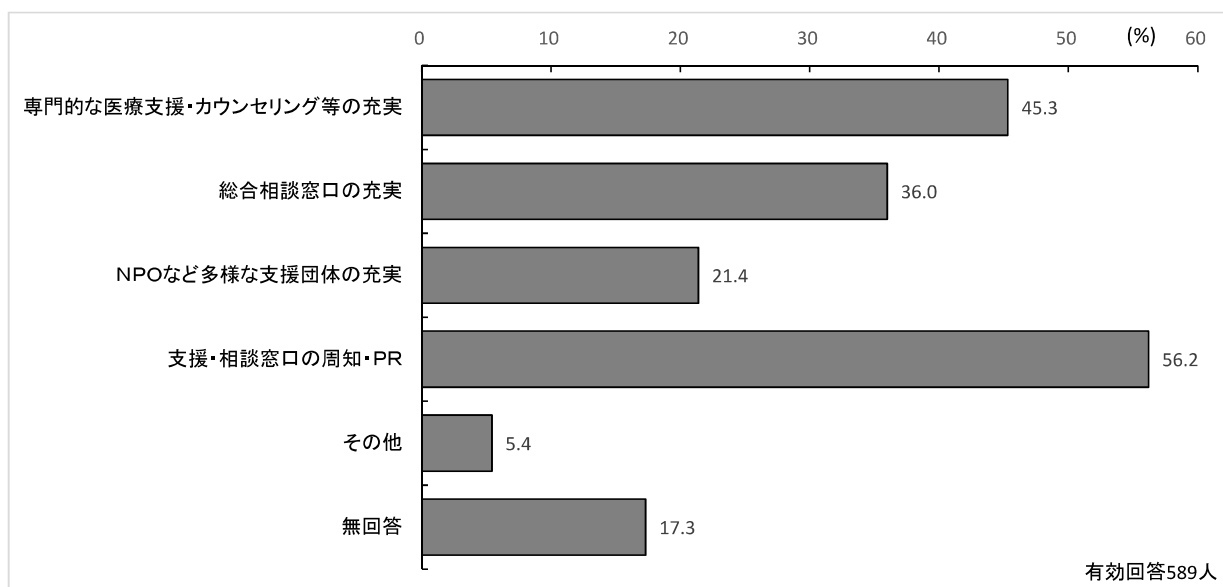
7 その方への支援状況



支援状況については、「生活保護などの福祉サービスを受けている」が33.1%で「分からない」を除いて一番多い。「支援を受けていない」は18.2%となっている。

(2) ひきこもり等の方への支援策

問4 受け持ちの地域のことにかかわらず、ひきこもり等の方への支援策として、必要と思われることをお答えください。



支援策として必要と思われることは、「支援・相談窓口の周知・PR」が56.2%で一番多い。対応施設等の充実も重要ではあるが、まず知ってもらうことが重要であると認識している人が多いと考えられる。自由回答からは、民生委員・児童委員としてひきこもり問題に関わっていくことの困難さを訴える回答も多く見られた。

自由回答

- ・ひきこもり者による親子の亀裂が社会問題になっているが個人情報保護がある旨、なかなか家庭内の状況が見えない。家族が相談機関に足を向けられるよう、周知・PRが必要と思われる。
- ・自分自身がひきこもりの相談窓口を知らなかったし専門家による支援が必要だと思うので、ひきこもり者数が増えている事は知っているが結局のところ家族や本人が困っている。また、どうしたいか具体的な思いが無ければ解決に至らないと思う。
- ・家族が隠したがるので相談出来る窓口を周知・PRして欲しい。現状ではほとんどが知らないのでは。

(3) その他、ご意見やお気づきの点について

問5 その他、ご意見やお気づきの点について、自由にお書きください

主な回答について以下に抜粋した。

- ・家庭内の事でなかなか実情が表面化してないと思いますが、相談窓口では実情把握しかできないような気がしますので具体的に動いてくれそうなNPOなどの支援が有効かと思います。
- ・ひきこもりになっている人は自分で相談などできない、家族に支援や相談窓口がある事、気軽に相談出来る事を誰でも出入りする場所や、スーパー等の掲示板を利用してPRする事が良いのではないかな。
- ・「ひきこもりの家族が居る」という実態は同居している家族が誰かに相談等しなければ知る事ができないのではないかなと思う。どうすると気付いてあげる事ができるか、力になってあげる事ができるのか良い考えが全く浮かびません。家族にひきこもりが居るという事は本当に大変であろうと思います。
- ・人生を生きるには時間が掛かると思います、時間を止めてゆっくりとひきこもりもありと思います。そしてゆっくり話せるようになったらとにかく話を聞いてみる事。あしなさい、こうしなさいではなく受け入れる事が大切だと思います。
- ・行政に相談に行かれた家族の方には行政の方から民生委員を紹介して頂くという形もあればこちらでも動きやすいと思います。ご本人に直接の支援はできなくても家族の方への声がけなどはできます。そこから繋がっていく事もあるのではと思います。
- ・民生委員、町内会、消防団、地域包括支援センター、訪問介護ステーション、訪問リハビリ等を統括するシステム構築。
- ・学校等にも専門の相談員が常駐していれば目配り気配りができるのではないかな。
- ・ひきこもっている人をまず、部屋から出すにはどうしたら良いかな。本人の話を十分に聞いてから、ひきこもり状態から脱却させ、次に医療なりカウンセリングなり生活支援なりの一連の方向性を位置づけて取組ませていく体制が必要だと思う。専門的知識を持った人が沢山必要となるのではないかな。また実際に行動するメンバーも必要だ。

各調査の調査票

各調査の調査票

市民の生活状況に関する調査(ご本人様用)

函館市では、このたび、15歳から64歳までの函館市民の中から無作為に5,000人を選び、ご本人とご家族の方を対象に、市民の皆様の日常生活の状況などについてお伺いする調査を実施しております。調査結果につきましては、函館市の今後の施策運営などの基礎資料とさせていただきます。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう全体を集計します。また、回答内容や個人情報(上記目的以外)に使用されたり、外部に漏れたりすることはありません。

質問数が多く、記入時間が長くなると思いますが、以下の注意事項をお読みいただき、すべての質問にご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

【記入上のお願ひ】

- 1) この調査票には封筒の宛名のご本人がお答えいただけますようお願いいたします。なお、ご記入にあたっては、ご家族、ご友人に代筆していただいても結構です。また、同居している方(親、配偶者、子など)につきましては、別添「調査票(ご家族様用)」にお答えいただけますようお願いいたします。
- 2) ご記入は、鉛筆または黒、青のペン、ボールペンでお願いいたします。
- 3) 回答に迷う場合は、あなたの気持ち、考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- 4) 調査票にも、返信用封筒にも、お名前を記入していただく必要はありません。
- 5) ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、7月31日(金)までにポストに入れてください。切手は不要です。

令和2年6月30日

【調査依頼機関】 函館市 保健福祉部 障がい保健福祉課
函館市東雲町4番13号

【調査実施機関】 (株)リージャスト
お問い合わせ [REDACTED]
(フリーアクセス・料金はかかりません)
受付時間 9:00~17:00(土日祝を除く)
(但し、12:00~13:00を除く)

回答は、あてはまるものに○印をつけてください。また、その他にあてはまる場合には、その内容を()内に具体的に記入してください。

【Q1からQ12はすべての方がお答えください。】

Q1 あなたの性別をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 男性
2. 女性

Q2 あなたの年齢(令和2年4月1日現在)をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 15歳~19歳
2. 20歳~24歳
3. 25歳~29歳
4. 30歳~34歳
5. 35歳~39歳
6. 40歳~44歳
7. 45歳~49歳
8. 50歳~54歳
9. 55歳~59歳
10. 60歳~64歳

Q3 現在、あなたと同居している方に○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 祖父母
5. 配偶者
6. 子
7. その他()
8. 同居家族はいない

Q4 現在、同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)

人

Q5 あなたの家の生計を立てているのは、主にあなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 祖父母
5. 配偶者
6. 子
7. その他()
8. 生活保護などを受けている
9. あなた自身

Q6 あなたがお住まいの町名に○をつけてください。(○はひとつだけ)

1. 西 部	入舟町, 船見町, 弥生町, 弁天町, 大町, 末広町, 元町, 青柳町, 谷地頭町, 生吉町, 宝来町, 東川町, 豊川町, 大手町, 栄町, 旭町, 東雲町, 大森町
2. 中央部第1	松風町, 若松町, 千歳町, 新川町, 上新川町, 海岸町, 大幡町, 松川町, 万代町, 中島町, 千代台町, 福川町, 高盛町
3. 中央部第2	宇賀浦町, 日乃出町, 的場町, 金堀町, 広野町, 大川町, 田家町, 白鳥町, 八幡町, 宮前町, 時任町, 杉並町, 本町, 梁川町, 五稜郭町, 柳町, 松陰町, 人見町, 乃木町, 柏木町
4. 東 央 部 第 1	川原町, 深堀町, 駒場町, 湯浜町, 湯川町1～3丁目, 花園町, 日吉町1～4丁目
5. 東 央 部 第 2	戸倉町, 榎本町, 上野町, 高丘町, 滝沢町, 見晴町, 鈴蘭丘町, 上湯川町, 銅山町, 旭岡町, 西旭岡町1～3丁目, 鱒川町, 貴沢町, 三森町, 紅葉山町, 庵原町, 亀尾町, 米原町, 東畑町, 鉄山町, 戴富野町, 根崎町, 高松町, 志海苔町, 瀬戸川町, 赤坂町, 銭亀町, 中野町, 新湊町, 石倉町, 古川町, 豊原町, 石崎町, 鶴野町, 白石町
6. 北 東 部 第 1	雷岡町1～3丁目, 中道1～2丁目, 鍛冶1～2丁目
7. 北 東 部 第 2	美原1～5丁目, 赤川1丁目, 赤川町, 亀田中野町, 北美原1～3丁目, 石川町, 昭和1～4丁目
8. 北 東 部 第 3	山の手1～3丁目, 本通1～4丁目, 陣川1～2丁目, 陣川町, 神山1～3丁目, 神山町, 東山1～3丁目, 東山町, 亀田大森町, 水元町
9. 北 部	淺野町, 吉川町, 北浜町, 港町1～3丁目, 追分町, 桔梗1～5丁目, 桔梗町, 亀田町, 西桔梗町, 昭和町, 亀田本町, 亀田港町
10. 東 部	小安町, 小安山町, 釜谷町, 汐首町, 瀬田来町, 弁才町, 泊町, 館町, 浜町, 新一見町, 原木町, 丸山町, 日浦町, 吉畑町, 豊浦町, 大瀬町, 中浜町, 女那川町, 川上町, 日和山町, 高岱町, 日ノ浜町, 古武井町, 蕨山町, 柏野町, 柏崎町, 蕨山岬町, 元村町, 富浦町, 島泊町, 新蕨山町, 絵紙山町, 新八幡町, 新浜町, 鏡子町, 古部町, 木直町, 尾札部町, 川波町, 安浦町, 白尻町, 豊崎町, 大船町, 双泉町, 岩戸町

Q7 これまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。

通院・入院したことの病気に○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 心臓や血管の病気	4. 精神的な病気	7. 骨折・大ケガ
2. 肺の病気	5. 目・耳の病気	8. その他()
3. 胃や腸の病気	6. 皮膚の病気	9. あてはまるものはない

Q8 あなたは現在、学校に通っていますか。(○はひとつだけ)

1. 現在通学している 2. すでに卒業している 3. 中退した 4. 休学中

Q9 あなたが最後に卒業した(中退を含む)、または、現在、在学(休学中を含む)している学校はどれですか。

(○はひとつだけ)

1. 中学校	3. 専門学校	5. 4年制大学・大学院
2. 高等学校	4. 高等専門学校・短期大学	6. その他

Q10 あなたは、小学校や中学校の頃に学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 友達とよく話した	7. いじめを見て見ぬふりをした
2. 親友がいいた	8. 我慢をすることが多かった
3. 友達といるよりも一人で遊んで	9. 学校の勉強についていけなかった
いる方が楽しかった	10. 学校の先生との関係がうまくいかなかった
4. 不登校を経験した	11. 先輩や後輩との関係がうまくいかなかった
5. 友達をいじめた	12. あてはまるものはない
6. 友達にいじめられた	

Q11 あなたは、小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1. 親とは何でも話すことができた | 11. 引越しや転校をした |
| 2. 親のしつけがかなり厳しかった | 12. 大きな病気をした |
| 3. 困ったときは、親は親身に助言してくれた。 | 13. 両親が離婚した |
| 4. 何でも自分一人で決めて、家族に相談する
ことはなかった | 14. 親と死別した |
| 5. 将来の進路などを親に決められていた | 15. 親から虐待を受けた |
| 6. 家族に相談しても、あまり役に立たなかった | 16. 親が過保護であった |
| 7. 親は学校の成績を重視していた | 17. 親が過干渉であった |
| 8. 小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加
していた | 18. 経済的に苦しい生活を送った |
| 9. 親と自分との関係がよくなかった | 19. 我慢をすることが多かった |
| 10. 両親の関係がよくなかった | 20. 毎日、家の手伝いをさせられた
かった |
| | 21. 十分な食事を食べることができな
かった |
| | 22. あてはまるものはない |

Q12 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

- | | |
|--------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 勤めている(正社員) | 7. 派遣会社などに登録しているが、
現在は働いていない |
| 2. 勤めている(契約社員、派遣社員または
パート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)) | 8. 無職 |
| 3. 自営業・自由業 | |
| 4. 専業主婦・主夫または家事手伝い | |
| 5. 学生(予備校生を含む) | |
| 6. その他() | |
- 次のいずれかに○を付けた方は、次ページの Q16 へお進みください。

このいずれかに○を付けた方は、次ページの Q16 へお進みください。

【Q12で、7 または 8 とお答えになった方のみ、Q13～Q15に回答してください。】
Q13 あなたは今までに働いたことはありますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|---------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 正社員として働いていた | 3. 自営業・自由業をしていた |
| 2. 契約社員、派遣社員または
パート・アルバイトとして働いていた
(学生時代の経験は含めません) | 4. その他の形態で働いていた |
| | 5. 働いたことはない |

Q14 現在、就職または進学を希望していますか。(○はひとつだけ)

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| 1. 就職希望 | 2. 進学希望 | 3. どちらも希望しない |
|---------|---------|--------------|

Q15 現在、就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

【Q16～Q17はすべての方がお答えください。】

Q16 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|
| 1. テレビを見る | 5. ゲームをする | 9. インターネットをする |
| 2. ラジオを聴く | 6. 勉強をする | 10. スマートフォン(スマホ)
※ メール・SNS・LINE 等 |
| 3. 本を読む | 7. 仕事を
する | 11. 家族と話を
する |
| 4. 新聞を読む | 8. 家事・育児を
する | 12. あてはまるものはない |

Q17 ふだんどのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| 1. 仕事や学校で平日は毎日外出する | 5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する
用事の時だけ外出する |
| 2. 仕事や学校で週に3～4日外出する | 6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなど
には出かける |
| 3. 遊び等で頻繁に外出する | 7. 自宅からは出るが、家からは出ない |
| 4. 人づきあいのためにときどき外出する | 8. 自宅からほとんど出ない |
- このいずれかに○を付けた方は
次ページの Q18 へお進みください。

このいずれかに○を付けた方は、8ページの Q24 へお進みください。

【Q17で、5～8に○をつけた方のみ、Q18～Q23の質問に回答してください。】

Q18 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

--	--

歳の頃

Q19 現在の状態となつてどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 6カ月未満 | 4. 3年～5年未満 | 7. 10年以上 |
| 2. 6カ月～1年未満 | 5. 5年～7年未満 | |
| 3. 1年～3年未満 | 6. 7年～10年未満 | |

Q20 現在の状態になつたきっかけは何だと思つてますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 不登校(小学校・中学校・高校) | 7. 病気
(病名:) |
| 2. 大学になじめなかった | 8. 妊娠した |
| 3. 受験に失敗した(高校・大学) | 9. 退職した |
| 4. 就職活動がうまくいかなかった | 10. 介護・看護をすることになった |
| 5. 職場になじめなかった | 11. 特にない |
| 6. 人間関係がうまくいかなかった | 12. その他
() |

Q21 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか。

(○はひとつだけ)

- | | | | |
|----------|-------|---------|---------|
| 1. 非常に思う | 2. 思う | 3. 少し思う | 4. 思わない |
|----------|-------|---------|---------|

Q22 現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いませんか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-------------------------------------|
| 1. 親身に話を聞いてくれる | 7. 無料で相談できる |
| 2. 医学的な助言をくれる | 8. 公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体(NPO など)である |
| 3. 心理学の専門家がいる | 9. 自宅に専門家が来てくれる |
| 4. 精神科医がいる | 10. 自宅から近い |
| 5. 同じ悩みを持つ人と出会える | 11. あてはまるものはない |
| 6. 匿名で自分の名前を知られずに相談できる | |
- Q23へ

SQ22-1 相談したくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 自分のことを知られたくない | 5. 行ったことを人に知られたくない |
| 2. 行っても解決できないと思う | 6. お金がかかると思う |
| 3. 何をきかれるか不安に思う | 7. 相談機関が近くにない |
| 4. 相手にうまく話せないと思う | 8. その他
() |
| | 9. 特に理由はない |

Q23 現在の状態について、関係機関に相談したことはありますか。

(○はひとつだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|
- 10ページのQ29へ

SQ23-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したところのある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 市役所・支所の福祉課窓口 | 8. 保健所・保健センター |
| 2. 学校・教育委員会・教育センターなど | 9. 函館市地域包括支援センター |
| 3. 児童相談所・子どもなんでも110番などの児童福祉機関 | 10. 社会福祉協議会 |
| 4. 職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェはこたて若者サポートステーションなどの就労機関 | 11. 発達障害者支援センター |
| 5. 病院・診療所 | 12. 当事者の会・家族会、民間団体(フリー)など |
| 6. 会社の健康管理センターなど | 13. 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをすすめる民間の機関 |
| 7. 生活困窮者向けの窓口(具体的に:) | 14. その他の機関・施設 |

【これ以降の質問(Q29～Q31)はすべての方がお答えください。】

Q29 次におられることについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。
(○は各項目につき、ひとつだけ)

1. 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われたら、ひどく動揺(どうよう)する
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
2. 人といると、馬鹿にされたり、軽く扱われはしないかと不安になる
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
3. 周りの人に自分が変な人と思われているのではないかと不安になる
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
4. 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
5. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
6. 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
7. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
8. 人とのつきあいが不器用なのではないかと悩む
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
9. 自分の感情を素に出すのが苦手だ
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
10. 周りの人ともめごとが起ったとき、どうやって解決したらいいかわからない
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ
11. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい
1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

12. 自分の生活のことで人から干渉されたくない

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

13. 家や自室に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちがわかる

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

1. はい 2. どちらかといえば はい 3. どちらかといえば いいえ 4. いいえ

Q30 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思えますか。(○はひとつだけ)

1. 非常に思う 2. 思う 3. 少し思う 4. 思わない

Q31 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------|--------------------|----------------------|
| 1. 親 | 5. 祖父母 | 9. 都道府県、市町村などの専門機関の人 |
| 2. きょうだい | 6. 学校の先生 | 10. ネット上の知り合い |
| 3. 友人・知人 | 7. 職場の同僚・上司 | 11. その他の人 () |
| 4. 配偶者 | 8. カウンセラー・
精神科医 | 12. 誰にも相談しない |

【質問は以上で終了です。

たくさんの方の質問にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。】

Q14 現在の状況について、調査対象者の方が関係機関に相談したことはありますか。
(○はひとつだけ)

1. あり 2. ない

→ Q15 へ

SQ14-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○を一つつけてください。(○はいくつでも)

1. 市役所・支所の福祉課窓口
2. 学校・教育委員会・教育センターなど
3. 児童相談所・子どもなんでも110番などの児童福祉機関
4. 職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ「あおいそら」
はこだて若者サポートステーションなどの就労機関
5. 病院・診療所
6. 会社の健康管理センターなど
7. 生活困窮者向けの窓口
8. 保健所・保健センター
9. 函館市地域包括支援センター
10. 社会福祉協議会
11. 発達障害者支援センター「あおいそら」
12. 当事者の会・家族会、民間団体(フリースクール)など
13. 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
14. その他の機関・施設
(具体的に:)

Q15 現在の状況について、調査対象者の方のご家族の方が関係機関に相談したことはありますか。(○はひとつだけ)

1. あり 2. ない

→ 6ページのQ20 へ

SQ15-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 市役所・支所の福祉課窓口
2. 学校・教育委員会・教育センターなど
3. 児童相談所・子どもなんでも110番などの児童福祉機関
4. 職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ「あおいそら」
エはこだて若者サポートステーションなどの就労機関
5. 病院・診療所
6. 会社の健康管理センターなど
7. 生活困窮者向けの窓口
8. 保健所・保健センター
9. 函館市地域包括支援センター
10. 社会福祉協議会
11. 発達障害者支援センター「あおいそら」
12. 当事者の会・家族会、民間団体(フリースクール)など
13. 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
14. その他の機関・施設
(具体的に:)

Q16 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。
ご自由にお書きください。

→ 次ページのQ20 へ

【Q10で、1～4に○をつけた方のみ、Q17～Q19の質問に回答してください。】

Q17 調査対象者の方は今までに6カ月以上連続して以下のような状態になったことはありますか。(○はひとつだけ)

1. ふだんは家にいるが、自分の趣味に 関する用車のときだけ外出する	5. 1～4のような状態に6カ月以上 連続してなかったことはない
2. ふだんは家にいるが、近所のコン ビニなどには出かける	→ Q20へ
3. 自宅からは出るが、家からは出ない	
4. 自宅からほとんど出ない	

Q18 その状態になったのは、調査対象者の方が何歳の頃ですか。

(数字で具体的に)

--	--

歳

Q19 その状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

1. 6カ月～1年	4. 5年～7年
2. 1年～3年	5. 7年以上
3. 3年～5年	

【これ以降の質問はすべての方がお答えください。】

Q20 現在、函館市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、ご自由にお書きください。

【質問は以上で終了です。

たくさんの方のご協力いただきまして、誠にありがとうございました。】

ひきこもりに関する実態調査（民生委員・児童委員）

日頃より本市の保健福祉施策にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、全国的にひきこもりの長期化や高齢化が問題になっていることを踏まえ、ひきこもり等の困難を抱えている市民の実態および当事者のニーズや課題等を把握し、現状を分析することで、本市におけるひきこもり等に係る施策展開のための基礎資料として活用するため、民生委員・児童委員の皆様を対象に下記のとおりひきこもりの実態調査を実施することとしました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、

7月31日(金)までにポストに入れてください。切手は不要です。

※この調査に回答するための個別訪問は不要です。

令和2年6月30日

【調査依頼機関】 函館市 保健福祉部 障がい保健福祉課
函館市東雲町4番13号

【調査実施機関】 (株)リージャスト
お問い合わせ
（フリーアクセス・料金はかかりません）
受付時間 9:00～17:00（土日祝を除く）
（但し、12:00～13:00を除く）

令和2年7月1日現在の情報で記入してください。

問1 あなたが受け持っている地域に、下記に該当する方、またはこれに類似する方が現在おられるか知っていますか。

年齢がおおむね15歳から64歳までの方で次のいずれかに該当する方
①社会参加(仕事・学校・家庭以外の人の交流など)ができない状態が6カ月以上続いて、自宅に引きこもっている状態の方
②社会参加ができない状態であるが、時々買い物や自分の趣味のために外出することもある方
※ただし、重度の障害や疾病のため外出できない方を除きます。

◆ A、Bいずれか該当する項目を○で囲んでください。

A 知らない ⇒ 問2にお進みください。

B 知っている ⇒ 問3にお進みください。

※ 上記に準ずる方で、民生・児童委員の皆様から見えて心配な方、また、家族の方からご相談があった経験のある方についても、「B 知っている」をお選びください。

※ 詳しい状況は知らないが、もしかしたら該当するかもしれないという方がいるという場合にも、「B 知っている」をお選びください。

質問	記載例	該当者A	該当者B	該当者C
6 ひきこもり等に至った経緯 ①不登校 ②就職できなかった ③就職していたが失業 または離職した ④家族や家庭環境の問題 ⑤事故や犯罪被害等の問題 ⑥疾病・性格など本人の問題 ⑦分からない(知らない) ⑧その他()内に簡単に ご記入ください。	①・② ③・④ ⑤・⑥ ⑦・⑧	①・② ③・④ ⑤・⑥ ⑦・⑧	①・② ③・④ ⑤・⑥ ⑦・⑧	
7 その方への支援状況 (複数回答可) ① 生活保護などの福祉 サービスを受けている ② 医療機関等の支援を 受けている(通院するなど) ③ 行政機関等の支援を 受けている(保健所や 市役所へ相談しているなど) ④ NPO等の支援を受けて いる(NPOが主催する イベントに参加しているなど) ⑤ 支援を受けていない ⑥ 分からない(知らない)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
B その他 ※気になる点、補足等をご自由にご記入ください。	親が子どものひきこもりを懸念しており、支援を受けずにいる。			

問4 受け持ちの地域のことにかかわらず、ひきこもり等の方への支援策として、必要と思われることをお答えください。

◆ A～Eの該当する項目を○で囲んでください。(複数回答可)

- A 専門的な医療支援・カウンセリング等の充実
- B 総合相談窓口の充実
- C NPOなど多様な支援団体の充実
- D 支援・相談窓口の周知・PR
- E その他

上記の支援策が必要だと思われる理由を簡単に記入ください。

問5 その他、ご意見やお気づきの点について、自由にお書きください

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和2年度
市民の生活等に関する調査結果報告書

令和2年11月発行

編集 函館市保健福祉部障がい保健福祉課 発行 函館市

函館市東雲町4番13号